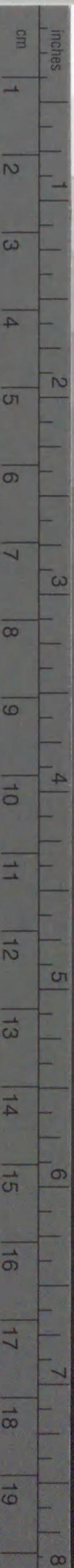


# Kodak Gray Scale



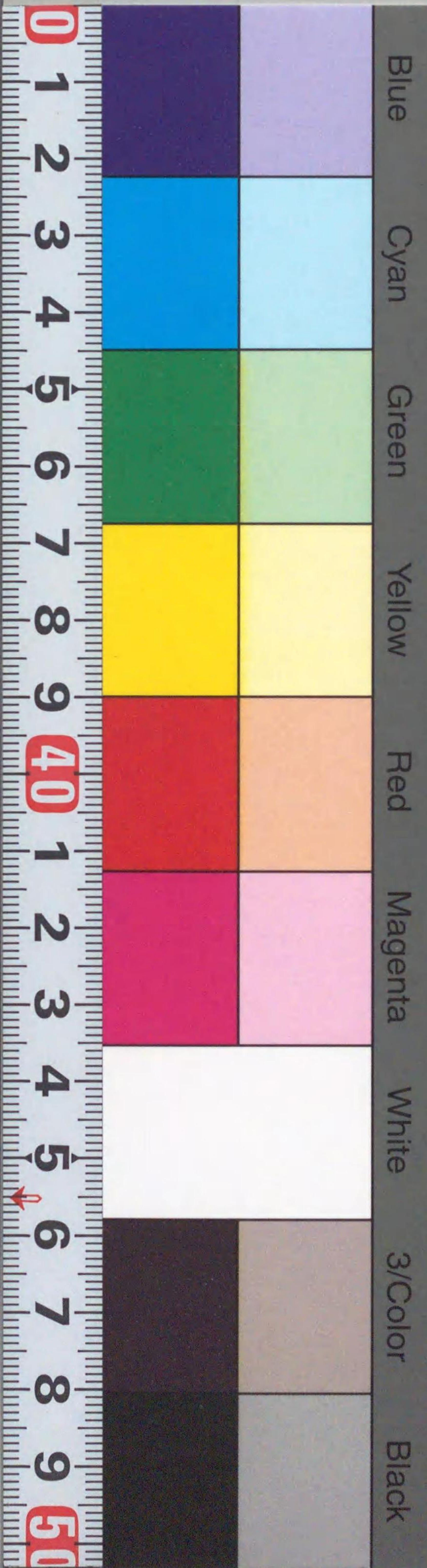
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

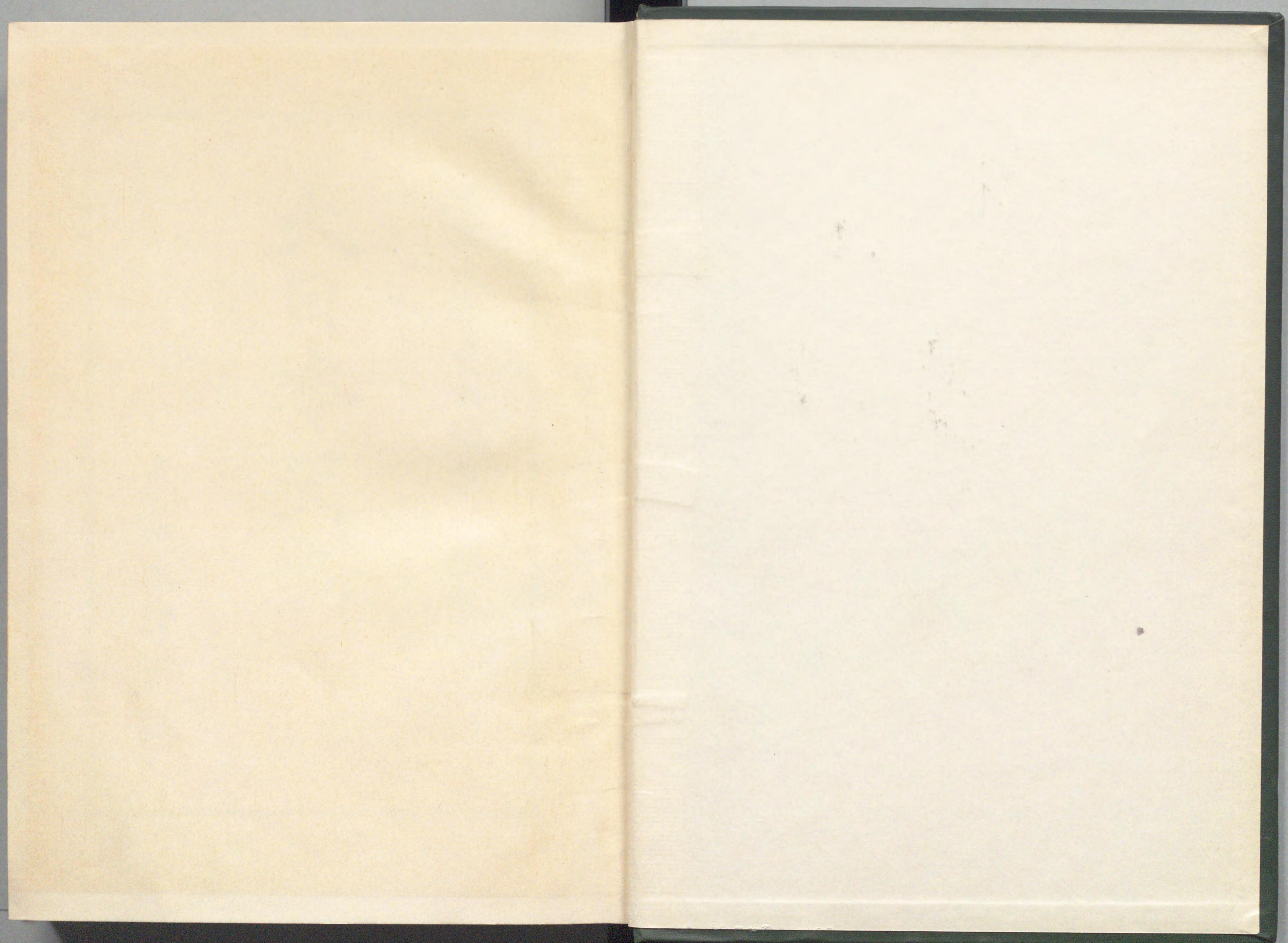


GB22

7









東京大學史料編纂所編纂

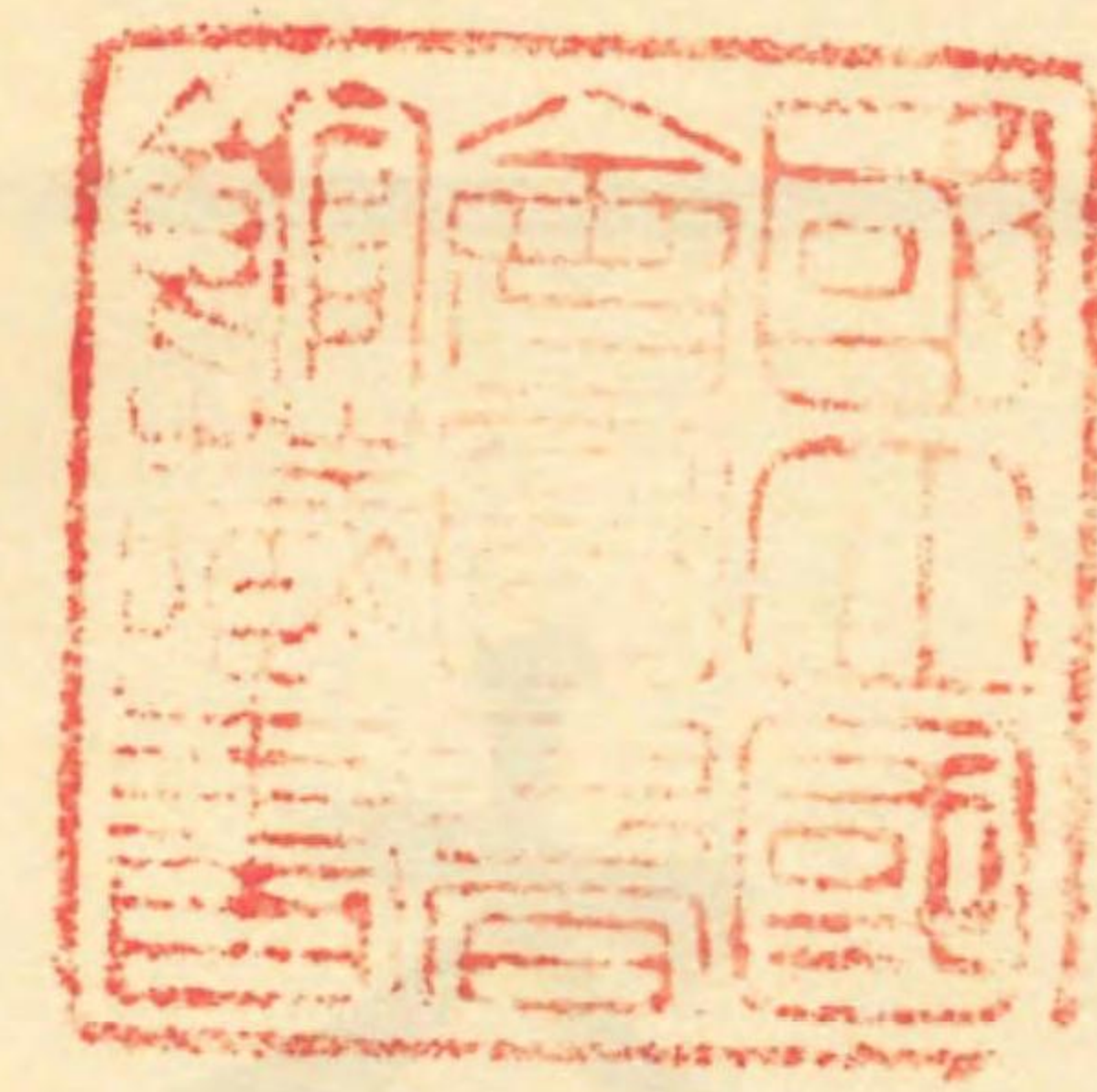
# 大日本史料

第十一編  
之十一

東京大學藏版



~~210.08~~  
~~To 456a~~  
GB22  
7



498596

# 大日本史料

## 第十一編之十一目次

正親町天皇

天正十二年

年末雜載

天文、氣象、災異、	.....	一
神社、	.....	三
佛寺、	.....	一三
禁中、公家、	.....	二九
武家、	.....	二六七
醫藥、治療、疾病、死歿、	.....	三三
學藝、遊戲、	.....	三九一

(目次終)

目次 天正十二年雜載



# 大日本史料 第十一編之十一

正親町天皇

天正十二年甲申

年末雜載

天文、氣象、災異、

〔公卿補任〕

五十  
正親町院下

正月十六日、夜月三ニ破散、成火消云々、

〔兼見卿記〕

六

四月五日、辛亥、雨降、風吹、若葉吹落、十月邊如落葉、

〔多聞院日記〕

卅一  
〇大和

正月十三日、今曉大雷、大雨降消肝了、去八日ニモ日中過ニ

大雷、雨ハ不下、

十五日、月六ノ過ニ夜明テ御入、尤珍重々々、西收心安々々、

二月七日、

一、去月事歟、江州セタノ橋ノ下ニ十二・三ナル禿申云、三世世ハタ、ク埒ノミシタル分カ

大雷

天正十二年雜載



德ヨト往來ノ人ニ申ス、水上ニアリテ申間、アヤシミテテツハウニテサレトモイタマ  
 スシテ見失云々、奇異ノ事、大凶事、如何、世ハ此分ニテ不可有久敷事ト聞ヘタリ、  
 十七日、靈供備御墓へ參了、雷電消肝、指雨ハ不下、  
 三月十四日、天氣快然、以之外寒、雨氣ナレトモ不下、  
 十九日、夜大風吹、明テ止、雨降了、宿見廻ニ來、餅一重被持了、  
 十二月廿六日、

奈良猿澤池  
變異

一、近般猿澤池水色カヘリ、シフ色越常篇了、前々モ如此雖在之、不苦トハ申ナカラ無  
 心元者也、

〔家忠日記〕 三 正月廿八日、丙午、夜大雨降、

二月廿三日、庚午、大雨降、水出候、

〔舜舊記〕 一 七月廿八日、當所小町燒亡、在家七間燒了、

〔西岩殿寺文書〕 五 阿蘇山上宮奇瑞記拔書

天正十二年七月、砂硫磺降、南郷色見村荒所トナル、

阿蘇山噴火

京都吉田社  
神事

日神拜賀  
齋場

八方拜  
四方拜

神壇ノ行法

月神拜賀

竈神殿ノ餅

神社、

〔兼見卿記〕 六 正月一日、己卯、天陰、時々雨、早旦行水、天醫方、着齋服、先於庭

上日神拜賀、次諸社祈念、次參齋場、侍從兼治齋服絹、兼有布衣、嫡男内藏助初而致社

參、布衣、齋庭之作法如例年、次參社頭、勤役如常、兩社奉幣、予祝詞兼治勤之、次末

社悉備前神供、次歸宅、於庭上八方拜、侍從四方拜、次羞朝餐、侍從方之衆各相伴、

例祝殊更賀了、次神壇之修行三座自陰始之、次各召出、侍從對面、下盃、今朝至中

間・殿原召寄、仕朝飧了、吉慶足也々々、

二日、庚辰、天晴、早旦行水、兩社參勤、如昨日、神壇之行法三座、家中之祝義同、月

齋、十疋、野勘、十疋、對面、進盃、玄三、貳十疋、山本、五明一、世續、五明、修行之中也、

不及對面飯了、略、○下

三日、辛巳、雨降、社參如常、家中祝義同、行事三座、及暮月神拜賀、天陰神体不見、

向西方祈念、散米、以竹枝水ヲソ、ク三度、祈願圓滿、感應成就、玄三、貳十疋、山本、

五明一、世續、五明一、各持遣之、兵庫助甲付之、侍從各召寄、弓始、次下一盞了、

四日、壬午、自昨日雨不晴、竈神殿之餅十疋置之、神人三人、主殿允・右京助・新二郎



神龍大明神  
へ魚味ヲ供  
フ  
日神拜賀  
木瓜大明神

爆竹ヲ燒ク

令對面、一拜、次下之、○中略、萬里小路充房、大坂下向ノコトニカ、ル、正月八日ノ條ニ收ム、

神龍大明神へ自元日備魚味了、後神龍院之時有其沙汰、以後年數歷代之間如此、○下略

七日、甲申、天晴、早旦行水、次糝祝也、次於庭上日神拜、次諸神祈念、次參兩社、神前之義如常、齋場之歸路、木瓜大明神へ備神供、奉幣、每度社頭已後依備前無神供之儀式、神人備之、今般齋場之神供同前二相調之備之訖、飯宅、於庭上八方拜、次家中之祝義、次神壇之修行也、今日三座也、○下略

十五日、癸巳、天晴、早旦行水、次粥、次日神拜賀、次諸社祈念、次社參、兩社末社悉

備神膳訖、飯宅、祝義、次神壇修行三座、入夜爆竹、齋場所外門ニ於テ燒拂也、○下略

誠仁親王・邦房親王ヲ三品ニ敍スルコトニカ、ル、正月十五日ノ條ニ收ム、

二月一日、戊申、天晴、又曇、神事如常、○下略

三日、庚戌、及夕月神祈念、

廿一日、戊辰、神供八膳、行事三座、○下略、猿樂御覽ノコト等ニカ、ル、二月二十一日ノ條等ニ收ム、

三月二日、己卯、雨降、○中略午刻雨晴、明日社頭之神供料下給之、

廿四日、辛丑、○中略自和州多武峯使者罷出、如々院書狀計也、金子三ノ目到來、彼使僧

於此方認之義申付了、

廿五日、壬寅、天晴、二階小座敷屋禰之木葉拂除申付之、

多武峯返事調遣之、御祓・守・五明二、返狀彼使僧對面即被下了、○下略、秀吉、山崎城天守ヲ壞ソコトニカ、ル、三月二十五日ノ條ニ收ム、

四月一日、丁未、天晴、神事如常、神壇修行、諸社祈念、○下略

十四日、庚申、松田勝右衛門尉爲見舞出京、宿所ニ罷向、山王祭爲見物坂本へ下向也、

○下略、秀吉、新邸ノ外濠ヲ掘ラシムルコトニカ、ル、四月十四日ノ條ニ收ム、

十七日、癸亥、天晴、○中略明日社頭御祭也、神供料下行、壹斗五升、未下、松田勝右衛門尉方へ遣

喜介、今朝嗟峨へ罷越也、○下略

十八日、甲子、社頭御祭參勤了、兼治・予遂其節了、

十九日、乙丑、○中略賀茂之祝重邦來、神道之義端申聞了、

廿七日、癸酉、清都寺書狀到來云、自薩州申上也、神事亂舞・鞠・出陣等止之、此方以裁許其沙汰仕度之旨申也、樣體以一書彼國可返事之由申了、返事云、子細者具相尋其上可被申越之由返事了、重而薩州之使僧來之間樣體相尋之處、大隅八幡鞠之沓音止之、

賀茂社祝重  
邦  
清都寺ノ書

山王祭  
神供料

大隅正八幡  
社鞠ノ沓音  
ヲ止ム



薩摩開門社  
亂舞ヲ止ム

神名帳

亂舞停止ノ  
例

大明神號ヲ  
授ク

諸神根元抄

鞠ノ沓音停  
止ノ例

天正十二年雜載

薩州開門之社止亂舞、神事ハ九月也、五月ヨリ止之云々、以折紙調遣了、見于左、

六

薩州

（一）  
（二）疑娃郡（ヒラキキ）枚聞神社敷、神名帳之分、薩州ニハ二座勸請ト神名帳ニ在之、

開門之神社

神事已前亂舞停止事、

被授大明神號、次奉納御敝、次告文、次三七日御修行、入目六十石、

大隅國

正八幡 諸神根元抄ニ在之、

鞠之沓音停止之事、

自長承元年之比、有子細而鳴音禁之樣相見候、然者如社法可然之旨候、

天正十七

四月廿八日

神恩院

世譽

諏方坊

御坊中

周超取次之間、如此相調之、

金神鎮札

齋場所屋根  
修理

西天王祭禮  
延引

五月一日、丁丑、天晴、神事如常、

三日、己卯、雨降、及夕月神拜賀、曇也、祈念了、

四日、庚辰、天晴、（中略）明日社頭神供料、以田錢直ニ神人共申付之相調了、

五日、辛巳、天晴、早旦社參、兩社神事如常、爰許各ニ禮來、對面、羞一盞了、玄三

來、次於神壇修行、（此處校覽）清三位へ遣神供了、

十一日、丁亥、金神之鎮札相調之、今度侍從作事南坤方也、近日思出暫祈念安鎮了、

（下略）

十五日、辛卯、（中略）小麥之藁、地下家次（四束宛）出之、北之在家源三郎奉行ニ申付、百五十

四束、南在家平左衛門尉奉行、（百十八束）觀音堂ニ置之、齋場所御屋根之用也、

十六日、壬辰、天晴、爲家中祈念、天度百座神壇修行、（下略、羽柴秀勝ニ被ヲ送ルコトニカ、ル、五月十六日ノ條ニ收ム、）

六月一日、丙午、早天社參、兩社神供備前如常、

十日、乙卯、西天王祭禮延引、今度聖護院与申分ニ付而也、

十五日、庚申、西天王祭禮延引、彼在所方遺恨之間、下々及口論、喧嘩出來忽之義也、

仍相延了、年中一度之神事、氏子各在所、（學ラン）但神慮可爲納受、自然及杼楯者双方不可

天正十二年雜載

七



有正體、重而又可及公事沙汰、當時未糺之時分也、萬端不<sup>可脱カ</sup>然用捨歟、<sup>略</sup>○下

十六日辛酉、<sup>略</sup>○中 賀茂祝重邦來、對面、進一盞歸了、

廿三日、戊辰、<sup>略</sup>○中 自藝州八幡宮祠官罷上、冠・裝束・沓裁許之一通遣之、<sup>略</sup>○下

廿九日、甲戌、雲州宇佐八幡宮之祠官西尾家久風折烏帽子・狩衣裁許之儀、以山伏廻与

令懇望、隨而予下向之儀一簾<sup>一應</sup>可馳走之由令入魂之間、唯今之裁許一向以別義調遣之、然者右之祠官跡ヨリ令上洛、禮ヲ可申之由山伏廻与申之間、對面了、以索麵下盃、彼國之義直具相尋了、來八月令下國、惣國中申聞、即一左<sup>右カ</sup>石態右之祠官可罷上之由堅令約諾了、一通之案注別紙了、

右爲禮豐後布、三端・青銅百疋、山伏廻与、杉原十帖・扇一、持來、<sup>略</sup>○下、被ヲ獻ズルコト等ニカ、ル、六月二十九日ノ條ニ收ム、

〔兼見卿記〕 七 七月一日、乙亥、神事如常、

七月七日、辛巳、早天被參兩社、神事如常、<sup>略</sup>○下

八月一日、乙巳、神事如常、社頭新嘗、

十五日、己未、侍從之葺屋禰簀子以下申付之、侍從愛宕山へ物詣了、

自河州申來云、卅八所一庄十三間、在所也、自此在所十八町他所ニ勸請之、川ヲ隔也、

吉田兼和安  
藝八幡宮祠  
官ニ冠裝束  
沓ヲ裁許ス  
豐前宇佐八  
幡宮祠官風  
折烏帽子狩  
衣ノ裁許ヲ  
求ム  
山伏廻與

豐後布

吉田兼治愛  
宕山參詣  
河内卅八所

社殿遠路ニ  
依リテ燈明  
以下不自由  
ニ就キ清淨  
ノ地ニ移サ  
ントス

粟田宮三社  
祭禮

神龍大明神  
備中八幡宮  
烏帽子淨衣  
ノ裁許  
高野聖

氏子社詣、灯明已下、依遠路不自由、在所之近所可然神地在之遷申度之由、以田口左

介申也、答云、舊地ヲ新地へ遷申儀不可然、但唯今之申分者神之御爲也、清淨之新地

へ遷申へシ、此方以神官可申付候由返事了、以入目種々令懇望之間領掌了、

十七日、辛酉、雨降、申刻晴、<sup>略</sup>○中 粟田宮三社祭禮也、備神供、精進、兼有參勤了、一膳遣之、

右京助神供調之、末々以田地、神供料渡置之也、

十九日、癸亥、神龍大明神侍從參勤、

自備中國八幡宮へ祠官烏帽子・淨衣裁許之義以<sup>六條</sup>舜藏主申之、調遣了、爲禮青銅參百疋

以高野聖申上也、

廿三日、丁卯、木瓜大明神祭禮任例遂其節了、

廿四日、戊辰、祭禮還幸、殊更奉祭神輿了、客來數人在之、

廿六日、庚午、雨降、<sup>略</sup>○中 自休庵書狀、鯉一、到來、返事了、雲州之山伏峯ヨリ罷出來云、

内々予下向之儀如何、明日俄在同道之間、罷下也、國造千家<sup>義實</sup>へ自光源院書狀之義可相

調乎、火急之儀也、入夜之間唯今難成、明朝相添使者、光源院へ可申遣之由云、相意

得之由申、今夜滯留、喜介所ニ一宿申付之、<sup>略</sup>○下



中山親綱貴  
船社ニ參詣

河内國島ノ  
惣社三十八  
所ノ移轉ニ  
就キ鎮札ヲ  
渡ス

廿七日、辛未、早天光源院へ彼山伏ニ相添使者喜介申遣、千家方へ書狀調來、院主山伏ニ

不對面之由申了、又此方へ來之間進朝食、同道一人在之、○中

自中山黃門使者、昨日貴舟へ參詣、借遣馬禮也、不對面、進盃了、

九月一日、甲戌、朝程雨降、指傘社參、兼有不參、左馬允去月重服十三月也、參勤了、

五日、戊寅、河内國ヨリ申來三十八所明神之鎮札調之、同御幣三本、黒塗、金物アリ、於神壇修

行二座、神供三膳田口左介取次之、○下

七日、庚辰、河内國島在所惣社三十八所在所之近所へ遷申義、鎮札等相調、一七日令修

行、今朝彼使者罷上之間相渡之、田口左介大坂へ所用旁、此者与罷下度之由申之間、

差下訖、御幣入箱・神鎮札入箱、氏子爲頂戴御表御祓遣之、

九日、壬午、早旦社參、兩社神事如常、○下

十六日、己丑、在所家中爲祈念、天度百座誦之、於壇場修行之、未刻社參、新嘗、備前之

人令歸宅、用新米了、例年不相替祝之、多幸々々、

布齋服新調、自今朝着之修行之、

十七日、庚寅、天晴、未刻社參、神事如昨日、

兼和兼治ニ  
宗源行事作  
法ヲ傳授ス

近江儀俄牛  
頭天王社祠  
官湯ノ行水  
ノ裁許ヲ求  
ム湯ノ行水  
例可セシ先

北野社目代  
ノ行事

廿七日、庚子、侍從宗源加行壇ニ入、次第相授了、○下

十月一日、甲辰、神事如常、

十一月一日、癸酉、神事如常、兼有不參、

廿四日、丙申、社頭御祭也、社勤訖、感應成就不相替滿足了、○下

十二月一日、癸卯、神事如常、兼有不參、至南都罷越云々、

五日、丁未、○中略、兼和、亡魂鎮札祈念ノコトニカ、ル、年末雜載武家ノ條ニ收ム、次侍從ニ宗源行事作法傳授之、九月已來加行、

今日一反、大方授与之、子孫相續満足々々、○下

九日、辛亥、○中江州甲賀郡儀俄之座牛頭天王之祠官若大夫罷上之、近年被指神主動社

役、爰ニ毎朝行水也、迷惑之間可裁許之由令懇望之條、遣一通了、先蹤江州櫻谷祠

官ニモ右之條裁許了、行水以湯用之義本説也、仍許容了、鈴鹿喜介取次之、爲禮青銅

百疋、一段不弁者也、以敬心調遣了、無名乘、今度書遣之、定清、

十九日、辛酉、神龍大明神兼治社參了、

〔北野社務引付〕○山一、正月朔日、茶子、梅干・たゞきこん房、

又此うちにも有、ほたはら柿 くり梅干 あや柚

一、くゞ付 海老こぶ ところ 數の子一



年禮

一、かん一度、御せち一度也、  
さい きたい なます たこ 汁、な

同日 一、松原へ禮こはんこ行候、

（年玉、くしろき一把・すきさけ、のし、与介へおき  
三本、二郎左衛門へ二くし、道順へ三くし、弥衛も  
んへ二くし也）

同日 一、能貞禮こ御出候、  
年玉錢百文、  
いはし二ツ、

二日こ我等繼母所へ行候、年玉、にこりさけ・くき・こたい二枚也、あん在之、

同日 道秋年玉、こふ・扇、与次めう男へ扇・くしろき、あん在之、

同日 多ほしこ二郎三郎 彦五郎兩人來候、年玉、錢卅ツ、あんなし、

同日 あん、汁、こきなり、

「晚めし、さい、いはし」  
「なます」「あさ漬」

同日 松梅院へ御供參候、さい、かうの物 ころ なます あらめ あつき

大豆 梅 しほ也、

御返錢百文、使こ少なれ共十六文御とらせ候、

神供徳分

一、又朔日御供、我等徳分、杉もり 諸神 ひしやもんノにつく、

下過候とて取 へは、能弁へ へし、此方取也、また此おくにも御供の事有、  
此日二せん分下候 間、重而取こ遣候

三日こ御供くはり所注文、めうさう院返、おひ一すち、錢十文使こ、  
能徳ヨリ小升三

舛 八嶋二升五文使こ、本郷清介へ米二升、使こひしはなひら、  
茶屋与三郎此方

への返少もなく、重而可有由にて、使十文、

上様へ二せん、一あん、汁、こき也、嘉例御せち一度、能貞へ禮こ行候、晚こす

と酒、さのなあさ漬・中たい一枚、もちいほころのし候て、又のいも少々、

四日こ能福へ禮こ朝行候、したみ御供こノ汁そへめし是有、おのたはさん後にて、御供  
之道具候ハす候とて、あん態こしらへ候て御すへ候也、樽ハすみさけ、さのな、あさ  
漬・こたい二枚也、

同日

上様へ御禮こ御樽次第、柳一荷、上ノニふたぐ、にこりさけ十二はい、久喜重箱のふたこ  
すへ、こふ五ほん、是も重箱のふたに入、下人衆へノ年玉、民部卿殿こ扇一本、越

後殿こ扇此分也、りんしこ御ちの人こたてくらのからなつ豆五合二袋、千々世に扇

一、

一、さて御禮こ出候、次第、民部卿へやにていしやうをあらため出候、御さのつき民部  
卿しやくにて被下候、御さのなは御ちの人給候、入御なされ候て我等も立候、さて内

曼殊院良恕  
法親王亭年  
始ノ禮



政所年始禮

義にてくき付にてあんすひる也、をのくのさあつきいたきさし候、さてのへり候也、

一、歸り候て政所殿へ御禮參、樽、にこり酒十はい、さあな、久喜・こふ五ほん、何も重箱のふたにすへ候、又たい所へさふらい樽にて御出候て、我等に

こはふ  
シシはなひら  
ひらき

御渡候也、御返しおひ二すし也、おもてにてあん有、

あひいもとたうふとつみ上候、をきにむすひこふなり、我等一人すひる也、さて内義ヨリ能々御參候へとの使有、

是小島新平殿也、やめて政所殿御たいめん候はんとの御使也、さてやめて御出候て、御さあつき被下候、御さあなも被下候、五はいつづけのむ也、次小島殿へ御前こ置さす也、納こ皆有といひなから三人までのみ候、

一、同日御東殿へも禮こ行候、たる 久喜 のし御さあつき給候、あんも有、御さあなもあひを給候、三はいのミ候、又我等さあつきも御參候、又御返し錢百文御出候て、我等こ御渡候、いたき歸也、

一、同日さいしやう殿へも參候、さあな、久喜・のし、暮候てしゆしやうに御參候砌こ行

東殿

宰相殿

中折紙

作紙

杉原紙

むのい候て、御申候ハ持參有と見へ候を能してをけと、女房へとのはらを御歸し候て御申候、明日我等參候へ由御申候て、宮へ御參候、明日小者こ道具共御持候て給候、返しこ中折紙三てう也、

五日こ能堯か、禮こ來られ候、年玉、作あな二てう・錢十文、あんにてゆはい申候、又やめて能觀も女男つれにて被來候、年玉、くし柿五くし、あんにてゆはい申候、さけにこりさけ也、

同日、能徳も禮こ來候、樽・十疋持來られ候、やめて十疋杉原廿枚、十枚ツ、こ取分候て、取ちのへ候て、すりはこにすへ返事候、使こ錢十文とらせられ候、

六日、高屋殿へ禮こたる、すきさけ、大鈴一双、さあな、久喜・のし・扇ほん、あんにて御ゆはい候、

同日、くわんてう寺殿へ禮、くしかき一把、たいにすへ、人見丹後所へ行きまに扇一ほん、たくみに一ほん也、若子御對面候て、御さあつき下され候、

同日、あん同寺殿へ參候、くし柿一把・のし、孫介に扇一ほん、御留守にて御ちの人に預をき申、



同日、中しやう殿へらる、

同日、宮仕中へもらる、

七日

七日、そうすい、はしらあはもちい也、

八日、能觀へ禮、年玉、こふ三ほん・扇一本、おん是有、

祈禱始

正月十日、御きたう始に御けう書御付候時、越後殿御えい候て書人なく候間、御教書のみ

いしに御出候て則御歸りなく候間、一日待候て、あまりに待かね候て歸り、我等書候て

用付候、是ヨリ前、法服の御教書ヲ付候へは、毎年御けう書までにてはいやと御申候て

御返し候間、それをあへし候ほとに、御きたうの御けう書をも御付あるましきのと御申

候て、松梅いん下人おみに來り候へと御申候て給候、我等京へ取に參候るすの間

又我等歸り候て書候所へ猪介を又給候、ちやくとかへし、先御酒參らせ候て、我等い

また歸り候へぬよし御申候て給候への由申返し、さてやめてしたゝめ候て付候、京ヨ

リ只今歸り候ていを仕候て持參候、さ候へは御申候ハさうみ一段御らんたうとの御使

候、さて其年八日に松梅院上様へ御禮なく候、是ちくせん殿大さの候間、先禮、松梅

いん御下候間と此御教書付候つる時御申候、

○東大寺・興福寺・清蓮院尊朝法親王等、羽柴秀吉、二歳首ヲ賀スルコト、正月二日及ビ三日ノ條ニ見ユ、

松梅院大坂  
下向  
羽柴秀吉

大般若經轉  
讀及ビ百座  
仁王講

明日十一日、成共、又ハ十三日、成共御參候ハん由御申候、上様の御隙次第と松梅いん  
ヨリ御申候、我等にとい申候へ由御申候、又御教書あん文、

一、明日十一日、於當社寶前、轉讀大般若并百座仁王講、一社各可參勤之由、可令相觸給  
之由被仰下候、恐々謹言、

正月十日

梅壽丸、判なしに也、

政所法印御房

又上内ノあてとところと同書やう也、

又上つ、この中、追而申宮仕御千度之事、可有御下知候とのき候て、政所殿へ付候  
也、

一、朔日事我等取沙汰申候、御供次第、上様へ參分、高きよう御わき、御數十一也、

高盛四ツ 「たうふ」 「こはふ」 「いも」 「大こん」 此外ハ少ツ、也、 「わかめ」 「青

ゆて」 「まめ」 「ひしき」 「わらひ」 「とつきのり」 「ゆ」 「御汁」 御數の色ハ不定

候、時よる也、御はしハとれをも御せんのをはきたて、はしに宮仕衆取候也、

曼殊院門跡  
徳分ノ神供



一、目代徳分御供事、一杉盛 一膳 一諸神一せん、ひしやもんふつく一ツ、三色こさい數之鉢、若めとふゆいニツ、わらひとふゆい一ツ、又わらひ少かはらけに入、ひしきニツ、あらめ少らはらけこ入、しほニツ、あつきニツ、一ツハ少、とつきのニツリ、しるニツ、又高盛四ツ、大こんニツ、こはうニツリ、いもニツ、又大こんあきつけニツ、たうふニツ也、又色ハ時々ニかはるへし、

十四日ニ政所殿上さまへ御禮ニ御參候、御樽ニ柳三荷、さかなこふ引へきにすへ候て、こんにやく足打こつこ、まんちうもあし打こ、さけハ大たおけ一ツ入候て參、目代取次候也、一荷ニ一種ツ、さのなをのせ候てならゑんに置候也、さけハ内義へ目代持參候也、さて政所殿そうしや所こてそけんをめし候て、御まち候處へ、越後罷出候て、先たいめん申候て、それに少御待候へ由申候、さて上様おもてへ御出候て御座候時、さて御たいめん候也、さてすい物すはる、すい物よはこんにやく也、あいよ入、上さまへハ御四方、又政所へハ足打也、さてきうし、上様へハまん部卿殿、又政所へハこしやうすへ候、あけ候時よは目代あけ候也、くきやうの物出候也、御さのつき政所へ殿へ被下候也、さてさふらい衆へ、折敷こたゝきこんはうと又むすひこんにやく。

せりやき三色を折敷こく候て出候、目代もち出候て、取はやし、さふらい衆へ參候也、さてす候て後こ、下人共こ上の御中けんしやくよてさけのませ候也、又越後殿料足二十疋・たる也、是やめて十六日ニ持行禮物御返し候也、禮ニ參られ候時、さの禮式もちて參、そう者ニ渡候也、さてさいわい内ニ候間、御出候へ御目に候はんと御申候へ共、上意ノ御用候間、何も重而參、御禮可申候はんよし候と申候へハ小島新平使こて、ちや屋のきはまてよひよ御出候也、さ候へ共、上の御用候間、何も重而參候はんよしにて、かへされ候へは、又やかて御出候處へ、さのこに又上の御中けんをそへ候て、松梅いんへさのこ參、何のと申され候てのへられ候間、爲其こさのこ又上の御中けん是まて參候と申渡候也、

正月十六日こ上様の御千度御沙汰者也、入め我等仕候也、御數方ハ御もち候て御出候也、たうふ此方にて候、又あへませも此方にてあへ候也、

天正十二年正月廿七日、こわり木卅把・白米わけ物こ三はい納、神夫方ヨリ残りをはやのてとこはり木可納由申候て歸候、

一、能福二はんめの子安福丸申狀あん、はしに申といふ字さしあけ候て、又中に子の名



をさしき候て書、又おくよ年のう日付、又おやのなはん有、使ハ名代よて能糶來られ候、八嶋座敷より七日以前也、是二月六日申狀請取、八しまさしき十二日也、

一、八嶋座敷ヨリ七日以前、御門跡様へ御案内申候、先初是ハ奉行へ申候か、おくにも此事在之、政所へ持參候へは、いさい御心得候間、御門跡様へ持參候へ由候て、折帟ヲ御返し候、則持參候處ニ越後御申候ハ、御宮様ハたいりへ御成候間、我等預をき候由御申候、明日御返し聞ニ參候へ由御申候、乍去内方ニハ御座候つれ共、如此御返事候、さて先御しゆ被下候、扱歸り政所殿へ申上候、さて明日參候處ニ、越後殿あはたくちへ御使遣候由御申候、しはらく待候つる由、松梅いんへ申入候、又二日程後ニ參候處ニ御申候ハ、昨日くわん條寺入道殿（勸修寺手置力）様ヨリ任料錢持かけ候へ共、御同心なく、御返事ニ入道殿御のき候はん由候、其後入道御存分ニついに成申候、大り様にてせんさくあり候て、越後殿をも御召候て、せんさく候つる也、八嶋座敷の日すミ申候、十二日成、

一、目代御返事聞參候へは、越後殿御申候ハ、上様長あさ御所様と申ともきつく候て、せんあく共ニ御成敗可有と御申候間、こなたの御帳箱ハ、兩御本所ふうにて候間、あくる事自由ニならさる間、其方ニさためてあん文可有間、持參候へ由御申候、たいりに

てハ長はし殿とやらんの日々きを御付候、又北野よてハ目代御付候はてハのなはんぬ事也と御申候、證文ノ中共ヲ尋候て若なく候ハ、上ニも有物ヲなきと申やらんとおほしめし候はん間、殊ニ能福おちの儀ニ候間とおほしめし候はん間、北野牛玉のうらに〔股カ〕きやう文のき候て、なくハなきよし御上候へと越後殿御申候間、則尋出、青松いん・成輪いん一通のを上候也、そのはしニ候事なきをものき加へ候て上申候也、

一、目代役次第、宮仕入公之時、七日以前ニ申狀ヲ持候て被來候時、茶をも不參候法度也、委細心得申候由申、親歸し候也、扱松梅院政所御持候間、先政所殿へ申狀ヲ持參、御目にのけ候也、さて御返事ニハ心得させられても、〔候カ〕御門跡様へ持御參候へて、御申候へと御返事候也、さて御所様へ持參申候也、申狀上申也、御酒被下候也、さて歸り、又政所殿へ參、其日必々早々御參候への由申也、

一、八嶋座敷ノ日、政所殿御參候由ヲ聞候て、先へ參候也、さて御參候て、門の外より目代御よひ候也、さてあんないしやヲ申候也、よの家ヲ御のり候てある方也、さて座敷へ御上候て、そけんをめし候て、御なをり候時、硯ノ墨をすり、補任ヲふたをしたる上に置、持出候也、則袖判を御沙汰候て、硯箱のせ、もとのとくに仕取、内儀へ入也、



扱新承仕、又親・こうけんノ法師兩三人其時出候也、さて御さのつき三方にすへ出、御くわし□三方にふちたのをのせ、政所へすはる也、新承仕ハそのまゝ也、又あし打よすゆるの也、その外ニハすへす候也、さててふし出、政所殿ノ御盃新承仕ニ被下候時、補任ヲすへひろりの上ニ置、あんなのけこのせ候て持出也、新承仕親ニ渡申候、

さうけい

くきやうの

目代もさうけいすはる也、さふらい衆のしやうはんせるなり、我等一人さのなはあし打と盃にあいの、上も下も中けん衆さのな折敷にあある、ふちたの、政所殿ノハ目代請取申也、新承仕のハ主取也、

天正十二年二月廿三日ニ沙汰ノ承仕能德ニテ算用仕也、昭世さの始而也、たいのすい物よてめし是あり、中酒はんニ五はい候也、

廿四日ニ能德禮ニ被來候、樽ニ米壹斗先へ被持候、御出候へ待申候由申、使返し申候、さて被來候、あんによてさけ參候、こ者よもくはせ申候、

一、四月七日ニ預能弁三所王子ニむしろを敷、人ヲ付置候を、我罷通候て見申處ニ則あけよと申候へハ能弁ニ申候處ニ被申様ハ、我等牛ノ日ハ取申由被申候處ニ我等申様、其方ニ八十一日又十八日・廿五日是三日之由昔ヨリノき候間、先度ノ約束之通よ、何し御敷有そと申候、其事能福へも約束、其時申候間と被申候間、さらハ能福へ可行□□やゝて申のち候也、主典利運ニ仕候、莚あけさせ申候、

一、御門跡様ノ越後殿被申様ハ、あねくちとつゝ目代代替之御補任ヲ取、又ハ給分指出も仕候へ由、又ふくへの前ノ畠、一松のまぢより北ノすこ小畠、麥ありなど被申候ヲ、先茆候處ニふくりう□申候、四月晦日ニふくへの前てん札ヲかり、くひヲ竹ゆい付候て、御□□候、御理ヲ申てん札ヲハ先ぬき申候、又補任事ハ目代家ニハ取たるれいハなく候間、其方ニ候者御見せ候へ、取可申由申上候へハ、證文□由御□、我等家ニ候ヲなきなとと、申のと思召候はん間、天神牛三ノうらヲひるのへし、きしやうを書上候はん間、其方ノヲ御ミせ候へ由、申上候へ之由、御返事ニハ、ミせも申さん由御申候、扱人越後あねむこ也、さりならよ所へ持行御理申候、入め越後殿ニ參候はん間、其分にてなり、善音なしに御すまし給候へ由申候、又ひしやたう補任も取可由も被申候、又五



月一日の鹽ヲもをさへ候へ共、能貞してひんき付之間、をしりけ參、す、ヲノ參、御ちの人へ參候分ニ仕候て上候へハ、越後ミられ候間、越後ニ參らせよと御申候間、それハともくもにて候、さらハたう成共頼存候由申候へハ、誰成共男衆ノ上よと候所ニ我等申様ハ、誰ヲ以可申由な共越後殿ハ御申候人也、又云かけられてハさのこ也、又民部卿殿ハ何も御存なく候間、菟角奉頼由申、又上候へ共、さらハ御持候間、上さま參候由、御申候、それハともくもにて候由候、又二日ノ日被申様、しゆ經をもせつくこ賣なと被申候、徳分なともせつくのをおさへ可申由、たしに被申候、越後おい千々代使也、其時ノさのな、ひたらノけつり物・かふノ物、す、一雙也、きしやうハ先五月中ハ我らへ何者程よまて由也、

五月節供

一、五月せつくこ有様ノとく參候、林扱分よて參候、同日能頼ヨリ使來候、右ノ子細ハ御供出き候間、早々御出待候由申參候、やゝて行申候、さらこ入鹽少入、すゆゆる也、さけ有、こ者こも同前也、さて參候時、承仕一人相副參候、しやうふよて上ヲふき參候、御そうしや所よて我等請取、上へ上申候、をり一ツ、又八嶋ヨリの御供も參候、一度、

一、五月十三日ニ又林申來られ候ハ、補任取可申日ヲ定候へ由、被申候處ニ我等申様、せんなく御見せ候へ、ノ其上ヲ以様體可申由申候、返事候、

天正十二年五月廿一日ニ御門跡さまへ我等ヲ召候間、參候へハ、昨日ノ能福返事趣ノ狀おはるきなく候哉と御申候、中くと申候處ニ能福ハ上候ツるとの、目代返しハ其分のと御尋候、中くと申候處ニ能福せん大ふとのノ初ヨリの分ニ候間御尋候、大ふ殿へハ象分ニ御入候時、上申候由申候間、象分ニ御入候、今又上申さぬ由申候と御申候て、關官ノ御教書ヲ御付候、大りさまヨリハ女房奉書被成候て、御門跡さまヨリ御けう書出候、廿一日目代請取申候て、夜るの四ツ時ニ御渡候間、罷歸り候へハさくまむほん之儀ニ付、○佐久間正勝ノ弟道徳、京都一條町ニ於テ町くのきぬきく、りきとなど皆さし候てとをさす候間、明日廿二日ニ政所殿へ付申候、松梅院政所ヲ御持候時、此砌松梅院禪興いんきよ也、さりならおくへ付候也、さ候へハ拜見候て、さて御申候ハ、奉行へ持行候へ之由御申候間、則持行候て付候、さて奉行ヨリ返事候、御教書ハ奉行ノ役よて候間と申候て、奉行へ御請取候、返事ハ能福罷よせ尋候へハ、如何様ノ曲事もなく候と申候、ゑいりよへたいし、小もくはんたいなき由申候間、何も御詫事可申之由申と



て候、請取候て、さて門出に御酒被下候、其夜も歸り、御門跡さまに申候、

一、同日預能弁に申聞候へ之由御申候分ハ、明日廿三日ヨリ能福子千福丸はんよて候間、能弁・千福はんを遣に請取候へ由申せとて候、則申聞、我等所へよひ候て行ハ不申候、返事ニハ預持候て、はしめよて候間(遠方)惑わくにて候へ共可仕候由候、さりなら是ハ内キ松梅院ヨリ御披露候ハん間其體ニヨリ候て會合仕候て、其上よて可仕候、

一、政所殿へ付候へハ、奉行役よて候間と被申候間、則奉行ヨリ目代ににした右近ヲそへ候て、とのの樣體ヲ聞に御遣候、則そ者所にて越後とからかひ候、りふしんに御教書あんないもなく御付候とて、ついで宮仕中へひろふなく候とて、明廿三日ヨリ千福はん仕候也、○下略、佐久間正勝ノ弟道徳、事ヲ謀ルニヨリ、京都ノ奉行前田玄以、町々ヲ糾明スルコトニカ、ル、五月十一日ノ條(補遣)ニ收ム、

一、同日松梅院へ目代ノ御使、何しに御教書ヲハ宮仕中へハ御付なく候哉と御申候、可付の付間敷のと急度返事承候へ由也、さ候へハ松梅院ヨリ、西田右近ノアモ仕、又返事も、(戻アル也)返事ニハはや上へ御返事申候由返事候、則參申候処に、くわん條寺入道殿へ我等に參候て、返事松梅院ヨリノこなたへ承申候哉と尋候へ由、越後殿被申候間、則參、藤ノ木源四郎して申上候へハ、入道殿ヨリ我等に御返事、松梅院ヨリ誰しても返

事ハなく候由御申候、又さきにきう安こなたへ御參候て、公事の成立御尋候まで候、返事ハなく候と御申候也、乍去大りへ直申候ハ御存なく候由、御申候、菟角公事ハ能福まけよ、(なカ)せよと御よひ候へハ、能福不參、松梅いんへ御申候へハ、返事不申時ハまけよと御申候、又我等申様ハ、源四郎と目代として御申候、源四郎しても返事なく、又目代してもなき時ハ、我等なき物にてこそ候へと存、則入道殿へ其由申候、こなたより源四郎しても目代ノも返事なき時ハいんと御尋候者、我等もそれにしたのひ可申由、乍去目代ハ時ノ案内者にて候、一言も我等ハ不申候間、くるしからず候のと申候、こなたのらハ御候ハんかと申也、御申有間敷由候、時せつと御まふり候ハん由御申候、さて又松梅院ヨリ入道へ返事なき由、西田に申候へハ、きう安の御請取よて候間と被申候由、又越後殿に申候へハ、それなれハ一さうよき由被申候、そのま、相延申候、

七月一日ヨリけつさい在、松梅院若代始而也、禪永也、我等鈴參候、肴一はんうり一かしら・みやうの引へきにすへ候て、

四日ニ御門跡さまへけつさい候由申、御下行共被成候へ由申候、奏者ハ千々代也、越



後殿御めにのり候はんすれ共、はくらん氣候間、罷不出候由返事候、御下行共儀手ぬくい一ツの由越後殿被申候て、おほへ候、一ハ心得、二ツとは忌候由返事候間、我等申様、一ツハ白、一ツハ墨〔黒カ〕候てもくるしからす候由申候処、かつてん候、杉原廿枚、井のへ料一斗、是ハ能運地子の未進分よて御渡候へ由御申候間、則つてん仕候て歸り申候、手ぬくひきしやくハと御尋候間、御ふくに五しやく二ツなら也と申候、我等も一ツ出候、松梅院殿ヨリ十九さらし御出候由、有様ニ申候処ニ明日はんニ取（マ）おこせよの由、越後殿ヨリ返事也、

五日ニ松梅院ヨリ小畠新平殿もつて御申候キ、明日の御下行の道具共そろへ候て、御置候への由御案内候、井度の事も、

一、則明日山城よりうり參候ヲ、十四持進候、我等も參候、あれこれニ也、則よきヲ御ふくに五しやく、あしきも同しやくニ二ツ請取申候、杉原廿枚何も請取申候、則六日ニ渡申候、一松ヲ渡也、一松則もちけつさい所へ參渡也、其時禪永へ目代といやう、長田越中ノ目代一松に成候てより、ふあんない候と申候処ニ、尤と被仰候也、あま廿枚、上様ヨリ出候つる、御手ぬくい二ツとヲしゆ經箱のふたニ入渡也、さてけつさい所へ預

取ニ參と御申候也、

一、能長子千菊入公九月十日ニ我等処へあんないよ來、時ハ夜の四ツ時分ニ申狀ヲ能長ふあんないよ候間、書とは書候て被來候へ共、日の下の判なく候間完よて書のへさせ候、おしへ候て、あまも能長より取寄候て、さて請取候て、其夜やめて先松梅院へ持參、小畠新平して御しつまり候て御座候処へあんな内之由申候、御心得候由候、それより松梅院禪永始而家徳ヲ御請取候間と存候へ共、先當松梅院奉行へ可申と存申成、さりならて、松梅院殿ハ、上様ヨリ政所ヲ御預候間、奥へもあんない可申候はんかと、小畠殿へ相尋候へ共、むよふの由異見候つれ共、さりなら今さらと存、我等こしやくよて少しらせ可申と存、參候て、三上猪介殿して申候へハ、猪介申様ハ、今夜ハ申間敷由申され候、それなせにと申、あんな内も時分のある物しやと申され候て、我々あすひろふ可申候のと申され候、我等申様、せんきのとく申渡候様體ハ、夜半ヨリまへなれば何時ニよらす申法度也と申渡候へハ、法度ならハ法度次第と申され候間、其分也と申候、さりなら我等これまで今夜參候つるよし御申候て給候へ由、申候て歸り申候、さて御門跡様へ參申上候、折のこをも上候て歸也、其時御所様ヨリ御返事候ヲハ何と仕候ハ



ん哉と申候処、今夜我等返事請取候由、可申候と、小島新平申され候間、其分こして明日早天に松梅院へ參、新平してをき候、又申候、政所殿へも可申候はんのととひ候時新平被申候様ハ、政所をも此方ヨリ父子之間にて候間、參らせられうも參らせ候間敷も、此方へまのせよと候間、其分こかため歸り候処に、さて十六日こなりし時、政所殿に急御參候へ由申候へハ、にハのよ參れとはなせに申そと御申候処に、我等申様、其事にて候、我等ハさいしやう殿へ申候つると申候に、さりなら政所殿へも可申候はんと申候へハ、さいしやう殿ヨリ御申候はんと御申候間、さて不申候、さりなら政所ヲ御持候とと、又奉行と二職ヲ御持候てヨリ後、二ツに分たることも今までの我等引付にも是なく候間、何事ヲさいしやうに申せと、我等すゝをいんきよあそはし候つる砌り參らせ候て、御盃ヲ被下候時、御申候間、さてさいしやう殿へ申候つる、かへして返たふ申候、一段御はら立て、我ハまいるましきと御申候間、さて立、新平殿へ我等今小路へ行候て、如此之由御申候の、如何とはし候はん哉と申候に、さいしやう殿も二三度御申候間、さハ在間敷と被申候間、何もさいしやう殿へ可申候はんと被申候、さて同道申上候、さてさいしやう殿へ被申候処、それハ何となれてい□□そと御申候、三度ま

ていふたにと御申候、それよてもすます候処、西田うこん罷出、あつゝひ候て見申候へ共、同心行のす候、さてさいしやう殿こしうと殿のんさいと申候人あつゝひ候へ共、返事もなく候、相しやう殿もふくりうさ無申斗候、おやなれともたふ御入候由候て、さしちのへもすへしとの御申にて候、折節村井はりま殿松梅院へ御出候、すなはち此人あつゝひ候て、同心行候、さてさいしやう殿も、のんさいももうさういんも、皆々て、この方へ御出候て、御中なをり候、さて目代も出候、さて村井はりま殿我等よ色々異見御申候、さて御立候て、御門跡様へ御參候、先へ我等參候、御所にて目代ヲ御よひ出候、さて案内者仕、又御參候時分ひるの七ツさのりなり、さてそこにての次第、一はんこそけんヲめし候て、御なおり候時、一はんこ硯の墨をすり候て、すゝりにふたをし、ふたの上こ補任ヲのせ候て持出、袖判をあそはさせ候て、さて硯を取をき候て、もとのとくよして取、内儀へ入、さて御さいなり  
のつき三方よすへ出、さて七種のくわし三方よすへ候て出候、新承仕ハちき也、惣の者ハすはらす候、さて政所殿の御盃ヲ新承仕に御いた、かせ候時、かのふにんを持出候、すへひろかりヲ一メかななかけこのせ、其上こいまの補任を上こ置、目代持出、おや



二 渡申候、さてすい物惣へすはる也、政所殿の内家も目代もすはる也、内家のしやうはんする也、内家のさゝな豆、あし打して、政所殿の御前へもさゝのつき出る、すい物のまへに出るゝ、さてくきやうの物も出候、さて越後もくきやうより前こ出られ候、又御出候て、そけんをめし候砌こなり共出られ候、それよりはらん酒こすへし、

一、○中略、青蓮院尊朝法親王、常陸千妙寺權僧正亮信二兩部灌頂ヲ受ケサセ給フコトニカ、ル、十一月二日ノ條(補遺)ニ收ム、

一、宮仕家ヨリ我等處へ能閑・能娘兩人して被申候子細ハ、八嶋之儀大披(破力下同)候間、御供等調進成間敷候、兼日こ申上候間、上様へ御申奉頼候由候間、則申上候へ者、御返事こ此中も西京二三條之儀今に少も被渡不申候間、無條理候、只今地主候へは、永代うせ候まゝ、上よも八嶋大披こ成候へは御しつといよてハ候へ共如此候、返事候、

一、十二月廿四日のはんこ御しやうしかミ預能弁ヲよひ候て渡申候、能隆もつれ候て來られ候、さて渡候、のり米ハ其方手前地子錢よて御引候へ由申候、さてさけをくれよと申され候まゝ、いやと申候へ共、れいよてハ有間敷候、さらハ我なり共ふるまい可申候はん由申され候間、さてさけまいらせ候、

一、御門跡さまより御下行ハなく、爰元の地子よて引候へ由候間、如此候、又昔より法

度ハ六斗三升二合なれ共、あまりにさ様こ候へハ、毎年はらせられ候も大儀よて候へは、ならず候間、上さまへも其由可申候間、其分心得候へ由越後申され候間、其もとものおくもにて候、上の御ためにて候間と申候へハ、さらハのミかひ候て可渡候ハん由、被申候へ共、それハ我等家の法度にて候間、我等方よりとゝのへ候て可參候由申候、其分こ同心候、さらハ二斗五升程よてのい候へ由候、二斗七升よてのい申候、(行)申候、

〔春日社司祐金記〕

天正十二年甲申正月以來社頭御神事移殿日記  
○大和

天下泰平、國土安全、寺社安隱(隱)、家門繁昌、四海靜穩(穩)、珍重々々、

雨下、日中ヨリ晴、  
正月一日、御強三ヶ度、音樂在之、

見參社司、家政 祐金 家光 經久 祐父 延能 祐岩 祐國 延清 祐叙 祐範  
(東田) (東田) (東田) (東田) (東田) (東田) (東田) (東田) (東田) (東田) (東田)

若宮神主 祐根

中臣氏人、祐久 延豐 祐繁 祐途  
(新) (上野) (辰市) (全西)

大中臣氏人、時盛 時廣 經晴 師治 家榮 師隆  
(中東) (中東) (正真院) (西(信下同)(奥) (向光)

同日、未刻、旬御神事、御燒物鯛・鹽曳・輕物干鮭、日並朝夕、新六種、音樂在之、



神戸

家政 祐金御白散備進 家光 延安 經久 祐父 延能 祐岩 祐國 祐敘 祐範 祐根

中臣氏人、祐久狩衣 延豐 祐繁 祐途 延通(大吏)

大中臣氏人、時盛狩衣 同 時廣 同 經晴 同 師治 同 家榮 師隆

一、八丈曳之兩惣官卅枚宛、權官十枚宛、氏人一枚宛、

御強殘飯一鉢・大豆一器、雜仕丸進上(之五)、

二日、御強二ケ度、

見參社司・氏人、同前、

御強殘飯一鉢・マメ一器 進上之、

日中出仕、

日並朝夕、藤井庄、半減、白散備進、

見參社司、○下略、正月一日未刻  
神事ノ條ニ異事ナシ、

中臣氏人、○下略、正月一日  
ノ條ニ異事ナシ、

大中臣氏人、○下略、正月一日  
ノ條ニ異事ナシ、

雨降、  
三日、御強四ケ度、

大和藤井莊

大和柑子莊

見參社司・氏人、同前、

御強殘飯一鉢・マメ一器進上之、

日中出仕、日並朝夕、柑子庄本式、

見參社司、○下略、正月一日未刻  
神事ノ條ニ異事ナシ、

中臣氏人、○下略、正月一日  
ノ條ニ異事ナシ、

大中臣氏人、○下略、正月一日  
ノ條ニ異事ナシ、

御強殘飯一鉢・大豆一器進上之、

四日、參賀、正預代祐敘、兩門權別當へ參り、

同日、日並朝夕、御節供三嶋庄、八本立  
半減、

見參社司、家政 祐金 家光 延安 經久 祐父 延能 祐岩 祐國 延清 祐敘 祐

範 祐根

中臣氏人、祐久 延豐 祐繁

大中臣氏人、○中略、正月一日  
ノ條ニ異事ナシ、送物以下如例、

五日、日並朝夕、四種、戒重御供、  
年預祐範、一二、

大和三嶋莊



見參社司、○下略、正月一日、ノ條ニ異事ナシ、

中臣氏人、○下略、正月一日、ノ條ニ異事ナシ、

大中臣氏人、○中略、正月一日、ノ條ニ異事ナシ、

丹生御神供備進可申之由札了、□衛門方へ以兩常住被下出者□、

六日、日並朝夕、四種、新免年預祐父、

見參社司 昨日ト同前、

七日、御強二ケ度、

見參社司・氏人、大略同前、祐父不參也、申刻出仕、

日並朝夕、西山九十、片岡一二

見參社司、家政 祐金 家光 延安 祐父 延能 祐岩 祐國 祐敘 祐範 祐根

中臣氏人、○下略、正月一日、ノ條ニ異事ナシ、

大中臣氏人、時盛 時廣 經晴 師治 家榮 師治(符乙)

八日、御神事如例、日並朝夕、箸尾庄代本六種、名主時廣、吐田庄代八種、名主祐根、五六 □

大和箸尾庄  
同吐田庄

長井莊

三橋莊

二月神事

長井庄吉當取ニ登、御供兩 □ 一兩持參也、

九日、三橋庄天晴ノ吉書ヲ下、御神供兩前樽壹遣者也、

二月一日、御神事如例、日並朝夕、音樂在之、旬御燒物鯛・輕物干鮭・鹽曳、

十一日、旬御神事如例、白杖、御幣、散米、日並朝夕、音樂在之、

廿一日、旬御神事如例、

三月一日、旬白杖永秀、御幣豐德、散米、永旬御燒物鯛・鹽曳代・輕物干鮭、日並朝

夕、音樂在之、

見參社司、家政 祐金 延安 經久 祐父 延能 祐岩 祐國 祐敘 祐範 祐根

中臣氏人、○下略、正月一日、ノ條ニ異事ナシ、

大中臣氏人、○下略、正月一日、ノ條ニ異事ナシ、

一、送物如例、組魚、去一日・廿一日ノヲ今日曳之、今日ノハ無沙汰也、

三日、日並朝夕、上役南郷西殿庄四種、五六、節供福智庄・奄治庄、半減、

見參社司、○下略、三月一日、ノ條ニ異事ナシ、

中臣氏人、祐久 祐繁

西殿莊  
福智莊  
奄治莊



音樂田神供

大<sub>天晴</sub>中臣氏人、○下略、正月一日、  
 十一日、旬白杖、○下略、三月一日、  
 見參社司、ノ條ニ異事ナシ、  
 中臣氏人、○下略、正月四日、  
 大<sub>天晴</sub>中臣氏人、ノ條ニ異事ナシ、  
 一、延能披露云、來廿一日音樂田御神供事、當時納所一向難成候之間、御神供御遠慮畏  
 可存候由申之由、被申事也、各評定云、廿一日事者難調候者、何モ備進可申候由、可  
 有御下知之由被申事也、  
 一、去一日組魚今日曳了、鮎<sub>カマス</sub>四指給者也、  
<sub>天晴</sub>廿一日、旬白杖永秀、御幣豐德、散米、日並朝夕<sub>音樂</sub>在之、  
 見參社司、家政 祐金 家光 延安 經久 祐父 延能 祐岩 祐國 延清 祐敘 祐根  
 範 祐根  
 中臣氏人、○下略、正月四日、  
 大<sub>天晴</sub>中臣氏人、○下略、正月一日未刻、  
 神事ノ條ニ異事ナシ、

四月神事

音樂田御神供菟角難成之間、先御延引候而可被下之由申由、名主ヨリ披露也、各評定云、  
 遲速事者不及了簡候、何モ調進被申由御下知肝要之由云々、  
<sub>天晴</sub>四月一日、御神事如例、白杖、御幣、散米、  
 見參社司、家政 祐金 延安 經久 延能 祐岩 祐國 延清 祐敘 祐範 祐根  
 中臣氏人、○下略、正月一日、  
 大<sub>天晴</sub>中臣氏人、ノ條ニ異事ナシ、  
 一、今日旬御供依無寺門下行、酉下刻ヨリ備進之、  
<sub>天晴</sub>十一日、旬御神事如例、日並朝夕、<sub>音樂</sub>在之、  
 見參社司、家政 祐金 家光 延安 經久 延能 祐岩 祐國 延清 祐敘 祐範 祐  
 根  
 中臣氏人、○下略、正月四日、  
 大<sub>天晴</sub>中臣氏人、○中略、正月一日、  
 今日モ依下行酉刻ヨリ備進之、  
<sub>天晴</sub>廿一日、旬御神事如例、○下略、二月一日、  
 神事ノ條ニ異事ナシ、



五月神事

見參社司、家政 祐金 延安 經久 延能 祐國 祐敘 祐範 祐根  
 中臣氏人、○下略、正月四日、ノ條ニ異事ナシ、  
 大中臣氏人、○下略、正月一日、ノ條ニ異事ナシ、  
天晴五月一日、御神事如例、旬白杖永秀、御幣豐德、散米、日並朝夕音樂在之、旬御燒物・鮎鯨  
 十一ツ、干鮭輕物・鹽曳代鮑、  
 見參社司、○下略、四月十一日、ノ條ニ異事ナシ、  
 中臣氏人、祐久 延豐 祐繁 延實 祐途  
 大中臣氏人、○中略、正月一日、祐父不參、病氣養性、神人迎送如例、  
 五日、御節供、日並朝夕、神戸奄治庄半減、  
曇天十一日、旬御神事如例、日並朝夕音樂在之、旬御燒物・鮎鯨九宛・鹽曳代、  
 見參社司、○下略、四月十一日、ノ條ニ異事ナシ、  
 中臣氏人、○下略、正月四日、ノ條ニ異事ナシ、  
 大中臣氏人、○下略、正月一日、ノ條ニ異事ナシ、  
天晴廿一日、旬白杖、御幣、散米、旬御燒物・鮎鯨九宛、鹽曳代鮑、日並朝夕、音樂在之

六月神事

見參社司、○下略、正月一日、ノ條ニ異事ナシ、  
 中臣氏人、○下略、正月四日、ノ條ニ異事ナシ、  
 大中臣氏人、○下略、正月一日、ノ條ニ異事ナシ、  
天正十二 甲申  
天晴六月小一日、旬白杖、御幣、散米、日並朝夕、音樂在之、旬御燒物・鮎スシ九宛、輕物干鮭・  
 鹽曳代、  
 見參社司、家政 祐金 家光 延安 經久 祐父 延能九 祐岩 祐國 延清 祐範 祐  
 根  
 中臣氏人、○下略、五月一日、ノ條ニ異事ナシ、  
 大中臣氏人、○下略、正月一日、ノ條ニ異事ナシ、  
雨敷、神主九日、御祓、在之、十日、御祓、正預、在之、十一日、三、  
天晴十一日、旬御神事如例、日並朝夕、音樂在之、旬御燒物・鮎スシ九宛、鹽曳代・輕物錫、  
 見參社司、家政 祐金 延安 經久 祐父 延能 祐岩 祐國 延清 祐敘 祐範 祐  
 根  
 中臣氏人、祐久 延豐 祐繁 延實



七月神事

大中臣氏人、○下略、正月一日、  
ノ條ニ異事ナシ、

一、依下行夜入、

雨降、アマタリヲ四〇四時分晴、  
廿一日、旬御神事如例、○下略、本月十一日、  
ノ條ニ異事ナシ、

七月大一日、旬御神事如例、日朝夕、  
音樂在之、旬御燒物・鮎鮓七宛、鹽曳代・輕物鰯、

見參社司、○下略、正月一日、  
ノ條ニ異事ナシ、

中臣氏人、○下略、正月四日、  
ノ條ニ異事ナシ、

大中臣氏人、○下略、正月一日、  
ノ條ニ異事ナシ、

天晴、

七日、御節、日並朝夕、神戸小庄・大庄・櫛本ヨリ參、音樂在之、神主ヨリ日並朝夕、  
樂所へ下行、

見參社司、○下略、四月十一日、  
ノ條ニ異事ナシ、

中臣氏人、祐久 祐繁

大中臣氏人、時盛 時廣 經晴 師治 師隆

十一日、旬御神事如例、日並朝夕、  
音樂在之、旬御燒物・鮎鮓九宛、輕物鰯・鹽曳代鮑、

見參社司、○下略、正月四日、  
ノ條ニ異事ナシ、

小莊  
大莊  
櫛本莊

中臣氏人、延豐 祐繁 祐途

大中臣氏人、○下略、七月七日、  
ノ條ニ異事ナシ、

天晴、

廿一日、旬御神事如例、日並朝夕、  
音樂在之、旬御燒物・鮎スシ九宛、干鮭代鰯・鹽曳代

鮑、

見參社司、○下略、正月一日未刻、  
神事ノ條ニ異事ナシ、

中臣氏人、○下略、正月四日、  
ノ條ニ異事ナシ、

大中臣氏人、○下略、七月七日、  
ノ條ニ異事ナシ、

一、近般日並朝夕ニ桃ノヲカシキ・青藜・カタ梨子調進、言語道斷事也、從明日如此物  
體於調進者、可被止出仕之由被下知者也、

一、北郷常住代野田与次禰宜下可叶由同下知、

八月一日、御神事如例、日並朝夕、音樂在之、

一、御燒物・鮎鮓九宛、輕物鰯・鹽曳代鮑

見參社司、○下略、正月一日未刻、  
神事ノ條ニ異事ナシ、

中臣氏人、○下略、正月一日、  
ノ條ニ異事ナシ、

八月神事



大中臣氏人、○下略、正月一日、  
ノ條ニ異事ナシ、

一、今日旬伏菟・糰餅マカリクタククル間、ソサウ言語道斷ナルニ依ナリ、可被持科之由各評定也、雖然名主色々言間、來十一日ニ可奔走之由被下知者也、

十一日、御神事如例、日並朝夕、音樂  
在之、旬御燒物・鮎スシ九宛、輕物錫・鹽良代、

見參社司、○下略、正月一日、  
ノ條ニ異事ナシ、

中臣氏人、○下略、正月四日、  
ノ條ニ異事ナシ、

大中臣氏人、○下略、七月七日、  
ノ條ニ異事ナシ、

廿一日、御神事如例、日並朝夕、音樂  
在之、  
○下略、七月十一日、  
ノ條ニ異事ナシ、

見參社司、家政 祐金 延安 經久 祐父 延能 祐國 祐敘 祐範 祐根

中臣氏人、○下略、正月四日、  
ノ條ニ異事ナシ、

大中臣氏人、○下略、七月七日、  
ノ條ニ異事ナシ、

一、今日宮廻次大宿前ニテ兩常住申様、只今兩惣官へ注進ニ參、太刀辛御社ノ神鏡無御見、見付次第ニ申了、

九月一日、旬御神事如例、○下略、八月一日、  
ノ條ニ異事ナシ、

神鏡紛失

九月神事

油物ノ代リ  
ニ餅ヲ備進

見參社司、○下略、正月四日、  
ノ條ニ異事ナシ、

中臣氏人、○下略、正月四日、  
ノ條ニ異事ナシ、

大中臣氏人、○中略、正月一日、  
ノ條ニ異事ナシ、  
天晴、迎送神人如例、

九日、御節供、

日並朝夕、三橋代八種、三四  
神戶一二、

見參社司、○下略、正月四日、  
ノ條ニ異事ナシ、

中臣氏人、○下略、正月四日、  
ノ條ニ異事ナシ、

大中臣氏人、○下略、正月一日、  
ノ條ニ異事ナシ、

一、今日御節供若宮殿少神供ニ油物備進之處、無之間、餅ヲ代ニ備進可申之由、神主披露之間、不可叶由職事ニ下知之処、又備進可申由申間、職事曲事也、然者可被持科之由

評定之間、則下知之処也、

十一日、旬御神事如例、○下略、六月十一日、  
ノ條ニ異事ナシ、  
天晴、

見參社司、○下略、正月一日未刻、  
ノ條ニ異事ナシ、

中臣氏人、○下略、正月一日、  
ノ條ニ異事ナシ、



十月神事

大中臣氏人、○下略、正月一日未刻、  
神事ノ條ニ異事ナシ、

廿一日、旬御神事如例、日並朝夕、音樂在之、旬御燒物、○下略、六月一日、  
ノ條ニ異事ナシ、

見參社司、○下略、正月四日、  
ノ條ニ異事ナシ、

中臣氏人、○下略、正月四日、  
ノ條ニ異事ナシ、

大中臣氏人、時盛 時廣 經晴 家榮 師隆

一、去九日ニ被止出仕禰宜雖佗言披露申、無免除之、

十月小一日、旬御神事如例、日朝夕、音樂在之、旬御燒物鯛・輕物鯛・輕物・鹽曳代、

見參社司、○下略、六月十一日、  
ノ條ニ異事ナシ、

中臣氏人、○下略、正月四日、  
ノ條ニ異事ナシ、

大中臣氏人、○下略、正月七日、  
ノ條ニ異事ナシ、

一、職事雖佗言申候無免除、

十一月、旬白杖、御幣、散米、旬御燒物鯛一枚宛、輕物干鮭・鹽曳代、

見參社司、○下略、正月四日、  
ノ條ニ異事ナシ、

中臣氏人、○下略、正月四日、  
ノ條ニ異事ナシ、

十一月神事

大中臣氏人、○下略、正月七日、  
ノ條ニ異事ナシ、

一、先日、被持科弥三今日被免條者也、

廿一日、旬御神事如例、白杖、御幣、散米、日並朝夕、音樂在之、旬御燒物鯛殿別一枚宛、輕物

干鮭・鹽曳代鮑、

見參社司、○下略、正月四日、  
ノ條ニ異事ナシ、

中臣氏人、○下略、正月四日、  
ノ條ニ異事ナシ、

大中臣氏人、○下略、正月七日、  
ノ條ニ異事ナシ、

十一月大一日、旬御神事如例、日並朝夕、音樂在之、旬御燒物鯛・輕物干鮭・鹽曳代、

見參社司、家政 祐金 延安 經久 祐父 延能 祐岩 延清 祐叙 祐範 祐根

中臣氏人、○下略、正月一日、  
ノ條ニ異事ナシ、

大中臣氏人、○下略、正月一日、  
ノ條ニ異事ナシ、

一、今日願主人初參、藥井殿・奥原殿、ヒヤウ二郎殿、

十一月、旬御神事如例、旬御燒物、○下略、十月十一日、

見參社司、祐金 家光 延安 經久 祐父 延能 祐岩 延清 祐叙 祐範 祐根

中臣氏人、○下略、正月一日、  
ノ條ニ異事ナシ、



十二月神事

大中臣氏人、時盛 經晴 師治 家榮 師隆  
天晴 若宮神口息子  
 十五日、初參、若宮神口息子 祐紀  
 廿一日、旬御神事如例、日並朝夕、音樂 在之、○下略、十月二十一  
在之、日ノ條ニ異事ナシ、  
 見參社司、○下略、本月十一日  
ノ條ニ異事ナシ、  
 中臣氏人、○下略、正月一日  
ノ條ニ異事ナシ、  
 大中臣氏人、○下略、本月十一日  
ノ條ニ異事ナシ、  
 十二月大一日、旬御神事如例、白杖、御幣、散米、日並朝夕、音樂 在之、旬御燒物鯛・輕物干  
 鮭・鹽曳代鮑、  
 見參社司、祐金 家光 延安 經久 祐岩 延能 祐國 延清 祐敘 祐範 祐根  
 中臣氏人、○下略、正月一日  
ノ條ニ異事ナシ、  
 大中臣氏人、○下略、正月一日  
ノ條ニ異事ナシ、  
 十一日、旬御神事如例、依寺門下行酉刻ヨリ備進之、日並朝夕、音樂 在之、○下略、十一月一日  
ノ條ニ異事ナシ、  
 見參社司、祐金 家光 延安 經久 祐父 延能 祐岩 祐國 延清 祐敘 祐範 祐根  
 中臣氏人、○下略、正月一日  
ノ條ニ異事ナシ、  
 大中臣氏人、○下略、正月一日  
ノ條ニ異事ナシ、

元日

廿一日、御神事如例、  
 社司・氏人、見參大略同前、  
甲申十二月  
 廿八日、於神主家政宅、社司・氏人集會在之、氏人者近般中殿社家之被直度之由幼身也、  
 大略無事雖相調候、引付ヲ被見候處、非不出候由在之間、先被置者也、然處中殿被申者  
 其後被置候間、能被御覽候而ト被申候間、又廿九日ニ集會ヲモヨウサル、処ニ被出仕衆  
引カ  
 附付ヲ被見候之処、又其後被置候由在之間則被直候者也、廿九日ニ無事ニ被直候者也、  
 珍重々々、  
 〔春日社司祐國記〕○大 天正十二年甲辰正月吉日  
 元日以來万引附日記等也、天下泰平、國土安全、四海靜謐、家内繁昌、珍重々々、幸甚  
 々々、息災延命重滿、々豆所也、  
大雨下、  
 一、元日御強御神供三ヶ度備進、卅八所屋象、祐根・祐國・時廣・祐途出仕也、  
全西  
 一、御神事以後、辰刻、今西里宿所へ祐國・祐途兩人住例御祝儀在之、  
全西  
 一、早朝、カン餅六枝ツ、同二枝ツ、ソエ餅在之、  
膳一センツ  
 一、巳以後中飯在之、臈而以後、卅八所屋へ參也、  
千鳥餅  
 一、元日、卯刻、若神主殿より八種善各在之、



二日

- 一、未刻御神事如例在之、
- 一、今日旬御供二三、上殿方ヲ此方へ返給也、

正 二日、雨下、辰、庚

- 一、卯刻、從神主殿各へ祝儀在之、同以後聽而御旅御神供へ參勤也、
- 一、御旅以後里へ兩人出也、中飯以後聽而卅八所へ參勤也、
- 一、申刻、御神事在之、同以後若神主殿卅八所屋ニ縫初在之、各々御出也、

(正脱) 三日、天氣、巳、辛

- 一、卯刻如昨日神主殿ヨリ祝儀在之、

同元日ヨリ三ケ日マキ

- 一、中飯ヲ重ハコニ御持上候、御方・若神主殿・(輕清)正眞院殿・宮内殿兩三人被持候、惣ノ衆ニ御參候、

- 一、于時導師ハ識舜房也、フセ物ヒタ百文也、

- 一、來六月一日ヨリ春日社屋ニ一七ケ日參籠、心春ノ房ヨリ御申也、布施物七合升ニ七升給也、〇以上三條、五月二十三日ノ記事ニカ、ルナラン、

(五脱)

廿九日、乙、天晴

縫初

六月祓

參籠

流鏝馬初

遷宮

- 一、早々辰巳殿へ祐國イト兩人、(脱アルカ)
- 一日垣萬仕立也、

六月小一日、丙、天晴、

- 一、御神事巳刻ニ如前々也、

- 一、御神供以後、竹林院へ御祓ニ參也、次ニ賢聖院へ七日ノ日事入魂ニ參者也、

- 一、今夜ヨリ卅八所屋ニ祐國參籠仕者也、

- 一、今日日並之供頂戴之、

- 一、別會五師、惣珠院ニヤフサメ初如前有之、

六 二日、天晴、丁未、

- 一、伊賀殿御出、夕飯申者也、

七文 ヒタ サケ買也、

- 一、廿文 ヒタ 西里女カ明日御供物可給之由申持參、

六 四日、天晴、己酉、

- 一、賢聖院之ヤ二郎來候て、遷宮之事定之也、

天正十二年雜載



別火

神供

- 一、三斗五升米請取こ人參候、此内五升ハ兩度ノ御供之方也、
  - 一、六 五日、天晴、庚戌
  - 一、今日、明日之精進、加タヒラ、大炊殿タキヘス、キ持參也、同仕女モカミ水行水、其タキヲ仕女カ衣モス、キテ仕也、于時 与モ女アカ也、
  - 六 六日、天晴、辛亥、
  - 一、今日早々於卅八所屋へ与モ女・大炊殿、粥之水ヲ一桶持參、祐國今日ヨリ別火之間、屋ニテ（水カ）こりヲ仕候て里宿へ出之、別火之飯養申也、別火之方萬ノ仕女ハ与モアカ也、ヒハチニテ如此、一エンニ仕也、
  - 一、夕移殿へノ御供別ニ火ヲ仕而御飯用意之申也、
  - 一、入合之時分ヨリ賢（聖）□□へ參也、イトケンネキ同道也、同御神供・淨ソク・カムリ・手水（サケ）御幣シテ有之、サン米白・ヨシキ・カンナカケ一枚、
  - 一、御神供ノヨシキ・カンナカケ三枚、
  - 一、御神供者、八種盛者也、
- 白瓜 茄子 牛房 竹子 イキニサモ、一

今市ノ土器

神具

- 白餅キリ盛 赤餅キリ盛 スモ、同、イキニハシハミ五、
  - 一、御飯ハ白米四合ニテツキ入也、長クツクネテ五ト入ニ盛也、
  - 一、アカ、ワラケハ、キマイチノヲ米二合ニ廿二也、
  - 一、何カ萬ハイト源ノ尉始末也、
  - 一、チハヤノキ又八・ヤ二郎方（ヨリ）地走、
  - 一、ヒサツキノ此方ヨリ持參之、（能カ）
  - 一、敷コモ、此方持參之、
  - 一、盛物ハ五六寸也、白モチ三合ヲ、赤モチ三合ヲ、
  - 是ハ七日ノ御供ノ道具也、（具カ）
  - 一、六日ノ移殿ノ道具ハ、此方へ頂戴申候間、八種ヲソホンニ仕也、
  - （六） 七日、天晴、壬子、
  - 一、朝飯如昨日与モアカ女仕也、
  - 一、夕飯（イト）カメ、与モ兩三人供申也、
- 如昨夕賢聖院へ入合ヨリ參也、□（六） タノ御神供ハ、賢聖院へ可□（六） 一段房主御祝



參籠

三十八所屋  
退出

注連ノ張リ  
方

着也、 ノ調ハ一段別ニ火ヲ可仕者也、 遷宮御シメ万過而房主 也、  
重フク間、遷宮以後ニハ 角ノ儀不申候、

一、房ヨリ罷歸而水行水仕候て、卅八所屋へ祐國參籠也、一日ヨリ今夜マテ七夜也、  
六 八日、天晴、癸丑、

一、早々卅八所退出也、同朝飯心春房方給候也、  
一、二升小鯨二、若神主殿へ進入、

一、酒二升二合入、日中以後ニ正眞院殿御兩人、甚七郎、兩三人ニ申者也、  
一、中飯与モ男女 兩三人給也、

一、御供方別火ヲケ大少二、  
ホロク大少三、  
様一枝、

一斗四升四合 道具 買物之方、  
同五日・六日・七日マテ飯米方一斗アマリ入也、

一、白布手ノコイ一、ケンヤ二郎ニ給也、

一、御シメノ引様ハ甲ノ日ハ乾イヌイヨリ引ハシメテシメンニ乾テ納也、乙日ハ坤ヒツジサルテ引ハシメテ、シ  
メンニ坤テ引納也、

ワラタケハ生(マ)シテ四サカリ、

竹ノ永ハ金八尺也、竹四本入也、

一、ワラ二筋ツ、ワラトワラト間モ金八寸也、

一、シテトノ間モ八寸也、

六 九日、天晴、甲寅、

一、今西内別火ニナル也、四月五日無之而當月有之也、

一、朝飯識舜申也、

一、中飯イトケンニ申也、

一、下ノコウヤへ内方帷ソメニヤリ也、

六 十日、天晴、乙卯、

 卅八所ヤ千座御祓<sup>(マ)</sup>在之、 主殿御上様ヨリ酒ケンヒ五ツ 候也、  
御母(マ)々ノ十七年カト云也、

六 十一日、天晴、<sup>丙</sup>辰、

一、五百文奉  
一、眞春房へ御祓ニ參、中飯在之、同少次參、

天正十二年雜載

千座祓

祓



天正十二年雜載

(六覽)

十二日、天晴、

一、早々別會へ兩三人參之、同歸リ行水仕候て祐國御宮廻也、

六 十三日、天晴、午、戌

□ 畠神山山内ケンハ方ムキヲ山内ノ □ ケクワン わつこはうしんくわん  
アリス

□ 十四日天晴、未、己

一、今日御宮廻仕也、

六 十五日、天晴、申、庚

一、西畠ノ垣仕也、

十七日、天晴、壬、戌

一、於大神宅(主殿カ)(集カ)□會在之、子細者夕御供ノ事也、

(六覽)

十八日、天晴、癸、寅

一、眞春(マ、)之房へ中飯ニ參之、

(六覽)

十九日、天晴、甲子、

一、(東カ)□地井大殿へ參、中飯在之、

大神主宅ノ  
集會

六 廿日、天晴、乙丑、

一、御神供已刻備進之、

□ 庄ヨリ小七郎被歸候、□飯、行水在之也、

六 廿三日、天晴、

一、明永房初被出也、

六 廿四日、天晴、

一、御祓道俊七八仕也、

(六覽)

廿八日、雨少下、

一、日中若神主殿より今西内象へ給候也、

七 五日、天晴、

一、早々竹林院へ御祓ニ參物也、中飯在之、

七 十二日、天晴、

一、如例若神主殿同道仕、早々ハカへ可參也、

ヒ夕

卅文 宗叡方へ、

天正十二年雜載



天正十二年雜載

- 一七 十三日、天晴、
- 今日中飯ニキキミ玉仕也、若神主殿御兩四人御出、禮共御上さまのハツ膳送申也、
- 一、辰巳殿へハ八木一升トヒモノ魚進入候、
- 一、ハモ汁チセンニアハヒ御供ノヲ  
サ、キ、メシ
- 同若神〔主殿カ〕ヲチノ人 ヨモアカ、カメ一如此也、
- 七 十五日、天晴、
- 一、御神事如例也、
- 〔土〕六日、庚今日ヨリ百日參籠在之、
- 七 十八日、天晴、辰、壬
- 一、於東地井殿ニ月次在之、汁ハ慈魚ニ茄子入之、夕部スイトン・酒在之、
- 一、來月ヨリ酒四升〔一ツ〕荷一ツ、之由也、
- 七 廿日、天晴、午、甲
- 一、巳初御神供備進之、
- 一、自十八日至今日マテ三ケ日間拜殿ニ八乙女在之、退出也、

七 廿一日、未、乙

一、明日日並之神供縫方へ荒神五月ノコノふせ下行之、

七 廿二日、天晴、

一、今日御供荒神ノフセニ下行之、

一、五升三合御供米方ヒタ百五十文ニ 四郎下行之、

八合米ニサン用、

七 廿五日、天晴、亥、己

一、出羽殿垣祐國・禰宜セント兩人仕、同早々參也、

一、中飯今西・内・同少次・シヤミ四人ニ在之、祐國ハ夕方飯給候也、

一、七 廿六日、雨少下也、

一、今日しやふ半分祐國ネル也、

一、□殿御神供甚兵衛より預申候而、來月二日ノヲ可取由也、

七 廿七日、天晴、

一、妙壽ノ口、宮千代口与スル、代ヒタ五文ツ、也、

一、今西内方別火也、

七 廿八日、天晴、

天正十二年雜載



- 一、奥殿副番代官ニ祐國參勤也、  
(家卷)
- 七 卅日、雨夕部マテ下也、
- 一、越智川西ノ弥六來也、飯給候也、
- 一、若神主殿風呂入也、
- 一、シフツク也、ちヤウクハル也、
- 八月小一日、天晴、
- 一、早々弥左衛門ヨリ赤飯三升計進上之申也、  
今西方へ
- 〔榊木ノ本方へ八木貳斗六升、此内一升ハカンマイ、于時五合タラス召ナリ、然者此方升ニ二斗六升五合入也、本ハ貳斗五升、樽一出被申也、
- 一、御榊木籠納ニ參神人ハ、藤兵衛・中西与三・又二郎兩三人、此者ニハモノ鯨白皿ニ一ハイツ、盛而酒在之也、
- 一、今日中飯辰巳殿ヨリ内方へ給候、別火候間ニ而給候也、
- 八 二日、雨一日中下、
- 一、竹林院へ御祓ニ參也、
- 一、膳一セン 与衛門より來也、

榊木納

- 一、今日小しやミ、辰巳殿へ歸也、
- 八 三日、早天雨下也、  
一日中
- 一、京都ニ御出候也、
- 一、今西ゆい火仕也、
- 一、昨夕 一モシ在之、
- 八 六日、天晴、
- 一、伊賀殿御出也、
- 八 九日、天晴、  
丑、癸
- 一、若神主女房象上下・今西内方・小次寺内へ參詣也、
- 一、伊賀殿ハカマ下ニ渡也、  
伊賀殿
- 丙 十二日、夜雨下、
- 一、内方別や火仕也、
- 一、八 十三日、巳、丁一日中大雨下也、
- 若神主父子ノ代官參也、
- 伊勢ヨリイト源下向也、同藤五郎同道也、



- 八 十四日、戊午、雨氣也、
- 一、於卅八所屋御祓在之、
- 八 十五日、天晴、己未、
- 一、於若神主殿日々在之、
- 一、おての西南垣仕也、
- 八 十六日、天晴、庚申、
- 一、帶トキノ茶ヤセイシニチヤケンカシ時ニ茄子六十枝參也、
- 一、東島又三郎ウツ時ニ茄子ヲ木ヲ引也、
- 一、今日伊賀殿御出、中飯在之、
- 八 十八日、天晴、壬戌、
- 一、西東兩方之畠万菜マク也、
- 一、今西内方ハツセヘ參詣也、
- 一、横田ノ与一方上間、四合サケのりテノマスル也、
- 一、夕飯若神主殿下女ヨリ兩人ヲ持來也、
- 八 十九日、天晴、癸亥、

- 一、朝飯 今西内テ在之、
- 一、中飯 若神主下女ヨリ兩人ヲ上也
- 一、今西内長谷寺ヨリ八過ニ下向也、
- 一、横田与一來而米四合・酒給也、
- 一、八 廿日、大雨下、甲子、
- 一、各山祐國今日御神供已刻ニ備進之、
- 八 廿一日、乙丑、大雨下也、
- 一、旬御神事已時備進之、
- 八 廿二日、雨氣、丙寅、
- 一、自今日夜於卅八所屋ニ若神主殿ノ御衆ト今西内方同道一七ケ日參籠在之者也、
- 一、御神供已刻ニ備進之、
- 一、合場城殿山マテ御出也、祐國入魂申也、
- 一、八 廿三日、丁卯、
- 一、今西内方今日朝飯以後自卅八所屋ヨリ被出也、毎月ノ別火ニ被出之故也、然者廿二



日夜ハカリ一ケ夜參籠者也、

八 廿八日、雨氣、申、壬

一、夕飯於卅八所屋各若宮神主殿給也、

同祐國兩人給候也、

八 廿九日、雨下、西、癸

一、若神主殿家今日退出也、

一、自昨日菜ヲヌキ初也、

甲 九月一日、雨下、

一、内方別火、廣成則拜殿へ參勤也、

九 二日、天晴、亥、乙

一、竹林院へ御祓ニ參之也、

一、法花寺ヨリしやと上也、

九 三日、天晴、子、丙

一、御神供頂戴之申也、

一、今西内別火ニ成也、

九 四日、天晴、丑、丁

一、賢聖院へ御祓ニ參也、御布施物五升給候也、

九 五日、雨下、卯、戊

一、庭ノ上口障子ハル也、

一、今日夕ノモ在之、

四十八文カケ錢、來十三日マテカケ也、

九 六日、天晴、卯、己

一、日並御幣紙、七日八日 兩日請取也

九 七日、天晴、辰、庚

一、伊賀殿トマリカケニ御出也、

一、屏風ハル也、

九 八日、天晴、巳、辛

一、御宮廻、伊賀殿同道也、

一、栗ハ不買、ヨソヨリ來也、さゝきも同、

九 九日、天晴、午、壬



天正十二年雜載

- 一、御節供每事此通也、
- 一、夕飯、若宮神主殿へ今西内家各下女マテ參也、
- 九 十日、天晴、未、癸
- 一、今日内方別火アク也、
- 九 十一日、天晴、甲申、
- 一、心春房へ御祓ニ參也、
- 一、今日祐途出仕申也、
- 五百文 奉在之、
- 九 十三日、天晴、丙、戌
- 一、今日五領祭〔袋カシ〕ニ清束カス也、米一斗ツ、ナレトモ當年ハ八升ノ通也、  
百六十文 八升代ニ可取也、  
ヒタ
- 九 十四日、天氣、丁亥、
- 一、小しやミ法花寺へ歸也、同箸尾そうゆふへ下也、  
ヒタ 廿文ハシノカ、へ、
- 一、夕部中房若神主殿ニ御合也

- 一 九 十五日、天晴、戊、子
- 一、若神主殿〔二祝カシ〕而御祓ハサム也、今西兩人、  
ヒタ
- 一、百六十文、八升代五領祭ヨリ請取也、
- 一、伊賀殿御出也、
- 九 十六日、天晴、己、丑
- 一、於卅八所屋ニ惣社之祈禱在之、頭役若神主殿御沙汰也、コツケ在之、  
クロマメ、汁大根コマ、  
ヒラ本 メシ 在之、
- 九 十八日、天晴、辛、卯
- 一、祐途ハシヤウヨウ也、酒一升持參也、
- 一、又今日内方別火ニ成也、
- 九 十九日、壬、辰、雨下也、
- 一、今日祐國副番也、御神供入合時分備進之、
- 九 廿日、天氣、癸、巳

天正十二年雜載



月待

- 一、於正眞院殿御祓仕也、
- 九、廿三日、申、丙
- 一、祐國御月待申也、一人歟、  
(九號) 廿五日、天晴、戊
- 一、若神主殿女房衆、同今西内・正眞院殿衆各も(分脱カ)ちと也、女房衆廿人アマリ在之、人別米五合ツ、ノ出錢 ヒタ 十文ツ、也、
- 一、火桶祐國仕也、
- 一、御祓本書、伊加殿ヲ、  
(置カ) (マ)
- 一、烏帽子仕也、
- 六合 酒五合買之、
- 正眞院殿御兩所ニ申入也、
- 九、廿六日、己亥、雨下、早々ヨリ、
- 一、今内カ今日火アク也、
- 九、廿八日、天氣、辛 丑
- 一、ヒタ 八十一文祐國分仕者也、兩人ニ入目、

十月小一日、辰、甲 天晴、

一、旬御神供六七給也、

一、旬頂戴申也、

(十號) 二日、乙 巳、雨下、

一、竹林院へ祓ニ參也、

十 三日、雨下、

一、今日御神供辰巳殿進入、

一、夕部飯ニ ヤナカ也、

十 四日、天氣、

一、夕ニ入小僧住吉ノ社僧、若衆・下人兩三人ト合四人來候て夕飯、若神主殿ニ夜宿(置カ)かり申直也、

十 五日、雨下、

一、早々飯生衆四人ニ申下也、

一、百文カタノモシエ(也カ)九月ノ四十八  
十月ノヲ四十九



十 六日、雨氣、

一、庭ノ上ノワラヤネフク也、

一、今西内別火ナル成、

十 七日、天晴、庚戌

同庭ノヤネフク也、

一、ス、一具 文識房へ進入、

〔干歴〕 八日、天晴、辛亥

一、カサツ、ル也、

一、昨夕ケン越智ヨリ被上候、

十 九日、天晴、壬子

一、巳時 祐途番ニ祐國參也、

十 十日、丑、天晴、癸

一、午時御神供備進之、祐國・祐途番代祐國參、

十 十一日、天晴、卯

一、若宮殿ヨリ旬御供出之、八九十二テ支配也、

一、あわこ ツ、リハル也、

五文 シフ、

一、十 十二日、大雨下、卯乙

十六文 ウルシ買、

一、新烏帽子ヌル也、

十 十五日、天晴、戊午

一、於奥殿宅各・今西祐國・祐途參申、御日奉待候、夜御會ハメシ、同テンカク、酒在之、

一、卅三度 ライ 心經百卷仕、御日向之上也、

〔禮〕〔月カ〕  
井ノヨウ日  
十 十七日、天晴、庚申

一、宮廻仕也、

十 十八日、天晴、辛酉

一、麥マキノ中飯、又三郎女持參也、

十 廿二日、天晴、乙丑



- 一、巳時御神供備進之、
- 一、若神主殿ニヒタ拵付仕也、
- 一、上殿ニヲヒ・エタウフク・カサカス也、
- 十 廿三日、天晴、丙、
- 一、今日ノ御神供ヲ明日廿四日ニ坂上殿へ下候て、米ヲ可取用ノ儀也、
- 十 卯、廿四日、雨風在之、
- 一、坂上殿御神供下也、
- 一、十一 十三日、天氣、
- 一、若神主殿へ參、經入
- ヒタ 三百文、祐國持參、
- 十一 十四日、天晴、
- 同若神主殿へ各參也、
- 十五日、天晴、
- 一、若宮神主殿千鳥祐宅若子三歲ナリ、烏帽子儀在之、朝飯神人衆方、

- 一、社中衆方中飯後恒マ在之、大酒也、
- 十一 十六日、天氣歟、
- 一、於若神主殿宅夕飯、各しやくモチナシ在之、
- チセ コンニヤクニマセナリ、汁鯛也、大酒在之、
- ナマス 飯
- 十一 廿五日、天氣歟、
- 一、如例神主宅御ユ在之、
- 十一 廿六日、
- 一、兵家方大宮方之御幣ノケキ白申也、若神主殿ヨリ被仰者也、
- 十一 廿七日、天晴、
- 一、今西祐國・祐途兩人出仕也、
- 一、今内方モ  (ハハエカ) 出カ仕之子細ハ、別火不定間如何様ノ高ノ精進ナトヤフリテハ存申而如此ハ、エ出仕申也、
- 極月大 一日、天晴、ミツト 卯、
- 一、御神事如例也、



- 一、夕飯ニ鳥汁振舞、甚兵衛・ケンノ尉兩人也、
- 一、十二 二日、天晴、辰、
- 一、キク菜仕也、
- 一、今日若神主殿より吐田殿へ旬御供、樽一荷、成實殿へミソレ一荷被下候、
- 一、今西方カウシヤへ<sup>フ</sup>下候、
- 十二 四日、雨下、丙午、
- 二升 <sup>(マ)</sup>殿之云也、
- 一、御神供頂戴申也、
- 一、キクヲ仕者也、
- 十二 五日、天氣、丁未、
- 一、今日ツノホ鍋ヤへ今西内方若神ヲチノ人萬ノ仁平用ニ被參者也、
- 百文 <sup>ヒタ</sup> 今西内持參也、
- 申、十二 六日、雨下、天晴、
- 一、明永房今日シヤウ□也、

- 一、祓ノシテカク也、
- 十二 七日、天晴、己酉、
- 一、今日より小カンニ入、
- 一、スゞへ祐國歳暮ニ參也、
- 一、祓串二百座仕者也、
- 十二 九日、天晴、辛亥、
- 一、竹林院へ御祓ニ參也、
- 十二 十日、天晴、壬子ハセンニ入、
- 一、祐途番役ニ祐國參、
- 一、文識<sup>レ</sup> <sup>のミ衣</sup>ヌイニ、<sup>内、</sup>
- 一、慈魚 <sup>一丁、若神主彦三郎振</sup>舞也、<sup>汁ニ入候也、</sup>
- 一、十二 十一日、天晴、癸丑、
- 一、酉別旬日並、朝夕備進之、



十二 十二日、天氣、甲、

一、井ノモトヲ贊、今西ノヲ、

人數 若神ノカメ一・三郎・今西、兩三人歟、

十二 十三日、天氣、乙、

一、如例今西家ノス、ハキ、人數与毛女・内下女也、

一、若神若子ノ番初也、神主殿・同父子、今西祐國御供申也、同兩三人參勤也、宇馬、祐紀

ト祐國ト書之申候、

ヒタ

三百文 若神主殿より今西方へ給候也、

ス、一・魚一・大根三本若御内より給候也、若子ノ番初祝也、

十二日

十四日、大雨下也、丙、

若神主殿

一、祐紀殿番役ニ祐國參、祐途クヌキツムキ御ヲリ候、

十二 十五日、雨下、丁、

一、同祐紀殿番役ニ祐國參、

一、炊殿ス、ハキ在之、如例也、

一、イノモトノ水クミ初也、

十二 十六日、天氣、戊、

一、八斗米 正月のヲ同モチ米一斗カ、 ツク也、

人數 ケン・若二郎・同女・若三郎・今西内ノ下女、

夜ノケンスイハソハ也、

一、十八日、月次若神主殿在之、

惣へ中飯御振舞也、

廿日、天氣、壬、

一、御神供巳時參之、

十二 廿一日、雨下也、癸、

一、若神主御上別火ニ在之、

一、如例拜殿ノス、ハキミス、樽一、朝飯以後下女一人出之、

一、拜殿ヨリ中飯、樽一分ニ出之、此外ニ急そのナマヤキ物二ツ送之也、

一、メシノヲマワリ、・アミ物二ヒキ



シルハナノ汁也、

一、十二 廿三日、天晴、乙、

一、如例若神主殿ス、ハキ在之、

同日中注例カ(軍力)ンニテ酒在之、

同以後風呂在之、

同夕部如前々夕飯在之、今西内方・祐國・祐途給候、御汁ハ鯛汁給候也、

〔多聞院日記〕

三十一

正月朔日、

○中

從宵一夜降雨、社參、夜明雨止、路次難澁之間、

日中時分社參了、孫一郎奉幣了、

二、(日殿)天氣快然、社參、早旦、蓮・常同道了、

三日、夜中ヨリ雨降、社參了、カモン代ニテ出了、蓮同道了、

四日、雨下、社參代新左衛門二十日分申付之、宿衆、禮一獻、日中飯如例、

九日、○中雨降、社參了、觀禪院・圓明院雖呼不出、

十五日、

一、散鬼打、粥如例、社參、ソレヨリ八幡宮參了、奉幣俵屋代ヲ申付、十足遣了、

散鬼打

多聞院英辨社參

薪能

二月七日、社參了、梅木奉幣之本十足直ニ遣了、

一、薪之能明日ヨリ如形可在之由、則今日少々クラカケ立了、

十日、

一、○中堯舜(房下同シ)、里ヨリ歸トテ信樂茶壺・錫一對被持參了、薪能如形在之、

十一日、○中略 薪能如形在之、

十二日、各出之衆へ直ニ禮ニ出了、宿來、日中飯申付了、社頭ニテ能在之、

十四日

一、○中略 薪能今日計敷、如形在之、

廿一日、長賢、・禪舜、・陽教、同日社參了、花漸盛也、梅・桃・櫻大旨同時也、夕部

陽教房來、此但舉一談義了、

廿九日、福智堂忍幡(因九)、社頭ニ去廿四日ヨリコモル、一荷・食籠持セ見廻了、宇多へ遣神

人歸了、不調、

三月三日、社參、蓮長・善、同道了、天氣快然、節供如例、及暮雨下、若君様へ見廻了、

錫一對・茶一種・一盆ツミマセ持參了、



安居

四日、新三郎明日吉野へ參トテ別火了、  
十一日、社參了、  
廿五日、社參了、安居道具内々用意、新造屋へ先入了、  
卯月一日、社參、常同道了、  
十三日、

辰市祐金  
奥田家政

一、正預辰市七十五才云々、大宮神主奥田モ同年也云々、  
十四日、後夜ヨリ神前勲行始之、天氣快然、裝束如例、信讀經發願了、  
一、北郷ノ夕左近神殿守ニ成上、大營在之、廿石余入敷云々、  
一、於神前伶人舞樂在之、祈禱云々、

十八日、延信房登高座了、善春里ノ衆社參了、豆飯持了、自是茶出之、  
五月小朔日、天氣快然、社參數多、長賢房社參來了、餅一重持來、

三日、若神主(千鳥祐忠)百座被修之、フセ十合二斗遣之、串彼方ヨリ調被來云々、日中飯申付候、  
赤童子ハ御身色赤故ニ申也、俱摩羅童子ト申也云々、鹿嶋ヨリ御影向神ト申ハ、一ノ  
御殿ニ付テノ事也、余ハ時風(辰市)・秀行(大恵)ノ勸請也ト、

百座被  
赤童子ハ俱  
摩羅童子ト  
言フ  
鹿嶋ヨリ御  
影向神

傳弘法大師  
作ノ被

一、當室ノ御神供ノ時ノ被ハ弘法ノ御作也ト、ヨサセトサヲニコル、安國トクノ字ヲニ  
コリテヨムト、若神ノ説、  
一、昔ヨリ當社御對面每度半面也ト、愚夢ニモ片顔奉拜ト語ル時、如此被申了、  
廿三日、

○筒井(廣野)後室社參了、

一、孫一郎今日迄七日宮廻申付候、フセ一斗遣了、  
六月十四日、  
一、小社建立ノ事、色々筒井後室付雖申入候、不調之由返事在之、  
十六日、

一、予廿九才ノ時、當社松屋良ノ部屋ニ百日籠道人ノ思立御暇乞と存シテ、信讀卷無善  
其外理趣分、一々若三禮ニ書之、五月之比ノ曉ノ夢ニ、誰ノ歌共不覺、  
うけよなを時雨あつらきならいなれと

月の宿る紅葉(葉説)の露

とありし、神の御告にやと永離寺ノ思留ルト或仁ニ語ルニ、さやうの事高野ニも元あ



りし、數年住山ノ人、住うきまゝニ下山せんとて、爲暇乞明神ニつやせし夜夢ニ、  
此山の垣ねな出そほとゝきす

いつくの里もおなし卯の花

とありし故ニ、不出して遂往生の素懷畢云々、

或古歌ニ

いつのたもおなし夜さむのうら波を

しらて千鳥の行のよふらん

と同心事也、

廿九日、

名越祓

一、名越輪ノ祝義沙汰之、輪コレニテ予祓沙汰之、小麥餅宿ニテ申付候、宿へモ小麥…  
舛遣之、坊ノモ申付候、輪御供所へ遣了、

七月十日、

一、箸尾御神供宗十郎方へ二石三斗渡由申上了、合三石八斗濟了、宗十郎ヨリ釜口へ引  
替ニ可渡通約束了、

十一日、蓮成・金勝社參立寄語了、成身院毎事曲事ト順慶より申在之、追出敷ト云々、

先後室ノ拘云々、昨日ヨリ當社百日參始之、信讀大般若發願云々、當室結願ノ卷數ニ  
合認了、

八月朔日、雨不降、社參數多之、方々音信別ニ注之、

九月九日、天氣快然、不能社參、老足ノ故也、昨日以外草臥了、

廿一日、

一、社參了、長善、新造屋ニコモル、會合以下ノ札遣之、

廿八日、荒神社參了、次ニ新造屋長櫃ニ道具入テ下了、

一、昨夕ヨリ船戸屋ニ大門様御コモリ也、一七日ト云々、立寄了、

十月一日、社參了、大門様船戸屋へ參了、一瓶・兩種進上了、天井ハリ用意取置了、箸

ケツリニ連宗來了、

六日、長賢房天川へ明日ヨリ參付、日中ヨリ南へ下了、

七日、天川へ明日亥ノ間長賢房參了、予代ニ与一申付候、御場開帳兩人シテ可沙汰之通  
也、專識、・香賢、・長尊、同道了、



十日、天川ヨリ長賢房下向了、迎馬ヒセンヨリ岡ノ南迄遣ト、

廿一日、社參了、

十一月廿一日、心精進也、<sup>(聖女)</sup>聖女ニサンケ、門ニ四目曳、社參了、蓮成院・良敷房同道、

御幣新二郎子出之、伶人寺侍中務子六才始テ入由申、社參之間一斗合力了、是ハ錫持禮ニ來了、

十二月十一日、社參了、奉幣、若宮五郎左衛門父子ニ申付候、廿足ツ、遣之、蓮・常同道了、門跡へ參語申了、

十四日、

一、覺情房語テ云、若宮ノ神主去月廿五日ノ曉アクレハ廿六日、於卅八所ノ屋夢ニ、是ノ坊へ神主來テ見レハ、客殿一段廣々トシテ、金屏引廻テ莊嚴鮮也シ、座上ニ愚身ト神主ト並ヒ居ル処ニ廣ニワヘ大ナル馬一疋タツタ莖ヲキセテ、大鬚ナル人ヒカヘテアリ、何方ヨリ來ソト尋レハ、是ハ泉涌寺來ル鏡トキ也、當坊ノ鏡ヲトクヘシト云々、則愚身是ニ鏡アリトテ大ナルヲ取出テミカ、スルニ、此鏡ミカキ立レハ、八尺ハカリナル光ヲ放テ空ニアカル、又夢心ニ、卅八所ノ屋ニ神主我カ鏡ヲトカスルニ、少キ鏡

卅八所ニ於ケル夢想

龍田莖

願主人片岡ノ藥井

頭屋トナレハ神慮カ

汁粉

神道モ法相ノ意モ同心ナリ

泉涌寺ノ鎮守

也シ、彼仁ノ云、此鏡ハ清候也、トクニ不及ト申、其後又是ノ坊ノ心ニテ、愚身ニ神主ノ尋テ云、今ノカ、ミトキハ何方ヘソト尋ルニ、内へ入了ト愚答、此時夢ノ希特<sup>(奇)</sup>ハ光ノ指ス時、雨ハラハトフルト見シカ、廿六日ノ朝雨ハラハト降了、又廿六日夜宮ニ、片岡ノ藥井願主人神馬五疋ノ内ニ一疋ニタツタ莖キセテ參ル、是ハ其例ナシト申付ケシカ夢ヲ思ヒ出テ其マ、啓白了ト、以上覺情房說也、直ニ猶夢ノ様可尋之、彼夢ノ様誠ニソノマ、頭屋ノ時明神御影向難有事、今度頭屋叶神慮歟ト満足了、<sup>○多聞院英俊、田</sup>

樂頭屋トナルコト、十一月二十七日ノ條ニ見ユ、

十五日、

一、若宮神主來テ夢想ノ事被語、趣大旨如上、門前ニ裏頭衆百人斗、其外社家・神人交テ事々敷群集也シ、中ヨリ馬ニノリ來リ了、光ハ二丈・三丈モアリシ、神主・愚身並テ、九居ノ膳ヲスエ、美々敷體也シ、内ニシルコノ餅ヲ巨多ニモリテ、サタウアメヲカケテ食之、其時鏡モミカ、サレハ無光、餅モサタウアメヲカケサレハ甘美不知事也、サテハ神道モ法相ノ意モ同心也ト愚身申ス、サテハ神主モ鏡ヲトカスヘシトアリシニ、清レハトクニ不可及、サテ今ノ仁ハ何クヘソト云時ニ、廣縁ヨリヲクヘ入、跡ヲ見失也、彼人ハ泉涌寺ノ鎮守ト覺タリト云ト見テ夢覺了、惣ハ覺情房語ル、<sup>(ラ脱カ)</sup>趣也、希



代ノ事、尤可貴々々、

廿六日、社參了、若神息三才、エホシ祭禮前著了、爲禮百足遣之、并爲音信扇十本持出了、餅白十合、一石五斗洗入了、

〔賀茂別雷神社文書〕〇山城

貴布禰大明神參錢

貴布禰大明神の參錢參等事

- 一、從貳百文可上申事、
- 一、太刀・刀同前事、
- 一、絹布・小袖・帷等可上申候、

此上少も於私曲仕者、賀茂・貴布神大明神可罷蒙御罰者也、仍如件、

貴布禰惣中

天正十二年十二月晦日

丹後介（黒印）

左近次郎（略押）

衛門三郎（略押）

左衛衛門尉九郎（略押）

九郎三郎（略押）

賀茂惣

賀茂惣

御役者中

參

北野社節供日記注文

〔北野松梅院文書〕

〇一 京都大學所藏文書所收

九月九日御節供、

廿合之内、くり一合・かつし七、十五・みつるん卅五、酒三ひさけ、

八合之内、但一合不足、此内、酒三ひさけ、代官はちのいひまいらする也、此分目代へ渡申候、

十四合之内、但一合不足、此内、ひさけ、時ノ御執行へまいるなり、

十四合之内、但一合不足、殘而、十三合まいる内、

〇一合・さけ五ひさけ、御奉行へらり、但此内一合小預被下候、又一合沙汰承仕被下候、又一合公文承仕被下候、殘而十合、御奉行へまいる、

此外九合殘申候を、又一合小預、一合公文承仕被下候、殘而七合在之を承徳分ニ被下候者也、此七合ニテ沙汰承仕・公文承仕祝儀仕候也、

天正十二年九月九日

能福

九月九日御供日記注文（能）

能徳書テくれ候也、



〔春日神社石燈籠〕

和○六

天正十二年甲申

春日社石燈籠寄進

春日社奉寄進夜燈 宇多郡井足新正久勝 白敬

十一月吉日

天正十二曆甲申

春日社 奉寄進爲所願成就也、

十一月廿一日

宇多郡芳野

宮内少輔藤原朝臣季□白敬

〔永祿年間の天正年中迄雜記〕

○神宮文庫所藏

金子三分栗野殿御口入候、

拾月十日、

五百文 拾月廿五日、中西善三殿口入、

屋形升

味噌四ツ、栗野殿取のへ

しやく八内六文あり、六部、三百九十文、栗野殿御取のへ、

金子一分中西善右衛門殿御取のへ、十一月十三日、

六升七合屋のた升

栗野殿御取のへ、

六十文

酒三升 栗野殿

此内二百文酒代也、

五百文 中へ善衛門殿御とりあへ、拾月十一日

天正拾二年正月十九日

御はらい二わ しきふ殿取のへ也、

御つほねさまへ

一分二味あわの殿とりあへ、四月十一日三文子也、

天正十二年御川之事

中西善衛門殿 弘政 御頭也、永樂五百文と米四斗四升、二拾石之時うす錢五百文とおのみ

永樂錢 薄錢

天正十二年雜載



米三斗五升也、黒印

造外宮一頭  
方小工職

〔天正年中記録裏文書〕

造外宮一頭方小工職之事、藤原定時得讓候、藤原盛久得讓候、此旨可預御披露候、恐々謹言、

天正十二

拾月廿一日

外宮作所

(松本)  
堯彦 (花押)

謹上 藤波殿

〔天正年中頭工補任記〕

○神宮文庫所藏

豐受大神宮  
小工

(表紙)  
一頭 小工補任

天正十二年十月吉日

八神主

外宮作所

堯彦 (花押)

岩淵

二頭弘行

一頭方

四郎大夫宗久

一木ノ与衛門ヨリカウ、熊鶴大夫ヨリカウ、  
彌九衛門宗定 孫三郎家清 左次助殿弘國 伊賀盛久

二頭方

久保倉・弘佐二人

林衛門、兵衛殿ヨリカウ、宮後基四郎、  
与兵衛昌俊 与三五郎昌俊 二衛門宗光 与八宗次 弥八ヨリユツリ、 平二郎宗定

三頭方

傳二郎家眞

中島右馬允殿ヨリユツリ、彦六ヨリユツリ、  
六郎二郎家次 鶴大夫家吉 圓衛門正弘 六郎左衛門子伊清

造外宮一頭職事、藤原名乘 闕所被補任藤原名乘旨、任先例可勤仕神役之由、宜預御披露候、恐々謹言、

天正十二

外宮作所

拾月廿一日

堯彦

謹上 藤波殿

天正十二年雜載



大たて文 上名乗、うらこ外宮作所、

造外宮一頭方小工職事、藤原正家得讓候、藤原家清得讓候、此旨可預御披露候、恐々  
謹言、

天正十二

外宮作所

拾月廿一日

堯彦

謹上 藤波殿

造外宮一頭方小工職事、藤原宗親闕所其子藤原宗久得讓候、此旨可預御披露候、恐々  
謹言、

天正十二

外宮作所

十月廿一日

堯彦

謹上 藤波殿

大たて文也、

二頭方

作所

天正十二月廿五日渡、使与五郎

二衛門尉宗光 与八宗次 平二郎宗定

同十月廿四日、

久保倉・弘佐二人、与兵衛昌俊

同日、

與三五郎昌俊 いの殿盛久

一頭方

同日、

孫三郎家清 四郎大夫宗久 左次助殿弘國 弥九衛門尉

三頭方

六郎大郎家次 傳二郎家眞 六郎左衛門子伊清 圓衛門正弘 与五郎

鶴大夫 二頭大夫

天正十二年雜載



〔蒜生神社棟札〕

河〇三  
〇原寸横〇〇一八九米  
一六六米

三州八名郡深田郷三渡野村

地頭酒井左衛門尉

大工渡江助衛門尉

助右衛門尉・左衛門・藤右衛門

奉建立飛瀧宮拜殿一字 禰宜鈴木九郎右衛門

天正十二年甲申拾一月吉日

供僧今水寺圓壽院及榮

鍛治大工七郎太郎

三河飛瀧宮  
造營酒井忠  
次

遠江二所權  
現社棟札

〔五二所權現社棟札〕

〇靜岡縣史料  
第四輯所收

大願主小高郷住人重〇諸願圓滿之所

一、〆奉修理再向走湯箱根兩權現之御寶殿

拾一日敬白

大工藤原之吉定 皆天正十二年甲申年亥月

〔甲斐國志〕

五十九  
八代郡 神社部五  
小石和筋

美和明神二ノ宮村

略

又神庫ニ藏スル所ノ印書・古寶器等左

二記スルガ如シ、

〇中

同十二年四月十九日、神領百三拾三貫三百六拾七文御寄附ノ御判

甲斐美和明  
神社領寄進

物、同年五月、甲州四奉行神領ノ書立黒印、〇下

〔松原明神由緒書〕

〇相模

相模松原明  
神社  
北條氏直  
西光院玉瀧  
坊

一、天正十二年甲申年五月十七日、北條氏政公御代、社中掃除、西光院玉瀧坊立合可致吟  
味之御朱印御座候、

〔新編相摸國風土記稿〕

十四 村里部 足柄上郡三  
大井庄 赤田村

八幡宮 村ノ鎮守、保元二年ノ鎮座

ト云、寶永三年修造ノ

棟札ニ記セリ、

文龜・享祿・天文・天正年間修造ノ棟札ヲ藏セリ、左ニ縮寫ス、

享祿・天文ノ  
棟札略ス、

表

礎

木鉢盧序那爲度衆生敬 天長地久御願圓滿

死

奉修造當社八幡大菩薩社

願祈所

敬白

丸

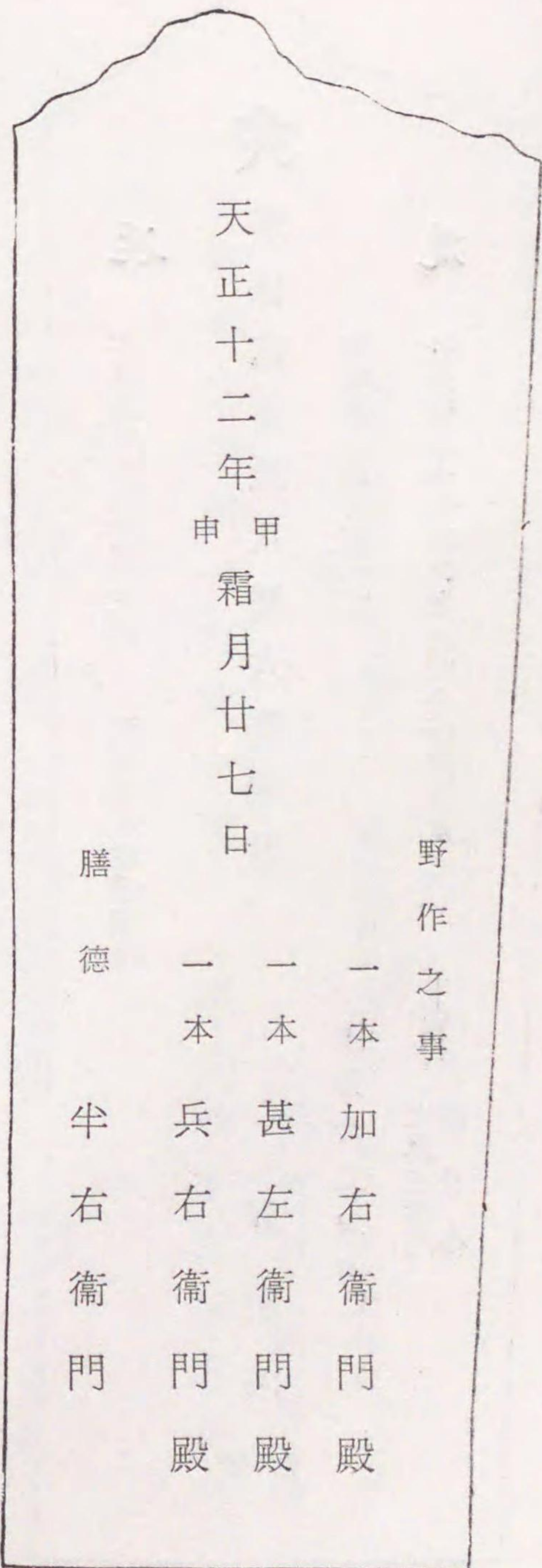
右精誠志通者當還宮 殊者信心大旦那并御内安全所願成就也、

本願同 源太郎左衛門  
兵衛

圓秀大工有野



裏



武藏飯能村 諏訪明神社

永正十三年 棟札

天正十二年 棟札

〔新編武藏風土記稿〕

五十九 高麗 郡三 飯能村

諏訪明神社

祭神健御名方ニテ、合殿ニ八幡ヲ祀レリ、社傳詳ナラス、唯棟札ニ札ノ寫アルノミ、其文

ニ曰、大檀那加治菊房丸、助檀那平重清、同菊房丸祖母昌忠、永正十三丙子初春十一日、又其一ニ曰、諏訪宮再興之事、本願智觀寺住僧法印慶賢、大檀那加治勘解由左衛門吉範、當所諸檀那代官小室三右、成就坊、于時天正十二年七月吉日トアリ、成就坊ハ今ノ別當大泉寺ナリ、此寺享保九年、回祿ノ災ニ罹リシ時、棟札モ亦灰塵ニ委ス、仍テ今寫ノミヲ存ス、社地ハ僅ノ除地ナリ、例祭ハ七月廿七日、

〔飯田直枝氏所藏文書〕

○下

〔大般若波羅蜜多經〕

天正十貳年 甲申 正月八日 本願大禰宜

大旦那千葉法阿弥

〔同典書〕 下總國東庄玉子社經

原若狹守親幹

天正十貳年 甲申 三月三日

本願大禰宜

大般若波羅蜜多經卷第一百五十四張

一校畢

〔典書〕 下總國東庄玉子社經

旦那郡之郷權守左京助

天正十貳年 甲申 卯月廿二日

本願大禰宜

一校畢

下總玉子社 原親幹



大般若波羅蜜多經卷第一百五十七

天正十貳年(庚申)五月九日 玉子宮經 且那郡權守左京助

本願大禰宜

常陸田野村  
明神社再興

〔諸家所藏文書〕

六 常陸 田野村明神棟札

天正十二年遷宮導師權大僧都法印有、  
奉再興鹿嶋大明神

御神樂社人

堀之忠大夫

大旦那 春秋兵庫之助平重元○文書拔萃、元

郡司土佐守

助力 小藺江若狹守○常陸遺文  
異事ナシ

〔綿向神社文書〕

○近江

天正十二年甲申年四月分

御供日記

計御供之日記

加徴	村井
五升	正用
同	下村
一斗	九郎衛門尉
同	久村
五升	新二郎
御符升	けつ所村
一斗	同人
御徴白米	宗左衛門尉
一斗	新村
加 黒米	同人
一斗	厚村
加徴	木津六郎衛門尉
三升三合三勺	同人
御符升	西宮村
六升三合	小二郎
加徴	あいけ
一斗	久村
加	仁正寺村
五升	しやうゆう
加	同所
五升	大道衛門尉
加	村井村
五升	正五郎

天正十二年雜載

御符升



天正十二年雜載

納ます

加 五升 平ノ村 ほりこし  
 加 六升六合六勺 平ノ村おひらに 右近介  
 納ます 二升二合 吉次  
 白一升 岡宗左  
 黒一升 同人  
 いまたうけとらす、村井 馬九郎  
 平ぬのこひろ 平ノ村  
 加 五升 五郎衛門尉  
 御符升 一斗二升六合 平ノ村より 御馬口  
 同五月分社納ノ分  
 黒米 三升 社官

天正十二年甲申年四月分

藤五分 使衛門尉太郎

取分之有米一斗二升五合

未進分

十三文 さいまん  
 十三文 小太郎  
 五文 六郎左衛門尉  
 十三文 ひこ七  
 廿一文 源内  
 五文 西方  
 二文 左近太郎  
 十文 けうむ太郎  
 五文 又五郎  
 四文 くほ衛門尉  
 四文 けう兵へ

同五月分

天正十二年雜載



ひた 廿八文 取分

四日 七升五合 同

五日 二升 同

天正十二年甲申年四月分

音羽分 使与五郎

取分之有米六升四合

同一斗二升五合取

未進分

八文 与三

十二文 加藤助

四文 まこ八

十六文 源三郎

八文 前のと

八文	けんし
八文	あうしや
八文	ひこ二郎
五文	やまと
三文	兵へ五郎
四文	弥太郎

同五月分

ひた 四十六文 取分

四日 一斗五合 同

五日 二升□合 同

同五月分未進

八文 源次



十二文	とゝら
八文	正用
十六文	源六郎
十二文	加藤助
四文	孫八
八文	はい上
八文	彦二郎
五文	利太
三文	兵へ五郎
八文	そり
四文	おこの太郎
四文	ゆの木

天正十二<sup>甲</sup>年四月分

北畑分 使兵へ二郎

取分之有米一斗五升

同九升取

未進分

十一文 弥太郎

十一文 甚へん

十一文 五月分之時取申候、いと

十文 ろいと

八文 源三郎

十

同五月分

四日 一斗六升八合 取分

天正十二年雜載



五日 三升□合□ 同

同未進分

廿二文 めんさゝ

十一文 久二郎

十一文 若衛門尉

十一文 弥太郎

六文 鳥衛門尉

廿二文 めいと

□文 □二郎

七□ 源三郎

+

天正十二年  
綿向御神事之日記

天正十二年

大宮殿の廿石御寄進則拂日記

右廿石御符升之定

壹石 正月元日御祝、殿様に御供上て、（書）残者社家の物ともいたゞき申候、

貳斗 御きよめ 社家の物祝

壹石 御油米 毎夜ノたうめう

壹石五斗 御神くう 毎日の御供社祝

一斗五升 四月朔日たけの御神事社家祝

三斗 同太宮殿御神事 社家衆祝

一斗五升 五月御神事 同所祝

五升 四月晦日御神參 社官祝

一石 十二ヶ月ノさへい 社家祝

一石六斗六升二合 十二ヶ月ノ御誕生日御くう

一斗 霜月ノ御神事 社家祝

一斗 正月まつりさきり 社官祝

蒲生賦秀ノ  
誕生日

天正十二年雜載



天正十二年雜載

三斗七升五合 五節供ノ御供 社家祝

五升 十月神ノ御むのい 社官祝

二斗 霜月ノ御祈禱 社家祝

右合七石八斗三升七合御口傳之拂有、

殘而拾貳石一斗六升三合 御修理米ニ引、則小日記あり、

○下略、天正十三年ノ記事ニカ、ル、

〔信濃寺社文書〕

乾 眞田豊後守領分埴科郡平林村之内  
○信濃 持主 和合院

定

任先規之證文之旨、山里合五百貫文所永奇進<sup>〔寄〕</sup>申畢、并如前々里宮之社領之儀不可有相違者也、仍如件、

天正十二年

四月廿日 御朱印

式部少輔との

上杉景勝里  
宮社へ社領  
寄進

〔高倉神社文書〕

○丹 後

餘部之内長濱八幡宮へ寄進之事、

合田壹段

合畠貳百四拾五步者、在所ハ池尻ニ在之、

右之田畠者、拙者仁永代被下領知之内たりといへとも、八幡宮へ寄進申候、然上者御社之修理・神事等之御供已下、無由斷可被執行事專一候、子々孫々異儀有間敷候、仍寄進狀如件、

天正十貳 甲申

八月吉日

餘部六ヶ村 百姓中

○慶長二年十月廿二日附裏書略ス、

〔武明八幡宮文書〕

○石 見

御氏八幡宮の領之事

天正十二年雜載

石見武明八幡宮



大家惣領分之内坪付

- 一、壹貫百前 坪ハ河上之内  
あなる追 源次郎作
- 一、壹貫四百前 坪ハ宮口の内  
とゐのまへ 筑 後作
- 一、四百前 坪ハ宮口之内  
大石のもと 同 人作
- 一、六百前 坪ハ宮口の内  
道のまへ 同 人作
- 一、八百前 坪ハ宮口の内  
原田の前 右江一郎兵衛作
- 一、五百前 坪ハ宮口の内  
新屋田 今藤々兵衛□
- 一、五百前 坪ハ宮口の内  
もりわき 中屋助三郎□

以上五貫三百前也、

天正十貳年

八月八日

湯淺權太夫殿

○小笠原元枝等、石見河上八幡宮へ地ヲ寄進スルコト、天正十一年雜載寄進ノ條ニ見ユ、

(小笠原)元枝 (花押)

(小笠原)長扶 (花押)

小笠原元枝

宮内通久等  
備後丹刀神  
主ニ祭田ヲ  
寄進ス

〔兒玉文書〕

○備後

(端裏切封ワハ書)

「丹刀民部左衛門尉殿」

參

片岡二郎左衛門殿父子三人爲祭田、壹石田一反被成御付候、在所者いとうものきわにて候、三平給地にて候へ共、替ヲ被遣候て、如此被成御付候、祭之儀者社家衆被召寄、以酒飯まつり可被相調候、社なと損候時者、可被相誘事專一候、自然祭等於無沙汰者、彼神田別人ニ可被仰付候、恐々謹言、

天正十二 甲年

十一月八日

正秀 (花押)

通久 (花押)

〔野坂文書〕

○安藝

今度大方爲祈念、刀一腰并田貳段令寄進候、於御神前弥可被抽御懇祈事可目出候、猶期來慶候、恐々謹言、

天正十二年雜載

穂田元清安  
藝殿島社ニ  
刀并ビニ田  
ヲ寄進ス



天正十二年雜載

〔天正十二年〕  
七月二日

〔元行〕  
棚守左近大夫殿  
御宿所

〔禮世〕  
元清（花押）

一一三

〔野坂文書〕

二十一

○安藝

〔端裏書〕  
「本書別ニ在之、」

天正拾貳年 申十一月二日 甲戌ノ日

三甫昌益

藝乃山縣之郡  
今田三甫昌益

御正體大御前へ懸ル 願主

御膝突 三貫文、付配當之事

祝師 九百文

兩棚守 六百七拾貳文宛

修理行事 百文

樂人 貳百五十文

常住番匠 四百文

樂人

常住番匠

以上三貫文支配也、

右如此令配當処者、先年之与證雖有數通、御判一通以令支配者也、

天正拾貳年十一月二日

祝師 正久在判

兩棚守 元行在判  
景欽在判

右棚守方こひあへ在之、

〔藝藩通志〕

六十

安藝國山縣郡四

八幡宮二所、川戸村にあり、一ハ吉藤にあり、天正十二

年甲申、吉川元春勸請、一ハ尾長にあり、同十八年庚寅、吉川廣家勸請、

八幡宮二社、

天王社 祇園社 並に岩戸村にあり、八幡宮一ハ天正十二年甲申、元春・

元長再造、

〔藝藩通志〕

六十六

安藝國高田郡四

嚴島神社

〔西世〕

同村にあり、天正十二年甲申、毛利輝元

勸請、當村もと西日裏村と稱せしを、嚴島西浦に擬して改稱すといふ、當村社記に、

輝元嚴嶋神を當村及び小山・佐々井・坂・有留五村へ勸請し、五社明神と稱せり、今

ハ小祠となるもあり、當社ハその一なり、

天正十二年雜載

一一三



祇園社 熊野新宮 並(有)同村(有)あり、祇園社ハ天正十二年甲申、羽仁又右衛門勸請すと  
いふ、

〔萩藩閱録〕五十五 國司與一右衛門

安岡鎬流馬田參拾石之内拾五石遣置候、全可知行候、鎬流馬役之事、如前々公文申談之、  
堅固相勤可存知事干要候、謹言、

天正十二

三月廿五日

國司就信

(國司對馬守就信)

輝元御判  
輝元

周防玉祖社

〔毛利氏考證論斷〕二十五 山口三宮大宮司高橋主計書出

四代實錄

玉祖三宮今八幡并櫻木宮當御神事流鎬馬役壹騎之事、岡部内藏助・徳益四郎右衛門尉・  
黒瀬源兵衛被申談、所勤別而馳走尤珍重候、然者任先例、來年六月迄諸公役可爲御免  
許候、此等之趣至藝州可申上者也、仍執達如件、

市川經好

天正拾貳年九月廿三日

(市川經好)  
伊豆守

福原元俊

(福原元俊)  
式部少輔

三輪市允殿

〔日前國懸兩神宮文書〕

伊紀

差定臨時御祭流鎬馬射手之事

行事

村垣

梅原

久兵衛

戸口

植松

下川

与六

いのき跡

御

右任例可勤仕之狀如件、

天正十二年甲申九月一日

麥ハ石一斗二舛、

米ハ石一斗二舛、

畠ハ石一斗收、

天正十二年雜載

紀日前國  
懸社流鎬馬  
射手ノ差定



天正十二年雜載

山ヨリ南三ヶ郷ハ米ハ無所務、麥、秋ノ畠ハ同前、

一一六

〔五所神社棟札〕

波 ○阿  
○原寸 縦〇〇、六六六米  
横〇〇、九九〇米

一切口日皆快、一切開快諸佛皆威德誰歡□□魔□□□氏子

奉棟上新田御宇國峯尾五社大明神

于時天正十二年十一月廿四日

右請威意趣者、天長地久、御願圓滿、殊□□藤原孫九郎□大工□□□□

○裏ナシ

〔熊野神社棟札寫〕

○土  
○原寸 縦一、一一二米  
横上〇〇、〇八七米  
下〇〇、〇七五米

(表)

天正十二年 申年

奉建立棟上熊野三所大權現證誠殿遷宮

大檀那高康平（？）神主  
小工諸願成就敬白  
本願實能平民 鍛冶

二月十八日

謹書

(裏)

表書之棟札從古昔雖有記字形甚失依 大庄屋川崎孫助 神主吉門佐近大夫敬卓 (花押)

天正十二年 申年ヨリ元文五庚申年迄百五十六年ニ成ル、

難見元文五庚申歲陸月中五日寫之者也、年寄三宮六左衛門 社人言門佐嶋大夫敬植 (花押)

〔土佐國蠹簡集〕

四

大本社 天正十二年甲申二月一日、願主地頭桑名太郎左衛門

右安喜郡赤野村大本社棟札、今按、大郎左衛門天正十四年丙戌十二月十二日、豐後陳

戰死、○千石秀久・長宗我部信親等、島津家久ト豐後戶次  
川ニ戰フコト、十四年十二月十三日ノ條ニ見ユ、

熊野權現 大檀那高康平氏、本願實能平氏、天正十二年甲申二月十八日、

右伊與木熊井村熊野社棟札、凡三枚、今按、高康蓋伊與木彌平次父也、

天滿天神 大檀那源朝臣竹圃公、并義英公、天正十二年甲申霜月廿五日、

天正十二年雜載

一一七



天正十二年雜載

一一八

右高岡郡安和村天神棟札、今按、竹圍佐竹信濃守義直之道號也、義英未詳、義直之嗣子兵部少輔親辰初稱義英歟、更考之、佐竹氏相傳云、常陸佐竹同姓而新羅三郎義光之苗裔也、大永比來于當國、世住于久禮土居城、領安和・久禮・上加江・仁井田等凡十三村三千二百石、家紋五本骨扇日丸、

〔大般若波羅蜜多經〕

○土佐安藝郡安田町八幡宮所藏

〔卷第八十八書〕

〔異筆〕

〔天正十二甲申歲金林寺般若弁□〕

建保三年十一月五日於安居房以社頭御本一校了、覺恩

〔異筆〕

〔貞應二年七月十二日校了〕

〔卷第八十八書〕

一校了、

〔異筆〕

〔又校了、〕

〔天正十一年ワヤクニヨハヤリテ、大水・大風刻、天正十二年ヲサナアソヒハヤリテ壬にワスクナク候、同天正十二年、馬路エモ般若イリテ候、度之〕

〔卷第三百四十一書〕

日待

安泰

天正十貳年十二月十四日春太

祈念

〔卷第五百三十三書〕

以愿奉轉讀大般若經六百卷

息災

春泰延命祈

天正十二年十二月十四日、廿七日之出家、

〔古文叢〕

肆

奉造立藏王權現 天正十二年正月

右一通、吾川郡西分村藏王社ニ藏ル棟札也、凡テ二通ノ第二紙、

上棟劔明神御社 于時天正十二年甲申三月十五日、當檀那藤原親俊

右一通、高岡郡日下村劔明神社ニ藏ル棟札也、

〔忌食並供養物之次第〕

○筑前杷木町杷岐神社所藏

〔奥書〕  
常陸國住僧長臭坊

授 久

吉 次

天正十二年雜載

一一九



天正十二年雜載

天正十二年乙亥三月吉日相傳之

〔改正原田記附錄〕

○筑前 志摩郡芥屋村産神社棟札

奉再興大祖權現御寶殿一字

奉行池田休外軒宗清

池田宗清  
大檀那原田了榮

右奉爲天長地久、御願圓滿、社頭安全、神明威光、殊者大檀那大藏朝臣原田了榮武運長久、諸神加護、子孫繁昌、息災延命、領內安全、諸人快樂、村中安穩、福貴自在、心中所願、皆令滿足之故如斯、

天正十二年七月大工敬白

裏書

此棟札之儀、從高祖被差下之條相違之支共候、彼造立之儀新殿相調處也、餘ニ大破故、先以借殿一篇也、仍爲覺裏書如件、

天正拾貳年甲申七月十二日

遷宮在本願小金丸民部丞三浦善左衛門敬白

〔西高辻文書〕

十二  
○筑前

一、天正十貳年甲申、老松宮社再興之施主鐘ヶ江元全・同馭全・同息松壽丸と棟木書記御座候、

筑前老松社再興

阿蘇實物注文

〔阿蘇文書〕

三  
西巖殿寺文書

注文

- 一、御劔牡丹作、目貫、（兼下高シ）甲介、小刀ツカ何モ銀并下緒
- 一、刀一、一尺三寸、金銛、目貫、甲介、下緒
- 一、笛三管、□角
- 一、御文書
- 一、佛舍利四十八粒
- 一、釋迦牙□
- 一、牛玉一
- 一、顆、羅玉一
- 一、香水太刀二振作銅
- 一、（同經）惟豐御寄進脇刀、作月山、銀丸貫、緣銀、さめ、金目貫、下緒なし、
- 一、刀一、次家作、
- 一、從大裏心經一局（内カ）  
○鳥丸光康ヲシテ、般若心經ヲ阿蘇社ニ奉納セシメラル、コト、天文十三年九月二十三日ノ條ニ見ユ、

阿蘇惟豐  
月山作ノ脇  
刀次家作ノ刀  
後奈良天皇  
御奉納ノ心  
經

天正十二年雜載



一、從志賀殿御正體四體

一、從下田殿長刀一、銚金、又長刀一尺三寸

一、從下宮一太夫殿脇刀一、鬼神太夫作

一、從甲斐親房長刀一、作雲上、三尺三寸、しつげなし、

一、惟將御寄進太刀一、金覆輪、□尺八寸

一、自中□□刀一、二尺七寸、作宗近

秋年行事在之、

從北里殿長刀一、三尺一寸、作雲生、緣、柄頭・鷲目何モ金、さめ、銀、鞘二、下緒二

秋年行事在之、

一、甲斐長運寄進長刀一、作左文字

春年行事從福滿房

新樂房請取之、

天正十二年甲申正月十一日

〔松浦家舊記〕

棟牌類

御厨西宮八幡宮棟牌

〔宋書〕

「天正十二年二月二十日某所新、法印様ニ引合、」

壹岐中郷今宮八幡宮

社在封内、〔宋書〕

「道可様ニ引合候、」

〔松浦家舊記〕

四

壹州神社棟札

鬼神太夫作ノ刀  
甲斐親房  
阿蘇惟將  
宗近ノ刀  
左文字作ノ長刀  
甲斐長運

肥前御厨西宮八幡宮  
壹岐中郷今宮八幡宮

松浦隆信

今宮八幡

中郷

源隆信公判 天正拾二甲申天林鐘吉日

同社

同所

〔宋書〕

今宮八幡宮

殊者大旦那松浦肥前守源隆信

〔宋書〕

「天正拾二甲申天林鐘萬吉日

佛寺、

〔兼見卿記〕

六

正月廿五日、癸卯、

〔略〕

知恩院法事爲見物罷出、月齋・舜藏主同道、

衆僧

百廿人在之云々

近年之繁昌驚目了、貴賤群集也、

新黒谷法談一七日在之、今日結願云々、是又郡集也、

二月十五日、壬戌、天晴、時正也、

新黒谷法談云々、昨日、新黒谷上人へ爲禮罷向、雜紙十帖、組盃、一、成休へ小刀、二、

侍從一籠・双瓶持參、在一盞之義、

三月廿六日、癸卯、

〔略〕

乘拂寮種藏主、爲見舞、予可罷向之處、相煩口中之間、遣侍從、相副舜藏主、三荷・臺之

天正十二年雜載

知恩院法事

新黒谷法談

乘拂寮



物七種、調之、持遣之、院主長老、被對面、以ハウ飯在一盞、侍從罷歸申了、○下

四月九日、乙卯、天晴、○中向清少、（全書雜載）參德大寺殿、暫御雜談、向牧庵、自是歸宅、庵主

此方へ來、唯今歸宅之由被申了、來十五日、秉拂、一兩日以前ヨリ、人夫夜番以下之義被申之間、相意得之由申了、

十五日、辛酉、朝雨降、巳刻晴、牧庵息種藏主長徳院超長老弟子也、今日秉拂也、見舞彼是相國寺ニ罷出

種藏主秉拂  
警固尾池源  
七郎

了、警固、玄以之者尾池源七郎相添、此衆警固六人申付遣之、兵庫介・右近允・修理進・口

左衛門尉・善右衛門尉・與右

與左衛門尉・孫六・又一・与三太郎、人夫五人、去十三日ヨリ、寺内之警固十三人、

出頭初之三  
問

弓五人、鑓三人、鑓五人、鑓三本上野民部大輔方ニテ供之、（昭實）二條殿へ被申入借用也、未剋後堂出頭初之

三問在之云々、後堂毛頭難ナク遂其節了、安堵了、牧庵満足不過之、及暮皈宅、路次

大夕立、後堂之役終雨降、今朝之雨時分ニ晴、古今之仕合之由、其沙汰了、○下

手鑓ヲ返ス

十六日、壬戌、○中手鑓三本上民へ持返進、遣左京助了、○下略、日吉大夫勸進能ノ事ニカ

十九日、乙丑、請松樂庵之間罷向、當寺之衆各相伴、青女侍從方へ膳ヲ持也、大勢殊了

寧了、數刻相談了、

妙心院

清水寺

藥師香水

南豐軒弟子  
ヲ召還ス

廿六日、壬申、妙心院へ向、齋、舜・周相伴、○下

廿九日、乙亥、朝之程（既アルカ）已刻晴、青女御方之衆清水寺へ詣了、乘輿、荷輿也、牧庵息女福、此

間在此方、同道了、

五月八日、甲申、因幡堂藥師香水持來、

〔兼見卿記〕

七

十一月廿日、壬辰、

○中略、北條氏直ノ使者來ルコトニ

南豐軒來、弟子三行者可召返之由、内々自玄（前田）以被申也、如何談合也、先年之在樣慥被申、可然之由相談了、

十二月九日、辛亥、○中相國寺清都寺（セイソウジ）使僧來、南豐軒弟子之義也、此間玄以ヨリ内々申

來之由、清都寺申之間、切々南豐軒へ罷向相談、近日彼弟子与南豐、南豐以直談相濟、

其段清都寺方へ申遣之処、今朝申來者、差置玄以筋内義ニテ相果之義不届之由申來了、

予云自敢前相濟之義、以何之筋目成共可相調之由、玄以御存分云々、唯今又不申案内之

由承候、驚入之由答、重而又使僧來云、兎角玄以へ可相届之由申來、其方次第之由答、

南豐軒・清三品入道遣使者、右之條申遣了、○下



十日、壬子、○中略清三位入道三行者令同道來、寂前南豐軒弟子也、今度自玄以內々無事之儀依被申參會也、就其爲禮來、貳十疋持來了、

〔舜舊記〕一 天正十二、甲申、

正月一日、雨降、於當院祝義如例年、於佛前祝聖以下爲拙僧（此僧）一人咒也、重而當社へ參社祈合了、妙心院・周超爲禮來ル、

智恩院法事

廿三日、智恩院法事見物、

廿六日、拙子道具九條以下始所持銀子一枚、惡錢壹貫八百文令所持所也、

二月六日、小座敷倚爐閉、

十四日、天晴、

廿一日、天晴、

六波羅密寺ノ千部經見物也、○前田玄以、六波羅密寺千部經中二禁制ヲ下スコト、二月是月ノ條ニ見ユ、

四月十四日、相國寺へ乗拂爲見舞令出京、南豐軒ニ一宿滯留也、

十五日、乗拂、後堂ハ植藏主也、拙子令出頭、

六波羅密寺  
千部經  
相國寺乗拂

清水寺參詣

十七日、清水寺へ參詣、

廿六日、當院之屋禰ヲフク、又後堂牧庵爲禮來儀也、

五月三日、於左馬允晚飯在之、

五日、天晴、

淨土寺之内玄三所へ行、葛袋持參也、

九日、左馬允姉所禮ニ行也、杉原五帖、筆三對、持參候也、

六月十六日、於當院嘉祥之興行在之、

嘉祥ノ興行

〔多聞院日記〕

○三十一大和正月朔日、從寅刻天女、多聞敷行、宇賀神咒滿之、○中略此曉夢

ニ愚下ノ向齒大ナル落ト見、先例不吉、如何、夕蓮成院禮ニ來、吉書始沙汰之、

二、（日號カ）天氣快然、○中略大乘院殿へ如常各同道御禮了、

一、成身院・轉經院・深圓、（同）同道ニテ禮ニ被來了、頓返禮ニ出了、

一、金勝院・圓城坊・常如院被來、一獻申付候、

三日、

吉書始



一、昨夜夢、信讀大般若經二部、目五百九十九、別而禮拜數返シテ讀之、今一卷法願成就ト思、又抄物自書之、顯秉承仕安居ニテ信讀、思申事ハ不叶歟ト云ト見、少モ惡事ハ無之、國中惣別何事モ無之、世中モ滿作、身以安樂ノ心ニ見了、竹林院・龍德院禮  
 二一瓶・兩種持來了、  
 五日、ヒワタヤへ出了、來題由執能故、講長學房、少々返禮ニ出了、  
 一、兵庫左被官三人禮ニ上了、祈禱飯米三臼ツク、  
 六日、

一、大門へ仁王經ニ長賢房、善、參了、明日祈禱經營申付之、  
 一、祈禱仁王經修之、賢良房法印・南井坊・遍照院・ヒワタヤ・竹林院・アマタ院・金勝院・長印房、  
 德藏院・寶生院・專識、  
 長圓、  
 定舜、  
 陽教、  
 延識、  
 堯舜、  
 香賢、  
 琳勝、  
 專實、  
 良常、  
 以上來臨了、廿九人請用、只廿人來了、マニシユサシニ在之故也、侍從・教淨・助四郎・源二郎・宗願・圓忍并今ツシ二人來了、  
 仁王經三百六十五部轉讀了、

八日、今日ヨリ至十日、於大門一万心經嘉例ニテ在之、重衣、白五帖ニテ早旦發願ニ參

大乘院仁王  
經祈禱ノ經  
營  
仁王經

今辻子  
仁王經三百  
六十五部轉  
讀  
一萬卷心經

蓮成院報恩  
講

了、東林院へ禮ニ參了、於蓮成院報恩講在之、出仕了、來題此但舉一、講陽教房、依所龍德院、

九日、

一、十後ヨリ藤七郎被上、御音信在之、  
 一、釜口地藏院上了、餅遣之、愛染七日參之事申付之、  
 一、夕飯宿之衆請用了、新三郎八ッ過ニ歸、福因ハ郡山へ越、返事在之、

十日、  
 略  
 惣珠院へ心經出了、日中後東林院へ陽教、同道シテ、轉齋兩尺談義ニ參之処、  
 御門主様も丁聞ニ被出了、今日晝寢之夢ニ、於妙德院飯ヲ給ニ、椀ノ内へ金色ノ舍利四五粒落ルヲ手ニ取ト見了、佛舍利夢ハ善心事起ル、但悅ノ内ニ歎アリト申傳ト、故祐筭法印被語了、

十一日、中藏院出了、問者沙汰之、來題衆生平等、賢聖院へハ不出、  
 十二日、成身院出了、來題親者則近、講師竹林院、長賢へモ出了、  
 一、轉齋ノ談義ニ東林院へ陽教、同道了、

轉齋ノ談義



心經會  
常如院仁王  
金勝院轉齋  
東林院談義  
有梅軒

十三日、寺家ハ濁穢之間、竹不立、權別當・東北院・一乘院竹二本立了、今曉大雷、○中略  
心經會在之、別會順禪房五師、初度、權別會春源房律師、無殊事、風凌吹了、各來酒  
進了、及夜福智堂殿禮ニ被來了、卅疋被持、常如院仁王經在之、出了、金勝院ニテ轉  
齋一門答讀了、所々講布施無一途滿勝禮ニ上了、  
十四日、朝ノ間東林院談義ニ出了、有梅軒・菟角兩人日中飯申入、花藏坊同來了、夕部  
堯舜、談義來、泊了、

三毬杖

十五日、

一、散鬼打、粥如例、○中略 日中後東林院・南井坊・金勝院・專識、・陽教、各談義來、  
餅ニテ酒進了、門跡御祈禱廻請七十二人敷相觸廻、請上并道具事被仰出間、則持遣了、  
藤松南へ下、

大乘院ニテ  
祈禱  
大御堂修正  
ノ餅

十六日、大乘院御祈禱在之、廻請之面七十五人敷、五十文程參了、道具少々借上了、  
十七日、大御堂ノ修正ノ餅申付、黑米一石・白八斗七升在之、承仕二人、聖二人、來テ春  
了、入目二石下行也、

一、曉夢ニ、マノアタリ二尺餘ノ座像ノ阿弥陀、定印ニテ、眼生身ニ光リテ、眞實々々

大御堂修正

發志院修正

專注一領ノ御眼也ト覺へ、又繪像ノサイシキノアマタヲ天人ノ様ナル人禮拜スル所ヲ  
書タルヲ拜見了、昨日八幡宮參ノ奉幣頂戴、現當所願成就ノ瑞相ト思、難有々々、  
十八日、大御堂修正在之、圓滿院々主ノ代ニ大導師敷之、鈍色、紫甲、時導師舜學房得  
業ノ代ニ明星院敷之、餅廿八枚、年預分ニ一枚、代一斗六升程敷、十五入目在之、  
一、發志院修正於當坊修之、餅十八枚代八升敷、一枚九十目在之、一瓶タウフ十丁、酒  
ハ二升在之、酒  
キ十八、代一斗一升程敷、大導師フセ六斗、出仕一斗二升敷、合九斗程ノ門跡ノ御扶  
持、忝事也、雨下、

十九日、

一、今日講問、フセ二百疋ツ、代米一石二斗ツ、客問講三人へ、出仕卅疋ツ、被下  
了、

一、下旬西屋參籠飯米春セ了、

廿日、吉祥院へハ不出、門跡へ昨日フセ被下禮ニ參了、

廿一日、西屋參籠了、本番賢良房法印也、長運房相博了、愚番卯月上旬ニ可遣者也、丁  
象春明、〔房下同〕・乘春、・專忍、會合三在之、不沙汰之、五重三在之、不沙汰之、

西屋參籠



法花同音

廿二日、一日屋ヨリ不出、眠暮了、首咒合四十三万三千三百返了、  
廿三日、法花同音修之、海如・深宗・連宗・順賢・善春・聖盛、以上四升ツ、遣之、ル  
ス淨春、西屋ニテ申付之、

金藏院

廿四日、金藏院へ出了、來題不善業自性斷、講陽教房、

逆修坊修正

一、逆修坊修正出了、樽一荷上々酒遣之、餅卅三枚、

廿五日、地藏院(講方)玉藏院在之、出了、來題亦僧寶攝、講師愚、

一、去廿三日成身院若衆久三逃歸了、川人ノ子也、河州へ出云々、無興第一云々、

廿六日、退出了、別供三石五斗程在之歟、五重三在之共沙汰之、五斗給了、愚番卯月上

旬長運房へ可遣之、小塔院へ參了、夕部蓮來語了、

一、藤屋經衆古良願、ヨリ交也、當年ヨリ專實房戒弟子ノ処、不辨ノ由申問、令相傳許

可了、十合、四斗在之歟、

十七日、興善院出了、來題約入佛法、講マニシユザン、

廿八日、

一、長賢房・長善、於常如院筒後・源二郎祈禱仁王經在之トテ出了、今日ハ大吉日歟、

筒井氏室ト  
源二郎祈禱  
ノ仁王經ア  
リ

大吉日ニヨ  
リ八所ニ於  
テ祈禱行ハ  
ル

方々祈禱在之、轉經院・龍雲院・寶壽院・成福院・妙德院・瓦坊以上八所ニ祈禱在之

云々、

廿九日、常如院講問之次、日中飯ニ出了、

昨夜大雨降、夜明而ハ止了、

二月朔日、社參、仁王講參了、長善ハ大門へ仁王經出了、天氣快然、蓮常ハ今日ヨリ西

屋參籠也、

一、沙弥里ヨリ歸了、羅漢記、一帖、式、二卷、下式、一ハ南井坊ノ本也、

一、中院參籠了、夕飯申付之、丁衆行春、・延識、・春學、・順春、

二日、成身院へ出了、來題但三無數、講師實淨房、於南井坊因明講、違三談義被始了、

銀屋喜七一荷持禮ニ來了、

三日、

一、ラカン供沙汰之、良敷房(法印下同)、海如并宿之衆請了、爲追修經三部源宗申付之、

一、長印房得業、賢聖院同宿ニ常如院馳走ニテ今日被移了、

四日、過一夜大雨下了、秋篠藥師修二ノ餅、竹林院長印、ヨリ來、

秋篠藥師

羅漢供

銀屋喜七

羅漢記

仁王講  
西屋參籠



檜皮屋

五日、ヒワタヤへ出了、來題由不放逸、講興善院、  
一、十新二月堂參籠ノ間、夕飯申付之、  
七日、

仁王經

一、過夜夢ニ、本尊三補誰哉覽持來テ拜ミ、吒天也ト見了、今日慶禪古本尊共數多持來、  
吒天ハナキ歟ト尋ル処、箸尾ニ見事吒天在之ト申、不思議事、取寄宜ハ可買者也、  
八日、仁王經修之、一藤法印長印房、・・・識春、・長學、・良懃、・・、  
十日、西福院弁講次ニ日中飯夕部迄遊覽思出了、一日及夜雨下、

大般若

十一日、於常如院大般若在之、導師沙汰之、日中後各梅見トテ、一斗ツ、各出ニテ被來、  
夕飯汲了、南井坊・金勝院・轉經院・蓮成院・賢聖院・龍德院・堯舜、・專識、・尺  
迦院・成身院・常如院、以上十一人、次ニ東林院殿申入了、長善、風氣、金藏院藥ニ  
テ減由、○下略

十二日、

一、山邊小田殿ニ妹ノ子在之、今日上了、  
十三日、

舍利講

一、妹ノ子長谷ノ奥ニ笠間ト云所ニ林ト云人ノ兄弟ニテ在之、當年廿四才ニ成トテ尋來  
間廿疋遣之、

十四日、舍利講申合ニ、寶生院・龍德院・長學、來了、

一、クホ轉經院深宗ヨリ音信在之、

一、長印、・賢聖院同宿去三日ヨリ移徒付坊主へ今日一荷・兩種持禮ニ出了、○下略

十五日、中院舍利講出了、講鏡禪、問予、題遣相證性、

一、惣殊院ニテ地藏講在之、講予、問延識、來題此則勝軍、講禪良房、依所清淨院、

十六日、

一、一日經へ出了、一藤良懃房律師三把ノ内一ヲ書之、ニツ長賢房書之、

十八日、彼岸中日、西發志院へ出了、乘賢房頭也、來頭ハ○下文  
闕ク、

十九日、八万四千本逆修、頭役沙汰之、人數十五人皆出了、結緣衆香觀房・長賢房、

・禪舜房、・長賢房、・專識、・陽教、・明禪房、・堯舜、・香賢、・學乘、  
・良光、・寬乘、・琳恩、以上、蜜供養般若寺妙光院沙汰之、

廿二日、太子講出了、來題由不及逸、直ニ大門様へ參、花見事申上了、勸修坊持蓮花細

太子講

中院舍利講  
地藏講

彼岸中日

逆修



金以下五斗ニ申調了、

一、舜善房得業禮來了、

廿三日、金藏院得度在之、六條息則坊主也、堯俊顯榮十三、戒師摩尼珠院、五明一本持了、  
雨一日下了、

羅漢供ノ次  
仁王經ヲ修  
ス  
紺屋又五郎

廿四日、ラカン供之次、仁王經修之、一藹法印・良敷房、・長印房、・堯舜、  
以  
上、大乘院殿へ經營衆正印房カ・源二郎・又五郎カウヤ、

新三郎、助二郎日中ヨリ遣之、爲音信二百疋進上了、道具以下調上了、見廻了、

廿六日、深蜜ヤ五講在之、講衆蜜々請之間出了、初座講予沙汰之、

深密五講  
報恩講

廿八日、社參、蓮同道了、於興善院報恩講在之、來題於善染等、次ニ風爐在之、講衆十

二人ヨリ樽二荷、ウトン十五重、食籠自是取立遣之、一日遊宴在之、

晦日、

一、晝寐之夢ニ白蛇ヲ取ヘテ妙徳院ノ奥内へ入ニ、古法印祝著ト見了、筆ノ軸ホトニテ、

ナメ白ク、目口クロキ蛇也シ、又此十日計先ニハ、東御門ニテ見レハ古法印ト訓英ト

覺ヘテ、車二兩ニ乗テ、妙徳院へ御入、門前ニテ千五百人ホトノ音ニテ鯨波ヲ作ト見

了、古法印執心歎ト覺ヘタリ、○下略

三月二日、成身院出了、來題依法性土、講金勝院、雨下了、夕部談義ニ陽教房來、

五日、檜皮屋出了、來題今問依他、

六日、加行者知足坊ケコンヤン淨勝房へ音信了、

八日、

一、長順、昨夜ヨリ不見、大乘院ノ東ノ池ノハタニ草履ハ拔テ在之云々、狐ナントハカ

シタル歟、如何、

十一日、○中略因明講談義ニ南井坊へ出了、

因明講談義

十三日、朝之間、於南井坊因明講談義在之、出了、我等取亂トテ、晦日迄延引了、迷惑

之至也、

一、昨日ヨリ常如院ノ部屋ヲカル、長善、・助二郎召具了、

十六日、於八講屋群集ノ大般若經在之、出了、日中飯長印房、・堯舜、・常如院、

十七日、經へ出了、日中飯ニ中勝院・長印、・堯舜、來了、

一、仙千代伊賀ヨリ歸了、一圓屬國事得分由也、

八講屋群參  
大般若



十八日、經へ出了、日中飯北戒旦禮良敷房、及暮給了、門跡へ、○下文  
十九日、闕ク、

一、南井坊・金勝院來、安養報化談義在之、

廿日、於蓮成院報恩講、來題（題）幻事喻、我等ノ頭ヲ指合故詠了、蓮之番ニ可有沙汰者也、  
表白新調了、

一、筒井（重）へ從門跡御音信、卷數認進上了、

一、吉祥院へソトハ一本・麩少遣之、

廿一日、於南井坊談義、金勝院同道了、十後上落了、

廿三日、

一、十後廿一日ニ上洛之間、ウトン持テ見廻了、

廿四日、清淨院地藏講出了、問者予、來題我於凡愚、當方會合相催修理ノ様申談了、十  
後ヨリクス卅丁・帶一、沙弥ヨリ被下了、

因明講談義

廿五日、文咒二万五千返唱了、文珠供養、天氣快然、因明講談義ニ南井坊へ出了、○下  
略

一、供目代悅酒、春明房沙汰之、法用僧圓忍房也、助成不沙汰之、

廿六日、安居修理ノ用ソキ竹知足屋マテ上了、人夫一人・圓城坊二人被官申付之、

地藏講

中院因明講

一、於南井坊因明講談義了、○下  
略

一、昨日廿五日ヨリ供目代悅酒、於持寶院春明房沙汰之、

廿七日、興善院講經、五ワノ内三把僧衆ニ廿メツ、ニテ詠、長賢、田舎へ廿四日ヨリ下  
故也、○中 因明講談義、南井坊へ出了、

廿九日、於中院六方因明屋（講カ）、々師金勝院、問者南井坊、兼客、違三、來題（須叟聞之、  
一因違四、出仕予、

願春房擬講、實淨房得業、禪舜坊、・專識、・陽教、以上八人、雨下了、○下  
略

一、從意齋多武峯ノ用トテ鈍色二具通、法服申上間則調下了、

卯月一日、○中 長賢坊南ヨリ上了、卅講如例在之、成身院ノ春寛房初年問者廿疋雖遣之  
被返了、一獻ニ出了、

一、十後今日御下之由也、

二日、成身院講問出了、深圓房初年問者一獻在之、樽一荷、メン十把、  
クニ十丁、遣了、

三日、報恩講常如院ニ在之、講師沙汰之、日中後碁打慰了、雨不下、

一、專眞房初年問者於五大院在之、出了、廿疋持了、水屋神樂在之、

五日、ヒワタヤ講師勲之、題今問依地、（地）雨下、曉ヨリ暮夜迄降了、

六日、大乘院へ梅軒同道了、細々可有祇候之通也、

初年問者  
報恩講



一、西尾本番、松賢房、籠別供被送之、三石二斗七舛在之、去正下二籠了、相博濟者也、其時九斗一舛歟、探以下取之、以上西屋一旬二四石一二斗ノ御扶持也、難有々々、忝事也、

七日、於常光院地藏講、々師常如院ノ代ニ懃之、一瓶遣之、風呂在之、

九日、ケコンサシ登高座、一瓶代十疋遣之、不出、於惣珠院淨教房登高座、音信不取、

興善院四季講

不出、於興善院四季講在之、出了、春禪房初年問者ノ間、一瓶・兩種遣了、

一、梅軒息二位殿十三才、大乘院へ可被召置歟ノ間、則同道御禮申サセ、來廿一日吉日之間可有祇候之通也、

淨勝房知足坊登高座

十日、淨勝房、知足坊登高座、何へモ不出、日中飯常ノ内衆へ申付之、次ニ南井坊・長印、蓮日中申付之、

一、蓮成院風呂新調入了、夕飯汲在之、思出了、

十一日、安居屋へ入了、道具連々上置之間、手間不入、釜口地一荷・兩種持上了、

十二日、昨夜スミエノヤ火事、瓦ノ屋ニ西京ノ人求聞得タリ、見付テ消留了、賢良房法印夏中ニ參籠、部屋ニ長香ヲモル火打ノスミナマケシニシテ燒入了ト、無殊儀珍重々々、

仁王經  
壽命經  
心經

十三日、正預二百座清祓申付之、フセ二斗十合、遣之、日中飯申付之、

一、山へ始テ兩人召遣之、祝儀ノ酒持遣了、夕部火ヲ替へ巫女ニサンケ申付之、四目曳了、仁王經・金剛經・壽命經・心經始、無言、夕部例時懃行如引付沙汰之、大般若出之、本尊懸之了、

十八日、

一、掃除ノ人夫新坊琳圓ニ申付之、ノタノ衆十人來、四方内儀悉沙汰之、

十九日、舜恩房・俊行、登高座了、二年衆也、舜恩坊ヨリ本尊、同學抄、クワンス返了、一瓶・兩種持禮ニ來了、一切經第一櫃ヨリ良懃房轉讀之、弥三召寄水汲セ了、七荷汲了、米一石禮ニテ遣之、弥三夏ノ給分ノアテ也、

一、去十六日、日中後ヨリ陽教、香賢、大坂見物ニ越了、明日歸云々、

二年加行結願

一、賢了房・實圓房二年加行結願了、

廿一日、

一、梅軒之子二位殿十三才、大乘院殿へ奉公ニ出了、堯舜房同道了、行末八坊官ニ可被

梅軒ノ子  
大乘院奉公  
坊官



仕付敷、但於機不足者、不及力次第也ト仰、次ニ堯舜坊へ北圓堂方番條ノ供禪識、跡一口被成御扶持了、榮順、長明初年結願了、

一、大坂・堺見物シテ、昨夕陽教、・香賢、同トヲ歸、執手給了、

廿三日、群參論今日迄也、略○下

一、幽贊談義了、丁衆如前、蓮成院上屋、常如院瓦屋被語了、

一、淨勝房・善俊、初年加行成就了、略○下

廿四日、毎月ヲカン供於坊申付之、略○下

一、大乘院殿北圓堂供堯舜房へ被仰付之間、今日御禮ニ被參了、樽一荷メン十把、コフ五斤、私ヨリ合力ニ調遣了、

廿五日、幽贊談義了、丁衆如前、貞忍房初年開次了、

廿七日、幽贊談義了、略○下

廿八日、

一、昨夜夢ニ大乘院殿天井ニ聖教アマタ在之、諸日記在之、印鑑渡ノ日記在之ト見了、又東院家ノ二階ニ種々ノ聖教・日記在之、弁才天ノ作タル大ノ座像ノクロキカ、東ノ

方ニ西向テ在之、藥師如來ト覺ヘテ、七・八尺ナルクロキ厨子ニ入テアリ、其外色々本尊・聖教・舊記共在之ヲ見了、善心堅固ノ故歟、難有々々、今曉大寐ニテ參社夜明了、

廿九日、昨夜夢ニ、愚身上下齒悉少ツ、生出、アサヤニアリ、又古キハ少（キカ）、一ツ落ト見了、生出（セ）タルハ吉事、落タルハ先例不苦也、

首神咒合七十七万八千二百返了、食堂ユカ論廿四卷也、金勝院へ誂了、

晦日、火替付陽教房上屋・香賢房瓦屋參籠、幽贊丁衆堯舜、・長學、・良光、・遍照院日中飯申付候、湯沐了、

五月朔日、天氣快然、簡井後室ヨリ寺門へ樽被上、今日於成身院各へ被申了、連々心落祈禱ノ禮ト云々、○中 幽贊談義了、

三日、

一、瀧ノ用水御所へハ常住ノ神人召遣テ清祓在之、社中へ寺門ヨリ清祓フセ三貫三百文、以代米六石六斗被遣之云々、

一、○中 幽贊談義了、

四日、蓬菖蒲當室知足屋莊申付之、略○下



擬講ニシテ  
成業ノ役ヲ  
懃ムルハ不  
可成業ノ已  
講業ハ頭屋  
トナルヲ得  
ズ

一、瀧ノ水今日ヨリ遣了、一段安堵了、摩尼珠院因初門一獻儀式在之、去年頭屋擬講ニ  
轉任シテ、成業ノ初門沙汰之段、先代未聞ノ珍事也、扱無勿體事ト存ス、未業ノ已講  
第一曲事ナレトモ、顯實房僧都以來如此、雖然成業ニテハ頭屋不成之故ニ、已講ニ成  
ナカラ、成業ノ役ヲ可懃事、言悟（語同断之）、新儀淺猿々々、

五日、節供如例、於當室申付火ヲ替了、兩常住來了、宿ノ衆於知足屋沙汰之、野田孫介  
子五才初テ禮ニ錫持來、十足返禮ニ出了、天氣快然、長善、坊へ出、新三郎召寄了、

略○下

六日、榮勝、・舜信、・宗實房・春忍、一瓶・兩種持來、法華會當年有執行由被申、如  
何、不可有法量、

八日、千部論今日迄也、雨氣如何ニモ不降、無心元者也、仙學房・識善、上之間、返禮  
廿足ツ、遣之、

一、此曉夢ニ、識善房詠ニテ、於佛地院訓論可在之通ニテ出仕、客殿ニ東向テ訓英ノ御  
影在之、其北ニ立像ノ地藏一體、座像ノ銅ニテ拵タル長三尺計ナル衣文アサヤカニ、  
チトフスホリ色ナル三體在之、辰巳角ニハ三帖敷ノ部屋茶湯在之、丁衆ニ摩尼珠院ナ

法華會

千部論

夢想

願主人

千部論供養

ント來ト見、又三學院ニ加行者二三人、セハキ所ニ部屋ノ用意シテ在之、祭禮在之、  
願主人エンヤ始テ十人ほと在之、如此願主人ヲ、キ事ハ無之ト見了、先之陳ノ様無心  
元思ヒフシタリ、如夢（著之）、不可有殊儀ト覺タリ、

一、岡村甚介見廻ニ瓜五持來了、略○下

一、去年訓論ノ布施三石當座曳之、ノコリ七石ノ内、來十日、於唐院半分三石五斗可請  
之旨、切符來了、三人讀師へ十石ツ、ノ布施也、過分至也、訓論之事、今曉夢見ニ如  
此、不思議々々、咒願松林院、唄禪舜房、散花春教、梵音陽教、錫杖延識、堂達  
良眞、

九日、千部論供養在之、導師東北院、諷誦文ノ事供目代雖申辭了、定テ導師沙汰敷、大  
宮殿へス、一對・粽ニワ遣了、

一、○中 來十四日、恆例當月祈禱人數之事被仰出間、則具ニ申渡了、幽贊談義了、

十一日、新造屋論長善、代ニ出了、納所尊藏院幽贊上卷功終了、

十二日、番匠善四郎來、湯殿ノ板破損之間新調了、

十三日、

一、長賢房上、積藏院ノルス淨圓カ菴ヲ借住了、實淨坊、因明初門儀式在之、



天正十二年雜載

一四六

一、幽贊下卷談義始之、丁衆同前、十四日、

一、大乘院祈禱在之、六十人廻請也、雖然摩尼珠院算勘在之故、四十人も被參敷、道具色々調借了、

一、明日、於花藏坊學道同音論頭堯舜、沙汰ニ付、山芋一把遣之、道具之事申間坊へ申付之、

十五日、

一、兒曲事共間、木津へ申遣、甚五郎ニ可上之由被下了、

一、堯舜、ヨリ今日客來間、兩種并錫一對給了、

一、十八日、幽贊談義了、木津甚五郎上、兒事申遣了、午ノ日ニテ觀音參數多在之、○下略

一、十九日、宿ヨリ餅濟々來、專舜、被尋了、

二十一日、

一、木津へ久無音之間、兩種・樽一荷下、等春召遣兒事具ニ申届了、

一、夏中ニ金勝院・專識、・陽教、參籠、金ハ成業初門也ト云々、

廿三日、

一、光春、・延識、因明初門廿足ツ、遣之處、諸方不取由ニテ被返了、

一、安居、當年ハ赤御供赤飯也、折五合六舛ニテマコ九郎仕來了、

一、○中略幽贊談義了、十合、四斗一舛在之、

一、光春坊忍明初門皆請云々、海松・大根・うと在之、首咒合八十七万二千七百返、

廿四日、

一、坊ノラカン供申付、勲行良津ニ誂了、

一、信讀經やとよて四百五十卷讀之、當年ハ幽贊談義ニ迎之了、

廿五日、

一、兒木津先下了、爲折檻也、甚五郎迎ニ上了、

一、廿六日、○中略長善日中飯常如院へ申談了、晦日ノ用茄ノスシ申付之、

一、幽贊談儀了、布施トテ二百足、代米四石新藏院ヨリ昨夕來、藏へ入了、

廿八日、

一、市兵今朝迄二夜三日參籠トテ立寄了、幽贊談義了、

天正十二年雜載

一四七



因明講

願  
幽贊談義結

流鑄馬

- 一、從意齋、先日裝束調下禮トテ、藤室一札・クス廿丁上給了、
- 廿九日、因明講、々師願春房、舉此三種、散花ハ尺迦也、出仕ハ讀師ヨリ後ニ案内ニテ丁衆出仕、退出ハ丁衆ヨリ退出也、火替付良勤房律師・夏中金勝院・圓城坊・蓮成院談義了、丁衆堯舜、・長學、・長善、・舜恩、・良光、、大般若轉讀一部誂之、日中飯申付之、湯ヲ浴了、卷數以下認之、
- 六月朔日、幽贊談義結願了、丁衆へ餅ニテ酒進之、成身院兩弟子同道申入、酒進了、卷數一合、木札二枚、書遣之、布施四石請取了、
- 一、流鑄馬定、於別會所惣珠院在之、肴以下事々敷鄭重之由也、
- 二日、從窪城伊豆殿新藏院使ニテ二荷・兩種禮ニ來了、
- 三日、ラカン供、良津誂了、兒爲見廻樽遣、等春可召下之處、幸甚六下間申遣了、
- 一、仁王經上、先々仙へ下、態藤坊ヨリ取ニ遣來了、
- 四日、
- 一、阿弥陀院兒得了、賢弘專觀十四才、大乘院門徒也、超昇寺ノ内土川息ト、
- 五日、
- 一、新十郎御番ノ間日中飯申付之、梅木門太同請用了、

仁王經談義

得度  
庚申待

仁王經

- 一、識善房上了、仁王有談義者、可在丁聞由ニ被來、殊儀之事也、此寺ノ衆ハ中ノ思モ不寄、沈思々々、
- 六日、
- 一、同兒又一人得度、田中ノ者也ト、一乘院門徒ニ參云々、
- 十一日、
- 一、善春・若春・ノタノ禰宜見廻ニ來了、蓮見廻ニ被立寄了、
- 十三日、先夜後夜ノ前ノ夢ニ、春覺坊律師慥ニ見了、藥ヲ煎各火鉢ナント前へ持參尊崇ト見、何哉覽色々被申、皆忘了、二三日前ニ晝寐ノ夢ニ正ク當室へ被來了、此間仁王經訓讀流ヲ副テ見ル間、機ニ合了、故ニ被見歟、近年一向不見、不思議々々、
- 一、仁王經上卷讀終了、常如院・蓮成院十三重歸ニ見廻祝着了、
- 十四日、
- 一、兵庫弥三郎与二郎見廻ニ茄子卅ツ、サ、ケ・ヒエ持上、坊ニテ酒吞不見參、
- 十五日、
- 一、於阿弥陀院得度在之、小夫之息香祐賢觀、十四、
- 一、今日庚申也、善春待了、



十八日、  
 一、當室轉讀大般若一部結願了、又發願了、  
 十九日、木津安入へ瓜廿、甚五郎へ十、才二郎二下了、  
 廿日、

一、木津へ与一ニ瓜五十下、内廿喜三へ、十兒へ、五ツ、本光、尼二人・太夫へ、  
 一、ヒセンヨリ瓜以下色々持了、略  
 一、識春房語候、先般室生へ入三輪ノ人兩人求聞持執行之處、一人通導場ノ壇上ニマノア  
 タリ異ナル人出來テ聞持不可成、早々歸レ、不然可死トアル間歸寺了ト、不思議事也  
 ト、三輪ノ仁ニ可尋知之事也、

一、中昔唐ノ佛眼寺ノ本堂ノ觀音ノ御首ニハ、夜ル照玉アリ、是國ノ寶也シヲ盜人夜  
 ル入テ取ントスルニ、イカニモ手不及、ノヒアカレハ御首次第ノ二高クナル、フマ  
 エヲシテ手ヲ上レハ、又高クナリテトラレス、其時才學アル盜人ニテ、申上テ、如何ニ  
 并ハ大慈大悲ノ故ニ地獄ノ苦ニサヘ代玉、頭目髓腦ヲサヘ施玉ニ、何ト秘藏也トモ此  
 夜ル光玉ヲ非可惜玉ニ、大悲ノ并ニハイマサスヤト云時、御首ヲウナタレテ玉ヲ取レ  
 サス、夜明テ寺ノ衆希代也トテ十方遠近色々才學テ尋ニ、或市ニ此玉ウルモノアリ、

タハカリテトラエテ尋之、シカノト答フ、サテハ本尊ノトラセ玉ニコソトテ、代ヲ  
 與テ取返シ、又本ノ本尊ノ御首ニ納テ今ニアリト書傳、此故ニ其寺號ヲ佛眼寺ト云ナ  
 ルヘシ、大峯ノ尺迦ハ其并ニハ大ニ替レリ、實否如何、  
 廿三日、

一、大般若信讀五百七十九了、幽贊談義殊ニ老屈故如此遅々了、  
 一、十後一尊ノアマタ、并坊ニ置ク本尊箱藤七郎ニ渡了、惠心ノアマタ風入、カキハ返  
 之了、同廿四日箱へ入了、不願論宗平談義ニ夕蓮來了、

廿四日、  
 一、法花ノ道具風入了、

廿五日、文珠講代ニ忍禪坊へ談処、舜善房當參籠之間出由祝着了、  
 廿六日、於東室千座仁王講三ケ日在之云々、

一、長賢、昨日坊へ可歸之處、例日トテ今日歸坊了、

廿七日、曉寅ノ初點夢ニ、坊ニテ南ヨリ黄セキレイシケク來、見レハエヲハコフ、栖ヲ  
 ク拵子ヲウムニコソ、此鳥ハ昔ヨリヲシエ鳥トテ目出キ鳥也、サレハ災難ノアルヘキ  
 家ノ屋敷ニハヨリヌ也ト申傳ニ、栖ヲカケテ子ヲウム事大吉事也ト見ハ、南向ノヒロ



エンノ丑刁角ノナケシニ子アリ、親カエヲクワスルヲ見ニ、子三ツクチヲ開テ食スト  
 思テ、其後東ノアタリニ二階アリト見ニ、六・七才ナル男子ノイツクシキ童子三人ア  
 リ、北院ノカケ山カ子ナルカ、僧正ノ色々御育ミニテ如此ソタツトテ、二階ヨリヨリ  
 テ湯ヲ沐ミ度ト申間、則愚身一人ツ、タキヲロシテ、湯殿ノキレ母ナル所へ入ルト見  
 テ夢覺了、不思議ノ夢也、可占之、今日ハ壬申ノ日也、此夢ノ吉事鳥三ツナレハ、明  
 年ノ三月ニアルヘシト存ニ、夢之三ツ正等ナル吉事アルヘシト存、現世ニヘテナラハ  
 福祿如意也、二世カケテナラハ福智道ノ三成就圓滿也、後世ニヘテハ佛法僧ノ三寶ノ  
 威光増長ナルヘキ先瑞ト覺タリ、一旦ノ夢中ノサテ、如此、憑シム事淺猿々々、

香煙殘僅二三行、易消巨續チキエカタンシツクコト

八廻已迫五返餘、誰究セメル第八カキソメン

是ハ愚力辭世ノ頌也、初ノ句ハ人壽ハ先業ノ故、第八ノ注議注議之ノ功能ニ立之、只長  
 香ノモリタル念々歩々立カ如シ、四スミノ香既ニ三スミ餘リ立テ殘テ僅ニ二三ス  
 チ也、風等ノ災アラハ殘ノ三スチモ難立畢、縦立トモ二三スチ也、

後ノ句ハ人ノ生レ年ニ廻ハ八ケ敷至極也、十三・廿五才・卅七才・四十九才・六十一  
 才・七十三・八十五・九十七才也、予既六十七ナレハ五度餘究タリ、昔ヨリ百才生タ

ル物ハナシ、何トシテ第八度目マテ廻リアワンヤト也、如此交スレハ今日明日マス迄也、  
 ア、

一、當旬中院愚番、淨舜房ニ負間遣之処、舜善、籠了、別供、三斗七舛四合在之、未到在之、

廿九日、因明講、々師陽教、問者實禪擬講、題如佛法言、不願淨宗、探取之了、

七月一日、上屋愚番金勝院へ詠了、福聚院・圓忍房・金院ヨリ音信在之、

一、昨日、郡山へ從大門御樽被遣由市兵來語、

首 咒合百八万五千三返了、

一、南井坊西屋參籠之間、ス、一對遣了、

三日、○中マコ介來間、日中飯申付之、

五日、辰巳コチ風吹了、善春硯水ニ麵并フノスキ物（器）汲了、日中飯ヲ一度常々沙汰之、日

損ノ間達而申留処、又如此煩也、

六日、

一、上屋愚番金勝院籠、別供八斗程在之、彼番ニ可籠返者也、

一、坊へ明日ノ用ニ麵十一把、出了、



七日、節供如常、神人兩常住來了、マコ介來了、麵五ワホト沙汰之、  
 一、坊ニテ宿ノ衆良敷坊如例麵十一把ニテ在之、又六上了、  
 八日、聖教風入、長善、・舜恩、・良敷雇沙汰之、

一、(因)恩明講、正所爭頭談義ニ實淨房得業來了、

九日、明日赤御供之用意申付、實淨房、・・專識房談義ニ來了、○下略

十日、當室赤御供、當年赤飯今日備進了、白米十合六斗、ウル三分一入、アツキ二舛ア

カサシ了、一斗一舛入了、當年アツキ二舛カエ、一段高シ、カネ幣廿五枚、シヲニ、

カワラケ五斗ニヤキテ、散米米白三合、五度入五十七、アフラツキ五十七、小折五合

トモノヤニテ代六舛 一杯二六舛ツ、合三斗、小社五十七杯、一升ツ、合八斗七舛、御供所ノ御八

合ノ舛ヲ借テ升渡ニ計渡之、常住二人、饗菜三、同下代二人ワンニテ食之、トネ一人

同食之、酒進之、以上合一石六舛入目也、良敷房律師・長善、・實淨坊得業・專識因

明講談義來間申留進了、(火カ)日替了、散花別ニ不申付之、愚如常ノ被沙汰之、

十一日、

一、兒曲事間、五月廿五日ヨリ木津へ追下、種々懇望ノ間、明日迎可下之間、條々請乞

信讀大般若  
經六十七部  
夢占

因明講

ノ管可取之由申付、甚六今日泊懸ニ下了、

十二日、兒歸坊也、○信讀大般若經安居中讀之、一部結願了、六十七部目也、

一、昨夜ヨリ如例三夜之間ノ夢ニテ、世上并身體可占之旨令意念之処、昨夜打續目出事

共見了、世上モ無替事、身上モいまた可存命と覺へ、天川參詣色々若き時ノ事共ノ様

ニ見了、

十三日、因明講出了、講實淨房、・・問專識房、

題(因亦不重、正所爭故)、探行蓮房僧都、

十四日、昨夜夢ノ様一段珍重云々、頭屋カ、悅酒カアル様也、夕、馳走スト見、如夢中

者、世上モ身命モ不可有替儀ト覺タリ、

一、安居結願退出了、如例大乘院一荷コフ、卷數二合、進上了、

十八日、○中略來月三藏會了申渡之了、(善)豎者淨順、・專識、・長圓、以上、會合談義

了、

北院遂業之事、達而被申入、今日御同心、則長圓、延引也、

廿一日、因明屋參籠了、卅煩へ不出、以之外炎暑之間、朝之間御談義沙汰之、日中飯汲

因明屋

三藏會



卅頌終ル

了、

丁衆禪長、得業、順了、略、專識、陽教、

廿二日、一時今日迄也、略

廿五日、坊へ不出、圓忍房供目代悅酒於壽福院執行、炎旱旁不能助成者也、堯舜、此但舉一談義ニ來了、御地藏ノ錫杖ミカキ了、

廿六日、因明別供送之、二石七斗程在之、屋ヨリ出了、大門様へ御見廻申了、

一、三藏會豎義來七日專識房遂業付、精義ノ事被申間、老耄旁々雖爲迷惑、連々知音之間、無処于難澁、則同心了、定始比量談義了、

北院空慶三藏會遂業

廿七日、北院空慶三藏會遂業事申調処、以御使ユエン五丁被下了、明日廿八日加行可被相始之通也、平之良家ハ慈恩・三藏會加行七日也、（禮）青花之間少久御沙汰先規敷、兩門ナントハ五十日も御沙汰敷、略

廿八日、

北院加行始

一、北院加行始了、放請御寺家へ認上了、役人持參、五十疋式代在之、米一石取了、種々遠慮之事被仰、一向不同心、則役人備後給了、義名認北院へ遣之、引合如常、

晦日、

一、去廿七日、興善院講、禪識、弔經在之、良勲房律師一臈ニテ沙汰之、經木ノ代一斗九舛遣了、合力也、

八月朔日、

一、來七日三藏會執行、淨順、專識、加行、今日始了、

二日、

一、成院講問出了、來題從餘相分、講興善院也、朝之間門跡へ參得御意了、

五日、ヒワタヤへ出了、來講摩尼珠院、題有漏一識因、

七日、亥日也、宇賀神咒合百十六万結願了、又色々以探取神判之処、毗沙門咒出了、則始之、漸々二百万返可奉誦之者也、但命如何、

八日、昨夜於大乘院三藏會在之、豎者淨順、專識、北院良慶以上、專識房精義勲之、定姓比量、捧物トテ一石并一瓶・兩種濟々被給、煩至也、

十日、略明日講問談義ニ南井坊へ出了、日中後專識、陽教、來談了、明日道具調上了、

檜皮屋

三藏會



信讀仁王經

群參大般若

十三日、曉信讀仁王經作法如安居修之、爲御祈禱也、六ノ過ニ御下向、御輿ヲ被立、善六郎御使忝事也、雨少下、御伴宗良・教淨・善七郎・善六・木新十郎・孫八郎以下也、十四日、於八講屋群參大般若在之、午貝ノ過ニ終了、雨止、日中飯良懃房、北戒申入了、路次難治<sup>之間</sup>旁、知足屋ニ二夜・三日參籠了、十五日、

一、坊ニテ月スキ如例申付之、夕飯持來、十六日、

一、宇多ノアスカニ居妹ノ子、見廻トテ燒米持來了、

十九日、爲大門樣御祈念仁王經修之、良懃房、長印房、陽教、舜恩、以上、

大乘院門跡  
祈念

一、興善院へ弁講之比請用之間出了、

一、曉於門跡信讀發願了、唄長印房、散花陽教、語了、

廿日、金院來談之次、一字汁申付之、

一字汁

廿二日、太子講、々師陽教房、問者沙汰之、題由不放逸、來題一門轉故、明日經營申付了、下筭勘沙汰之、

中日逆修

廿四日、中日逆修へハ不出、頓寫經一把長得書遣之、講問修之、講師良光、問者舜恩

、題第二定出苦、羅漢供略之、

報恩講

廿五日、報恩講、明王院在之、出了、講師懃之、來題雖依生空、

一、八万四千本於觀禪院在之、不出了、一瓶・兩種返禮了、

彼岸結日

廿七日、彼岸結日也、取亂何之作善モ無之、沈思々々、

廿八日、大御堂年預筭勘沙汰之、金藏院西座年預不可叶之由、先年雖爲一決方、若年ヨ

リ居住、坊務方役悉以被懃之上ハ、有沙汰度之由競望之間、以集儀被相定、則當年明星院・金藏院・宗禪、源松、へ年預渡遣之、

廿九日、

地藏講

一、於寶生院地藏講在之、來題意及意識、依所圓城坊、

九月二日、成院出了、問者沙汰之、來題能一行中、講南井坊、

一、二位殿是へ御預リ之旨、其通申入了、

三日、ラカン供、次ニ仁王經修之、良懃房・長印房・堯舜、來了、若君樣音信了、

六日、長印房信讀仁王經百部讀誦被仰付、今日結願、則明日可上之由被申了、約入仏法

羅漢供  
仁王經  
信讀仁王經



談義ニ初門之衆來了、私記少々書之、

七日、

一、專千代伊賀へ歸了、當年マテ四ヶ年堪忍也、長張郡古山ノ杉原ト云人ノ一子也、先年錯亂以來奉公了、當年十五才ト云々、

一、孫六子藤丸被官之間召置之、十五才ト申、

八日、

一、若神へ源五郎今日下國ノ禮ニ木練卅持セ出了、次新藥師へ參、ソレヨリ眞言院ノ禪識房墓へ興善院講經交ヲ持テ參了、以外遠路草臥了、

九日、

一、曉夢ニ東院へ強盜入散々取散、乍去内ノ道具ハイタノ物ニ、ヒタ三貫トヤラン田舎ノヲ取分也、堯ハ少ウス手ヲ負、事之外寺門衆出合、忍春房ハ大事ノ手ヲ負、何クノ人ハ不知二人來テ東ノ古廊ニテ文ヲ捧、見ハ唯識論ヲ學スル人煩ヒアリ、十一ノ堆ヲ灸スヘシト書テアリ、又了弘僧都私ヘクロキヨコカキヲ被渡ト見了、是ハ扱々因明納所ニ愚執アルカト悲歎無限、淺猿々々、

大乘院當月  
大般若經轉  
讀

報恩講

轉讀大般若

仁王講助讀

大般若轉讀

仁王經

十一日、於大乘院當月大般若轉讀執行之御留守之間、十人計ニテ在之、出了、  
十二日、

一、於南喜院報恩講在之、出了、問者沙汰之、來題開導依第二師、講南喜院、依所マニシ  
ユザン、

一、爲當月祈禱自身一部轉讀大般若執行之、今日十二帙了、

十三日、月スキ如例申付之、大般若廿三帙了、

十四日、於蓮成院仁王講助讀了、日中飯亥ノ日弁講之次ニ惣珠院へ出了、東陳卅京ノ五  
德へ遣之、蓮成院ト間ノ垣申付之、

十五日、爲當月祈禱、十二日ヨリ今日迄ニ大般若一部自身轉讀了、  
略

十七日、靈供備之、市兵條々申來了、ハカ參了、

十八日、爲當月祈禱、仁王經修之、他請十七人ノ内十三人來了、東林院殿申入了、源二  
郎マコ連宗呼了、兒木津へ下了、

十九日、  
略

廿日、藏ノ壁ヲ古ヲ落シ新塗了、下御門人夫一人來、



廿二日、  
 一、マニシユ坊ン・惣珠院彼是談合ニ出了、  
 廿三日、靈供備了、風雨ハケシ、大乘院ノ因幡・兵庫參宮了、  
 廿四日、ラカン供了、二階以下道具悉取置了、○下略  
 廿五日、蓮成ノフロ申付之、  
 廿八日、  
 一、新唯識會在之、於松屋修之、神人マコ一郎箸ケツリニ來、  
 一、ナヘヤ弥四郎來、入道了、宗隆ト云、云々、  
 廿九日、○中略百ケ日、明日講問在之、  
 十月二日、成院出了、來題見五地斷、講師予、  
 一、客殿ノ天井西京番匠三人ニ申付之、  
 一、木津へ兒爲見廻一荷・兩種下了、  
 三日、昨夜ヨリ大雨下、ラカン供仁王經修之、  
 四日、  
 一、專千代迎ニ古山へ助七遣了、一樽瓜ツケニコネリ廿遣了、

羅漢供仁王經

五日、日中マテ雨下、專千代十五日ヨリ内々可上之由返事也、  
 八日、亥ノ日弁供西坊ニ修之、布施一斗遣之、亥ノコニ大門様へ參了、越前ヨリ今度結綿被取上了、孫八郎ト分テ取之、  
 九日、又三郎堺へ遣了、十一日ニ可歸之由申上之間、迎馬事十市後室へ申遣之處、同心尤々、  
 十日、  
 一、廣ニワ普請ニ一坂人夫三人召上了、  
 一、堺ヨリ又三郎被歸了、  
 十一日、上コン見廻ニ立寄、日中飯申付之、  
 一、從釜口多聞院爲見廻使僧上了、  
 十四日、  
 一、伊賀番匠小太郎ト云、金藏院口入ニテ來了、小便所修理了、  
 一、和田次郎二荷持德藏院同道了、不思寄式也、  
 十五日ニ伊賀少太郎來、成身院へ兒道具以下付一瓶・兩種持出了、西ノ新部屋ノ口沙汰



中藏院講問  
仁王經  
亥子祝

- 之、
- 十八日、
- 一、中藏院講問出了、來題唯頓唯漸、
  - 廿日、仁王經修之、亥ノコ蓮成院へ出了、長賢、・長善、同道了、
  - 一、昨日十九日專千代伊賀ヨリ歸了、祝著々々、
  - 一、兒歸了、西京番匠助二郎ハ對ノ屋北ノ嵐フセキ用意申付之、伊賀少太郎ハ同ナケシ申付之、
  - 一、十後へ樽遣之、先日馬ノ禮并借用ノ道具注文申遣了、
  - 廿一日、
  - 〇一、知足屋平茸一重取了、長善西屋ニコモル、往來事申付之、
  - 廿二日、
  - 一、白カヘカヘヌリ四人來、石灰ハ大門ヨリ被下了、四人來、二帖ニ二斗五舁、内一舁ハ加ヘニ、在了、
  - 一、築地ノヤネヨ三郎來、廿一日、白五帖縫ニ來了、
  - 一、秦樂寺ヨリ芋頭一重上了、榮賢、ヨリクス五十延上了、

興善院四季  
講  
羅漢供  
仁王經

- 廿三日、靈供備了、白カヘヌリ四人來、
- 一、善四郎昨日ヨリ來、中敷十帖申付了、
  - 一、藤八・イカ四・惣珠院各被見廻了、ヤネ与二郎、
  - 廿四日、
  - 一、藤・伊九・西五、カヘぬり四人、雨風故日中ヨリヤネ歸了、
  - 一、釜口ヨリ酒一荷上了、兒アカネウラヲモテ昨日遣了、
  - 廿六日、
  - 一、供目代圓忍房習禮へ一瓶・兩種持出了、
  - 一、〇中番匠善四郎今日ヨリ來、
  - 一、ヤネフキヨ二郎先シマイ了、北西ノ築地・シンテンノ南ノノキ・大便所フク、
  - 廿七日、
  - 一、興善院四季講出了、來春題六處殊講尺儀講尺、
  - 一、藤二・善十二・イカ・西 對屋ノナケシ・天井イカ番匠一昨・今日仕立了、
  - 十一月三日、ラカン供之次仁王經修之、南井坊・金勝院・良懃房律師・圓明坊・陽教、
  - ・堯舜、・長尊、・舜恩、・藤・善・イカ・西・与二郎、



- 五日、平二郎・小太郎ニハツマトノ障子申付之、摩・淨兩人被來了、
- 一、大門御下部京(院アルカ)ノ次ニ盃・壺持下、散々ノ物體用ニ不立事也、
- 六日、
- 一、上權使ニテ十新井御内ヨリ五百疋ツ、來、草川ノ左近來、
- 七日、新造屋へ米七石五斗入了、破木皆取寄了、平二郎上、善四郎+・少太郎引上也、是本也、寢殿ノ破風仕立了、中門ノヤネフク、人夫勸修坊三人、蓮成院一人、淨ルリ院一人、長印一人、マコ三人、小三郎、以上十人、
- 一、石灰五斗大門様ヨリ申請、緣下ノ土壇ノ用也、
- 一、堯菌先下了、
- 八日、大乘院ヨリ人夫三人御下ニ被下了、善春京アシコへ上間、扇之事申上了、
- 一、中門并シンテン北ノツマヤネフキ了、雨アラレ雪下了、
- 十日、
- 一、仁王經修之、十人計來、經半被上了、
- 十六日、
- 一、熟調助成之道具事、切符調觸了、書手金勝院・圓城坊・妙德院、蓮成院・龍德院・

- 蓮藏院究竟之衆即時ニ被認了、
- 一、供目代悅酒、識春房沙汰之、法用僧勸修坊、
- 十八日、
- 一、米谷宗慶、同七郎爲見廻被來了、
- 一、龍門(マ)ト云人替ニ上了、是へ禮ニ來了、
- 十九日、宗有・宗顯・顯入一獻ノ様彼是示合了、
- 晦日、○中首咒合廿二万八千百返了、
- 十二月二日、取亂成院へ不出、來題非無癡俱云々、方々酒以下之代一度ニ取ニ來、以外開敷者也、
- 三日、ラカン供ノ仁王經修之、掃除ニ未取亂了、
- 五日、坊ノ取置大旨仕舞了、蓮成院へ禮ニ茶ワンノ鉢持出了、
- 一、綾ノ小袖裏面裁了、
- 六日、○中南井坊へ地藏講出了、一瓶持出了、來題觀所知法、○下略
- 七日、於圓城坊報恩講、々師陽教坊、問者予、來題要生第四禪、次ニ寺内衆熟調ノ禮ニ行了、



煤掃

大和鳥見ノ  
和田某ノ息  
德藏院ニ於  
テ得度

德藏院ニ於  
テ得度

九日、福智堂楊本備前へ今度馳走ノ禮ニ下了、馬大乘院ヨリ借被下了、  
一、十後ノミソ一石五斗借用、ヒセンニテ五斗借用、ツキ入了、

八日ヨリ番匠小太郎來、北ノ少便所申付之、

十三日、論匠悅酒持寶院春會房、廿六才、長堯、入、廿五〇中、ス、ハキ如例、昨夕十二日、蓮成院ス

、ハキトテ風呂在之、入了、

十六日、龍雲院・聖禪房坊へ移付テ、禮ニ出了、樽一荷・タウフ十丁・クス十丁・扇兩  
金、并丹波へ五十疋遣之、若神同道了、

十七日、於德藏院得度在之、鳥見ノ和田息十一才、專舜房ノヲ拵也、戒師之事申間、新

織部別而無等閑、其由緒旁々令勲仕了、快盛專尊、十一才、大乘院門徒也、音信不取、返了、

大乘院殿へ去年・當年取遣注文懸御目了、侍從近年御堪當勘佗言申上、御同心了、法印

正命日墓參了、

一、大飯ミソツキ入了、マメ一石・カス七斗五升、シヲ一石五斗、コヌカ四石五斗、タ

ウミソノカ三桶、以上大桶三ツ、カウシ七斗入テ沙汰之了、

一、金藏院講問出了、來題以顯了言、講南井坊、

十八日、又於德藏院得度在之、昨日得度專尊、ノ弟也、戒師事被申間、又令勲仕了、宥盛

算置  
天道

專深、  
一、九才、一乘院門徒也、

一、蓮成院風呂光林院ヨリ燒之入了、

十九日、

一、菖蒲池ニ与五郎ト云算置名仁也、召寄命期ノ筭ヲ置セ了、來年卯月十四日定期、乍

去天道ノヒカへ在之間、不可苦、巳年ノ卯月下旬ニ可死也、首ヨリ病起テ可死也ト申、

廿九日、

一、本談義春季納所香觀房ノ跡、今日西發志院へ被相定了、

一、蓮成院フロ被申付間、内衆各々入、思出了、

卅日、

一、ハコ板・ワタス(マ)シウ一御熊へ、ハコ板春政ニ買与了、

うき事もうれしき事もむなしくて

(マ)なひちくその年ハくれけり

ゆめくとおもふはかりにとしくれて

罪とのはありつもる身そうき

七十に三ツたらぬまでならへて

天正十二年雜載



またゆくすゑをたのむはかなさ

入歳七十去來希之金言迫喉嗚呼南無

慈悲万行生々世々御恩頂載

〔春日社司祐國記〕

○大庚子五廿四日未刻、雨少下、

一、今日御地藏講、頭役ハ正眞院殿新入（世カ）持テ出之、

五 廿五日天晴、辛

アカ日、雨下也、

一、日中以後榮寺ノ御文書へ、

一、寺門衆高山へ三方入也、祐國、祐途ヲツレテ參詣也、トモハ若干代也、

五 廿六日、天晴、壬

一、今日寺門衆ノ三方入也、

五 廿七日、癸未時大雨下也、

一、寺門衆三方入、今日ハ（マ）小大寺へ、

五 廿八日、天晴、甲辰、

一、寺門衆今日三方入、秋シノエ御入也、

（五脱カ）廿九日、乙天晴、

三方入

寺慶

論議

松林院稚兒  
春日社參詣

一、早々辰巳殿へ祐國・イト兩人、（マ）

一日垣萬仕立也、

六 二日、天晴、丁未、

一、伊賀殿御出、夕飯申者也、

六 十六日、天晴、辛酉、

一、御寺慶、大方殿、學侶各中人之儀候、

六 廿六日、天晴、

一、ホングニテ寺門衆ロン在之、未申時分雨少下也、

一、申具（目）松林院殿御兒さま初御社參也、御幣串シテ、在之、（移方下同シ）移殿ヨリ御法幣也、如例シ

ヨモンノ殿番代宗四郎禰宜御ウラヨリ被出テ移殿□木ノ西ニ敷之、如此サムライホウ  
シ取テ御兒さまへ被渡也、其時過而祐國取ニ參祝申也、

一、御幣料 ヒタ、五百文給候也、

（六脱カ）

廿六日、少雨氣敷、

（松カ）□林院殿へ御樽ノ入目

□斗一升代ヒタ二百七十文、サウメン十八

天正十二年雜載



八舛四合

二合入 七升樽一荷ツノホリ  
又ノヤノ若神主殿  
さまより秋マテ札テ御口入也、

二升 ヒタ四十五文 カラ瓜十五數

合二斗一升四合入也、

ヒタ  
合三百卅三文入目  
ノコリ料足百六十四文在之、

一、六十四文 米二升五合代 さらしやへ渡、

一、三文 サ、キ

米五合代 文 ミソ

(六脱也) 廿八日、雨少下、

一、早々辰一天ニ松林院殿禪師御房實盛御社參也、御師如先規今西祐國仕也、

御幣料 ヒタ 五十疋在之也、

七 十八日、天晴、辰、壬

一、當年八盆ニナリ物・ヲトリ無之、

七 廿四日、天晴、戌、戊

(一脱カ)  
(講下向シ)  
(中東) 地藏稱頭役時廣沙汰也、

八 廿三日、卯、丁

一、例之御地藏稱今日在之、頭役家政、(兼也) 明日彼岸稱中日在之間如此、今日地藏稱在之、

一、明日ノ彼岸稱も家政殿頭役也、惣社參會、

ヒカン中日今日也、 八 廿四日、天晴、辰、戌

一、今日於大神主家政宅、彼岸講在之、祐國ハ自昨夜ノ大虫迷惑、出仕不申者也、送膳無之、

今日 一、分經ハ各探ニテ御支配也、

甲 戌、九月一日、雨下、

一、竹林院ヨリ米三升持給候、金剛童子御百度ノフセ、

九 十四日、天氣、丁亥

一、小しやミ法花寺へ歸也、同箸尾そうゆふへ下也、

九 廿四日、雨氣、酉、丁



祐國內室等  
長谷寺參詣

- 一、地藏稱祐金沙汰之、  
(辰市)
- 九 廿八日、天氣、  
丑、辛
- 一、今日早々長谷寺へ今西内兩人・ヲク以上ト心春房ツ□ミト同行四人參詣申也、
- 一、被宿ハ法光院也、
- 一、二度ノ飯ニ米一升代、  
ヒタ 廿文宛ヲク也、廿八日ノ夕飯二十文ト、廿九日朝飯ニ二十文ト米五合ツ、ノ通也、
- 十卯、廿四日、雨風在之、
- 一、今日地藏稱、祐父殿也、  
(東地主)
- 十二 七日、天晴、  
酉、己
- 一、しやミ辰市御寺へ歸下也、識□方同道也、
- 十二 九日、天晴、  
亥、辛
- 一、御地藏稱祐國仕也、

〔禁中仁王經大法自記〕

義演

予先途事

傳法以下方

傳法

天正十二年申年十一月十五日、受許可、師主報恩院權僧正雅嚴卅七、予大僧正廿七、道場金剛輪院、同八月廿八日加行始之、  
百日三時 不動言、同十二月十日結願了、

〔東寺講堂仁王經大法自記〕

義演

〔謹啓〕

一、予先途事

同十一年、愛染護〔學下同シ〕、每月朔日、起首、一七日不退勤行、

同十二年甲申年十一月十五日、受許可、師主權僧正雅嚴卅七才、道場金院加行、同八月廿八日、開

白、同十二月十日、結願、

〔先途大概〕

義演自記

同十二年甲申年十二月十五日、受許可、師主權僧正卅七才、道場金剛輪院、  
(天正下同シ) 予大僧正廿七才

同八月廿八日、加行護〔學下同シ〕開白、  
不動三時大師、尊師所作如四度、同十二月十日、結願、翌年二月廿四日、印信賜候、

〔華頂要略〕

門十三主傳二十四 龍池院二品法親王諱尊朝

同廿九日、若州羽賀寺爲年禮兩種・二荷進上、  
(天正十二年正月)

二月十三日、松原六波羅密寺普門院、來十五日、本尊令開帳之旨言上、

若狹羽賀寺



黒谷上人

六波羅密寺  
開帳

三河大樹寺

筑後坂東寺

大樹寺長老

六波羅密寺  
本尊開帳

以心崇傳南  
禪寺二掛塔

同十四日、黒谷上人參賀、鈴二對・食籠進上、

同十六日、六波羅密寺開帳、令參詣、

同廿四日、知恩院長老一樽・食籠進上、三州大樹寺長老成禮、十帖・一本進上如例、

同晦日、依筑後坂東寺之事、爲使者寄庵(鳥居小路)遣於西國、今日下向、

〔華頂要略〕八十三 知恩院歷代一第廿八世聰補上人

同十二年二月廿四日、知恩院長老一樽・食籠進上之、大樹寺長老成、梶原十帖・末廣一

本進上如例、

〔華頂要略〕八十三 年紀

六波羅密寺

號補陀洛山

年紀

天正十二年二月十五日、本尊開帳、去十三日普門院言上、

〔南禪寺掛塔名字帳〕〇妙心寺所藏

七貫參百文崇傳侍者、一階度僧官錢、

庵護收

天正十二甲申結制日

堂司元詰(花押)

右爲相當鈸一反、鼓一對、被

侍衣 宗智(花押)

出之矣、新添共似見免焉

西堂靈三(花押)

山城朝日寺  
觀音堂御供  
日記  
茶屋

〔光乘坊文書〕

第十五號

〇東京大學所藏

西堂正稷(花押)

十文

茶や  
与三郎

十文

同  
二郎左衛門尉

壹舛米

鬼  
二郎四郎

五文

同  
源左衛門尉

三文

茶や  
弥三郎

三文

同  
弥七

三文

源左子

三文

定使  
五郎兵衛

三文

孫大夫

五文

木戸

三文

与三五郎

三文

新三郎



一合米

五文

五文

二文

三文

三文

二文

三文

三文

二文

五文

二文

二文

五文

孫右衛門尉

三郎太郎

弥二郎

弥介

孫介

三郎左衛門尉

し郎

あゝおや

与三郎

弥左衛門尉

すゝや

与一

源衛門尉

藤左衛門尉

炭屋

入公

〔光乗坊文書〕

第二號  
○東京大學所藏

定入公法度之事

一、衆中參老之外者、幾人重腹（服方）たりといふとも只今如定入公可相調事、  
一、其故者、今度能長子千菊丸入公被仕候時、能徳・能觀母仁はなれられ候といへとも、  
入公被仕候、爲未來各連判如件、

卅二文

卅二文

五十文

五十文

ひしやもん室 目代

主曲（典）

御鏡

柴代

預能弁

預能辨（花押）

隨泉（花押）

能福（花押）

能長（花押）

能安（花押）

能徳（花押）

能運（花押）

能金（花押）

能狼（花押）



天正十二年雜載

一八〇

能貞（花押） 能觀（花押） 能札（花押）  
 能林（花押） 能閑（花押） 能隆（花押）  
 能存（花押）

天正拾貳年九月九日

八嶋屋修理

案文  
 就八嶋屋大破御修理事、急度可被仰付候、不然者御神供等調進成申間敷候、將又政所殿御節之事每年御無沙汰候、是又被仰付候様御取合所仰候、恐々謹言、

天正拾一年甲申

十一月十五日

能存 能安

小島新平

小島新平殿

〇

案文  
 就八嶋屋大破御修理事、度々雖申候、無其儀候、急度可被仰付候、不然者御神供等調進難成候、將又政所殿御節事每年訴訟申候へ共、及三十ヶ年御無沙汰候、是又被仰付候様ニ御取合所仰候、恐々謹言、

十一月廿二日

能乘 能□

小島□新助殿

尊朝法親王  
吉書

〔華頂要略〕

六十六 多武峰緣起 御吉書

三陽之初節、萬國之嘉瑞、日新月盛重疊、猶更不可有窮期候、抑社中・寺内之光花超舊貫、嶺上山下之繁昌鳴古風、公門之歸依武門之謁仰、自他真俗榮幸難盡翰墨之由、可相觸滿山者也、

正月日

（天正）同十二年

（尊朝法親王）御判

多武峯寺檢校法印

〔談山神社文書〕

和〇大

蓮華會々場之砌、於有向後惡口雜言廼逆無道之輩之者、立所深重仁可當御神罰給者也、仍一結如件、

天正十二年甲申 六月十四日

大衆敬白

〔大和法華寺鰐口銘文〕

〇金鼓と 鰐口所收

法華滅罪寺本願常安 大工下田新四郎・彌七郎

天正十二年雜載

一八一

蓮華會々場  
惡口雜言逆  
無道ノ輩ハ  
神罰ヲ蒙ル  
ベシ  
大衆

大和下田鑄  
物師新四郎  
彌七郎



天正拾二年甲申五月吉日

〔藥師院舊記〕

乾 ○大和

一、天正十二年甲申十月廿五日、因明會二當年預觀音院訓盛依無出仕、會式闕如也、前代未聞事下言、

〔法隆寺聖靈會記錄〕

大 ○和

天正十二曆甲申二月廿二日役人等之亥

繪殿上伽陀與爲  
下々々舞清

舞臺上 賴譽  
下 實秀

梵音頭 宗弘

興爲一騰 舞清

長英

宗弘弘篤

長乘

賴祐

懷弘

光祐

實雅

實賢

懷宣 賴譽 實秀 圓秀 專海 懷應 善譽 俊寬 良訓

立願觀音經一百廿卷  
三十頌一百廿卷

十講結願畢、

金光院集會、九日ヨリ十八日迄在之、

講師坊集會、九日ヨリ十四日迄在之、

因明會闕如  
前代未聞ナリ

堺妙國寺

秘密即身成  
佛灌頂密印

式日天氣快然、諸式無爲無事、寺家長久基也、

〔己行記〕

和 ○泉

天正十二甲申年

五十三

一、自三月廿八日千部經始行事

一、當年宮松物書習事

一、當年影堂ノ天蓋并緣出來事春 秋

一、秋南ノナリ門出來事九月九日

〔吉田文書〕

四 ○攝津

最換秘密即身成佛灌頂密印

胎 法界內縛日輪印

內縛右大指直立餘九指面各附左大、是九法界會入佛法界意、 眞言

乳 无句

師說云、一心灌頂意也、

金内證月輪印（辨カ）

天正十二年雜載



内縛、二大面相合八指面各々付二大、是八識會入第九識意也、明日、  
乳 无句、

師説云、一心灌頂意也、

天正十二年甲申霜月十九日

三部灌頂阿闍梨法印圓智 (花押)

〔法泉寺文書〕

○靜岡縣史料  
第四輯所收

曹溪山法泉禪寺者、(宗徳)春屋大和尚開山塔頭之靈地也、(宗徳)然而後即庵和尚御入院、自其已來到  
今日迄、末派流傳天豈藏之乎、雖無申迄候及其理候、於向後從他山之是非有間敷候、賴  
從東昌寺茂其斷分明也、至祝至禱爲後代一筆進之候、

于時天正拾貳年甲申十月十九日

敢乘寺

永高 (花押)

大慈院

慶守 (花押)

報恩院

梁木 (花押)

法泉寺置狀

永傳老兄

付之

〔大石寺文書〕

○駿河

無端書候、

大石寺諸役之儀并普請以下、今度於濱松御披露申上候處、何事も如前々御相違あるま  
しき之旨、被仰出候條、自然是非之儀申方御座候者、此方へ可承候、恐々謹言、

井出甚助

天正十一年  
申

三月十三日

清彦三郎

徳長 (花押)

大石寺

天正十二年雜載

徳川家康大  
石寺ニ諸役  
普請役ヲ免  
除ス

井出正次

清徳長



御同宿中

岩尾山東福寺

天正十二年十一月再建  
施主小菅九兵衛

小山田氏造營ノ棟札

〔甲斐國志〕

佛寺部第十七下

都留郡内領

一、岩尾山東福寺

（同前）同宗、同末、

同末、

○武州多摩郡松岳村淨福寺ノ末寺

本尊ハ地藏、開山ハ權大僧都頼弘、

觀音堂、元祿十一年ノ記ニ曰、觀音堂三間二尺四面、垂木作り、天正十二年甲申年十一月

再建、施主地頭小菅九兵衛（番九下南シ）九兵衛ハ遠江守ガ孫ナリ、世々小菅ニ居、十王堂、十王木像ノ記ニ、

細興作者村上長繼・堀口與太郎、京都五條大佛所弟師サイシキテ、永正六年己巳二月晦

日、佛工ノ自書ナレバ、文トアリ、堂ノ創造モ同年ナリ、同年五月ノ棟札並ニ天正中小山

田氏造營ノ棟札アリシニ、元祿十一年焼亡セシト云、彌陀堂、元祿十一年ノ記ニ云、

堂ハ四間ニ三間、小菅氏建立、

〔鶴岡八幡宮寺供僧次第〕

○續群書類從百四上所收

一、南禪坊

融意俗姓豊島、一位法印、

天正十二年甲申五月、相承院（融光）、法印依讓居住、同印可受法也、

〔吉祥寺由緒書并御判物〕

家康毘沙門天ノ像ヲ奉納ス

天光院

天正十二年甲申年二月、權現様御所持被遊候興聖菩薩御作毘沙門天王尊像、御奉納被遊、則毘沙門堂ヲ御建立、被下置候、○上下略

〔三縁山志〕

九 歷代高德

第十一世 秀蓮社雲譽上人圓也大和尚

筑後國柳川の産、菊地武俊の後裔、姓中西氏、或云、周防國人、大内家の藩黒川刑部少輔の子也、父并一族ともに同藩陶晴賢入道ノ爲に、大守と共に

討死ありし後、母山中にかくれ、農夫のたためにたすけられ二月にして生産、○中本氏を人にかたらず、略永祿九寅年十月四日、相模國大

長寺より縁山十一世に昇住あり、天正十年十一月火災により寺内焼失す、これより三

界無安の厭心いよくふろく、六趣妄業の軀質愛すべからずを觀解に堪ずして、同く十

二申年八月山下に天光院を開基し、本刹を源譽公にゆづりて、天光院に隱栖し、往生の

業務を精修し、一心に三尊の迎接を待、○下略

〔三縁山志〕

五 第八子院權輿上

天光院

開祖圓也上人ハ御當山第十一世たり、堂閣房宇自焼せしゝハ悉く再興し、源譽上人後爲國師

に讓與し、當院をひらきて隱栖住閑し、ひとへに名利を厭ひて三心の祕奥にすゝむ、御

當山今の地にうつりし時ハ南の地にありしかど、寛永中此地にうつる、其以前の地は今

の光學院の所といふ、又今の源壽院の地とも云、四世童樂ハ當山坊中幹事の初なり、世



法とも他院の主僧に越けれハなり、「合考」云、行者長周往年語云、國師の在住の頃迄ハ、今裏門の堂の前迄板を一筋敷つゞけて返路としたりと云々、内方丈の巽天光院唯一宇、萱葺にて田の中に有之候、是人沼ゆへ

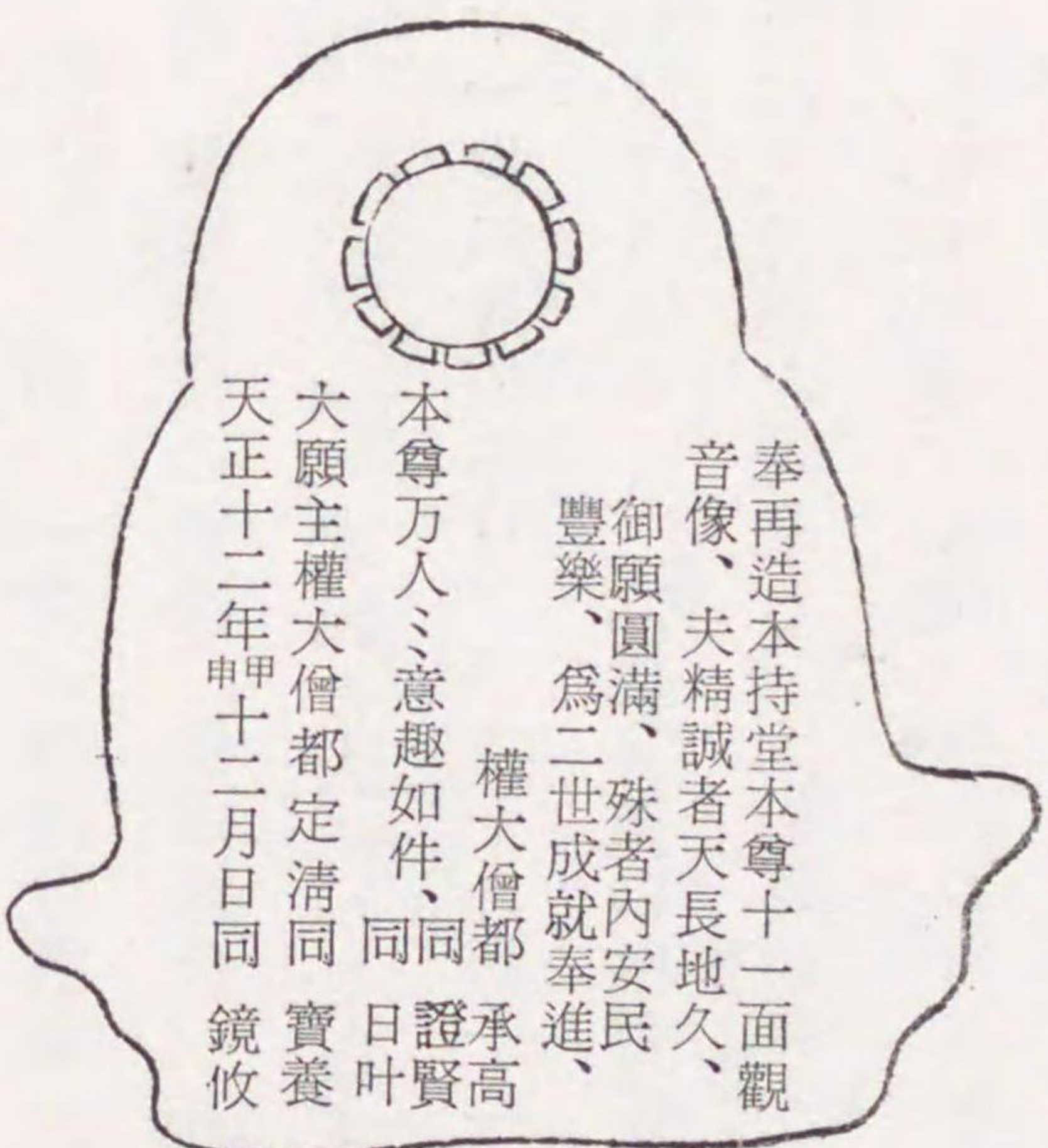
十一面觀音

〔新編武藏風土記稿〕

六十九 埼玉郡之十五 熊野白山合社

十一面觀音 長二尺五寸

裏圖



〔新編武藏風土記稿〕

二十五 都筑郡之四 吉田村 淨流寺

地藏堂

鐘樓ノナラヒニアリ、二間四方ノ堂ナリ、地藏ハ木ノ坐像ニテ長五尺餘、天正十二年十一月起立ノ堂ナリトイフ、

淨流寺地藏堂 天正十二年十一月建立

下總大嚴寺ノ住持安譽淨土宗ノ奥義ヲ泰崇ニ傳授ス

〔末代念佛授手印抄〕

○下總大嚴寺所藏

右眞宗之祕典令讓與泰崇畢、

虎角安譽（花押）

天正十二 甲曆仲冬望日

右一宗淨土之奥義令授與泰崇畢、

虎角安譽（花押）

天正十二 甲年霜月十五日

〔難遂往義〕

○下總大嚴寺所藏

右眞門之奥旨令授與泰崇畢、

虎角安譽（花押）

天正十二 甲曆仲冬望日

〔常陸遺文〕

一加倉井妙德寺棟札寫

立二尺五寸、横八寸七分、

天正十二年雜載

常陸加倉井妙德寺棟札



實相院日延

○表  
大導師實相院日延

常州中野西郡加倉井妙德寺宗算、次造立之次第、檐造立了、新立、天正十二年甲申正月十

二日<sup>申</sup>時

一上葺三月十六日 御勸進眞俗

題目

異體同心之

一入佛卯月五日巳時 人數方々

本寺御代日典上人

江戸重通

守護重通代(註)

式部卿日妙

一本式部卿日妙大字ニテ本寺トナラフ、十乘坊已下ハソレヨリ一字サガレリ、ヨロシ、守護重通代ノ五字ハ本寺ト式部トノ間ニ一字サグテアリ、コレモヨロシ、朝久・重久ハ後ノ書入ト見エタリ、加倉井氏ノ所爲ト見ユ、

宇留野源太郎

十乘坊宇妙經寺

宇留野源太郎殿

加倉井讚岐守内儀

大乘律師

大旦那

同息女千代女

加倉井朝久

泉陽坊

加倉井与三郎殿 朝久

同(色カ)千代女

加倉井重久

妙法坊

加倉井讚岐守殿 重久

同増女・巳之女(二本)・藏之女(二本)

六位阿

同淡路守殿

成澤 同増女・巳之女・藏之女  
下村加倉井小馬女

台圓阿

南  
同三郎左衛門殿

加倉井四郎衛門内儀

正承阿

同四郎衛門殿

水戸讚岐女

柳橋大學助

秀藏坊

柳橋大學助殿ヤチキ

同所あさゝ女

宇垣伊賀守

大經阿

加倉井源三郎殿

同ふんこ女よもきた

千行阿

宇垣伊賀守殿

加倉井善七郎

大蓮阿

安土備前守殿同二本息女千代壽

鹿野常慶入道

宰相公

加倉井宗衛門殿

石澤丹後守内儀

後藤讚岐守

學陽公

同勘ヶ由殿

後藤讚岐守

慶陽阿

同大藏殿成澤

隨洗齋入道のたの

大進公

同馬助殿

加倉井新三郎あふらり

是經二位

同馬助殿

大高大學助

加倉井筑後守女

是經二位

同馬助殿

加倉井筑後守息女

玄陽文啓公

同馬助殿

大内馬助

玄陽文啓公

同馬助殿

綿引隼人